

屋久島町 男女共同参画に関する
住民意識アンケート調査
【結果報告書】

令和7年度

屋久島町

【目次】

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の実施要領	1
3 調査結果利用上の注意	1
第2章 調査結果	2
1 基本属性	2
2 男女の地位に関する考え方	7
3 地域や働き方について	19
4 男女間の暴力について	35
5 男女共同参画について	57

第1章 調査の概要

1 調査の目的

「第2次屋久島町男女共同参画基本計画」の策定にあたり、地域の男女共同参画をめぐる実態を把握し計画策定の基礎資料として活用することを目的として、屋久島町に在住する方を対象に男女共同参画に関する考え方等をうかがう「屋久島町 男女共同参画に関する住民アンケート調査」を実施しました。

2 調査の実施要領

調査種別	調査対象者	調査手法	回答件数
住民意識調査	屋久島町に在住する 18 歳以上の住民 3,000 名	郵送での調査票の 配付・回収、 WEBでの回答	28.9% 868 件/3,000 件

※1問以上回答があったものを有効回答とした。

3 調査結果利用上の注意

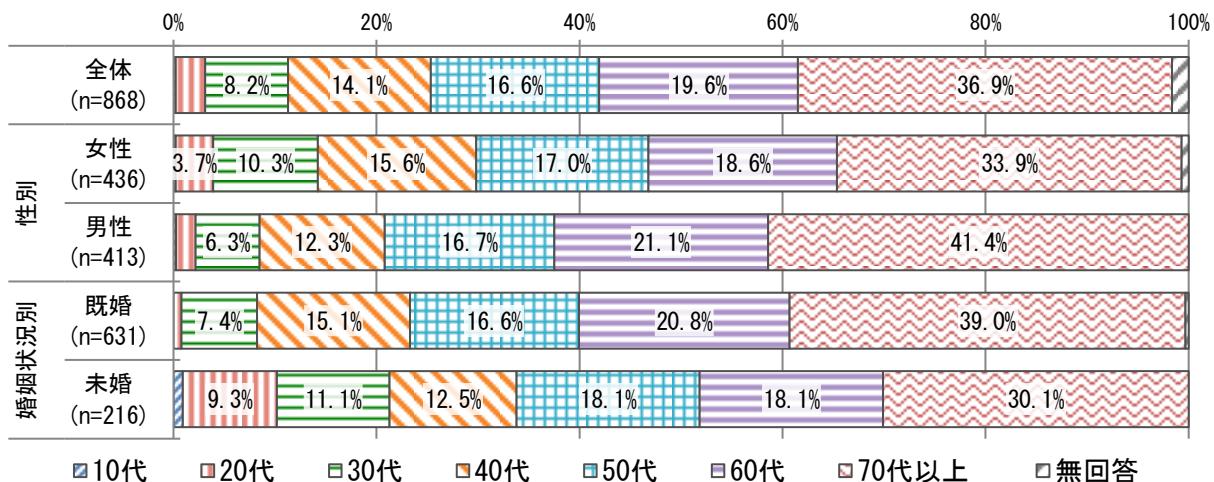
- 回答割合は百分比の小数点第2位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。
- 2つ以上回答が可能な設問（複数回答設問）の場合、その回答割合の合計は 100%を超える場合があります。
- グラフでは、3.0%未満の項目についてはラベルを省略している場合があります。
- 集計表については、全体（単純集計）と比較して、10 ポイント以上高いものを赤で、10 ポイント以上低いものを青で、それぞれ塗りつぶしています。

第2章 調査結果

1 基本属性

問1 あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)

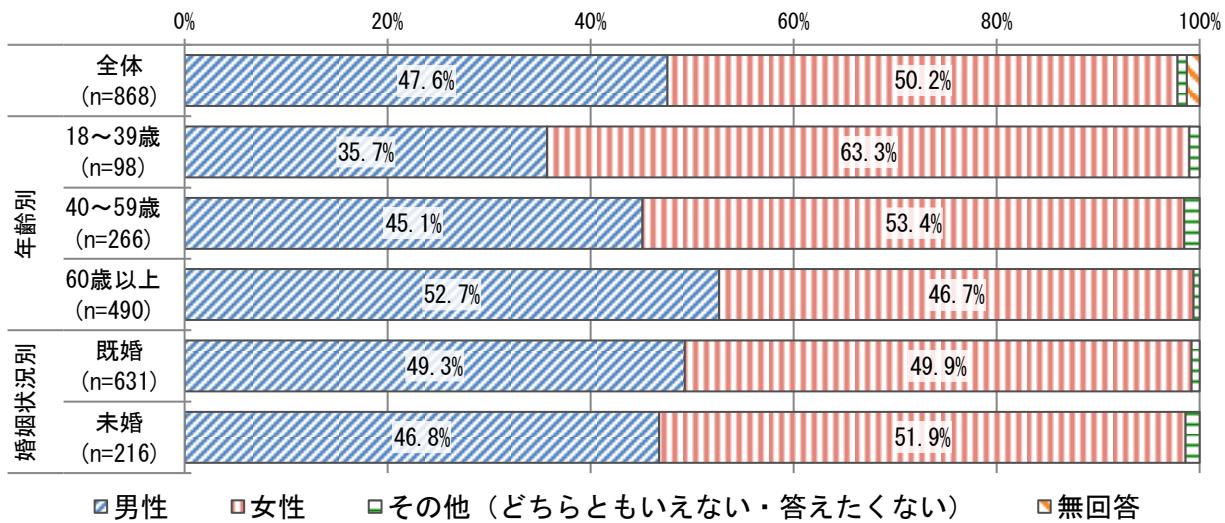
「70代以上」が36.9%と最も高く、次いで「60代」が19.6%、「50代」が16.6%となっています。



性別	年齢	単純集計		性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別					
		性別		年齢		年齢		年齢		婚姻状況別		年齢		年齢		
		女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258			
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
10代		2	1	1	2	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0
		0.2%	0.2%	0.2%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.5%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代		25	16	8	25	0	0	5	20	16	8	0	0	0	0	0
		2.9%	3.7%	1.9%	25.5%	0.0%	0.0%	0.8%	9.3%	7.8%	5.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30代		71	45	26	71	0	0	47	24	45	26	0	0	0	0	0
		8.2%	10.3%	6.3%	72.4%	0.0%	0.0%	7.4%	11.1%	22.1%	16.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40代		122	68	51	0	122	0	95	27	68	51	0	0	0	0	0
		14.1%	15.6%	12.3%	0.0%	45.9%	0.0%	15.1%	12.5%	33.3%	32.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50代		144	74	69	0	144	0	105	39	74	69	0	0	0	0	0
		16.6%	17.0%	16.7%	0.0%	54.1%	0.0%	16.6%	18.1%	36.3%	44.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
60代		170	81	87	0	0	170	131	39	0	0	81	87			
		19.6%	18.6%	21.1%	0.0%	0.0%	34.7%	20.8%	18.1%	0.0%	0.0%	35.4%	33.7%			
70代以上		320	148	171	0	0	320	246	65	0	0	148	171			
		36.9%	33.9%	41.4%	0.0%	0.0%	65.3%	39.0%	30.1%	0.0%	0.0%	64.6%	66.3%			
無回答		14	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0			
		1.6%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			

問2 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

「男性」が47.6%、「女性」が50.2%、「その他(どちらともいえない・答えたたくない)」が0.9%となっています。

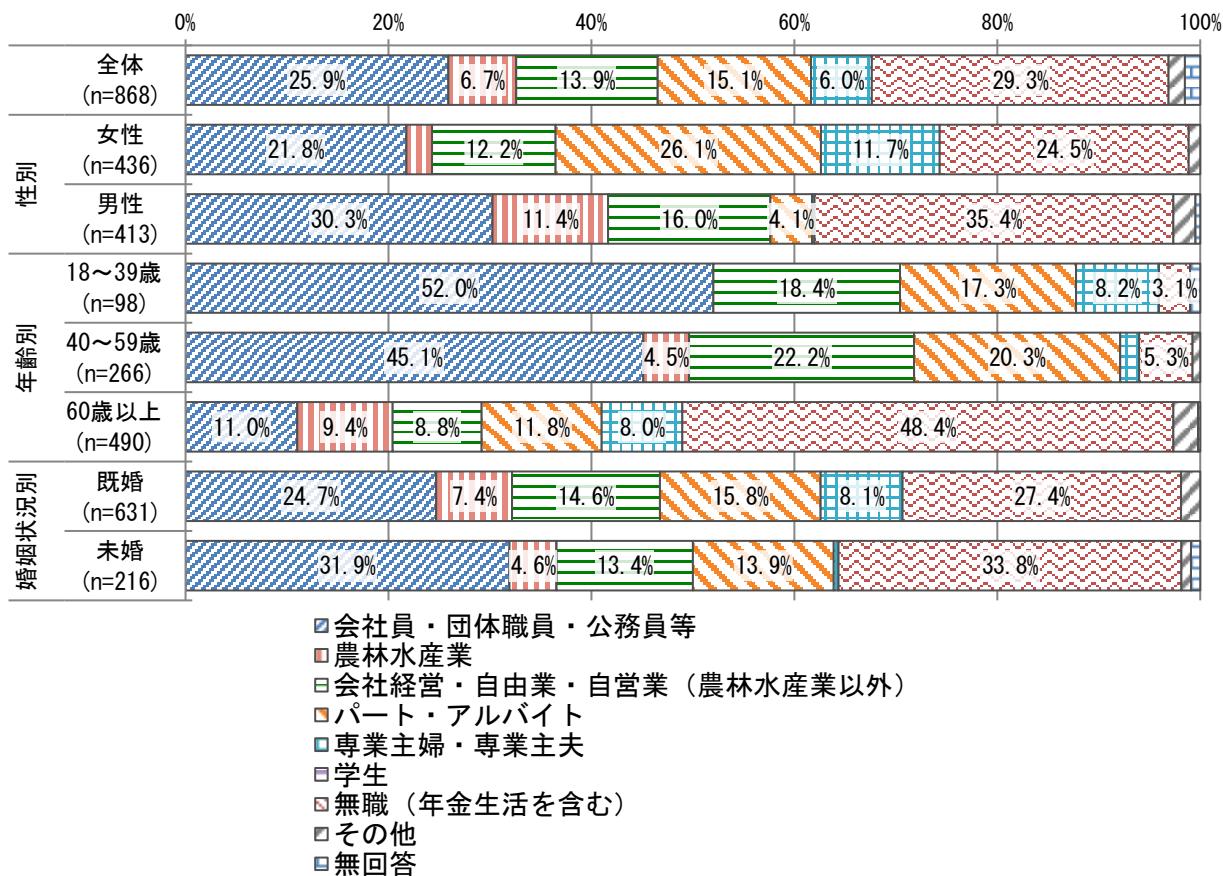


□男性 □女性 □その他(どちらともいえない・答えたたくない) □無回答

	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		全體	女性	男性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	既婚	未婚	18～59歳女性	18～59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男性		413	0	413	35	120	258	311	101	0	155	0	258
		47.6%	0.0%	100.0%	35.7%	45.1%	52.7%	49.3%	46.8%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性		436	436	0	62	142	229	315	112	204	0	229	0
		50.2%	100.0%	0.0%	63.3%	53.4%	46.7%	49.9%	51.9%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
その他(どちらともいえない・答えたたくない)		8	0	0	1	4	3	5	3	0	0	0	0
		0.9%	0.0%	0.0%	1.0%	1.5%	0.6%	0.8%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答		11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問3 あなたの職業についてお答えください。(○は1つ)

「無職（年金生活を含む）」が29.3%と最も高く、次いで「会社員・団体職員・公務員等」が25.9%、「パート・アルバイト」が15.1%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
会社員・団体職員・公務員等		225	95	125	51	120	54	156	69	77	90	18	35
		25.9%	21.8%	30.3%	52.0%	45.1%	11.0%	24.7%	31.9%	37.7%	58.1%	7.9%	13.6%
農林水産業		58	11	47	0	12	46	47	10	3	9	8	38
		6.7%	2.5%	11.4%	0.0%	4.5%	9.4%	7.4%	4.6%	1.5%	5.8%	3.5%	14.7%
会社経営・自由業・自営業(農林水産業以外)		121	53	66	18	59	43	92	29	39	37	13	29
		13.9%	12.2%	16.0%	18.4%	22.2%	8.8%	14.6%	13.4%	19.1%	23.9%	5.7%	11.2%
パート・アルバイト		131	114	17	17	54	58	100	30	64	7	48	10
		15.1%	26.1%	4.1%	17.3%	20.3%	11.8%	15.8%	13.9%	31.4%	4.5%	21.0%	3.9%
専業主婦・専業主夫		52	51	1	8	5	39	51	1	13	0	38	1
		6.0%	11.7%	0.2%	8.2%	1.9%	8.0%	8.1%	0.5%	6.4%	0.0%	16.6%	0.4%
学生		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無職(年金生活を含む)		254	107	146	3	14	237	173	73	8	9	99	137
		29.3%	24.5%	35.4%	3.1%	5.3%	48.4%	27.4%	33.8%	3.9%	5.8%	43.2%	53.1%
その他		14	5	9	0	2	12	12	2	0	2	5	7
		1.6%	1.1%	2.2%	0.0%	0.8%	2.4%	1.9%	0.9%	0.0%	1.3%	2.2%	2.7%
無回答		13	0	2	1	0	1	0	2	0	1	0	1
		1.5%	0.0%	0.5%	1.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.6%	0.0%	0.4%

■ その他の内容

僧侶

大工

ガイド

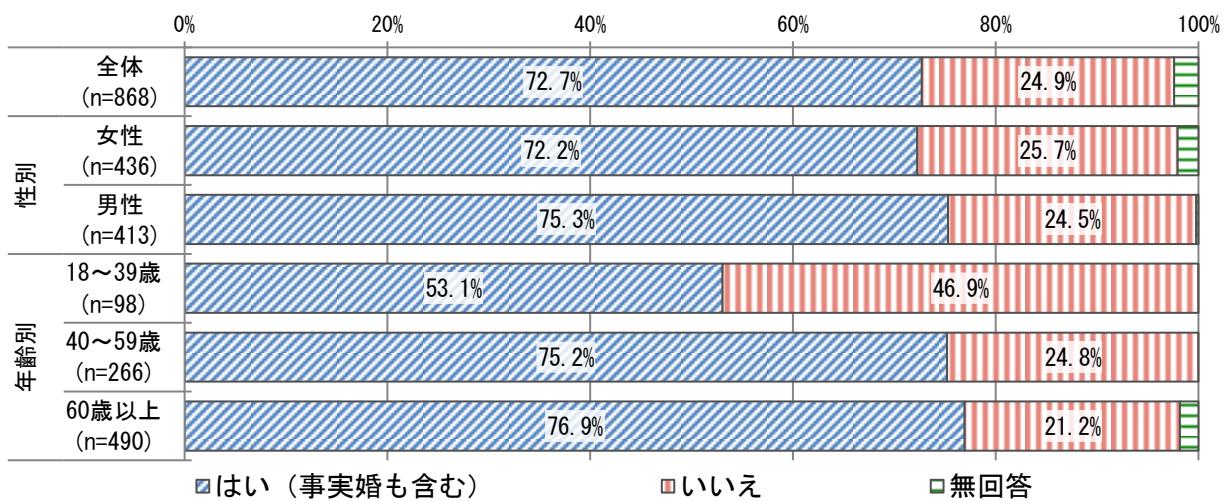
自治会役員

団体役員

観光業

問4 あなたは現在結婚していますか。(○は1つ)

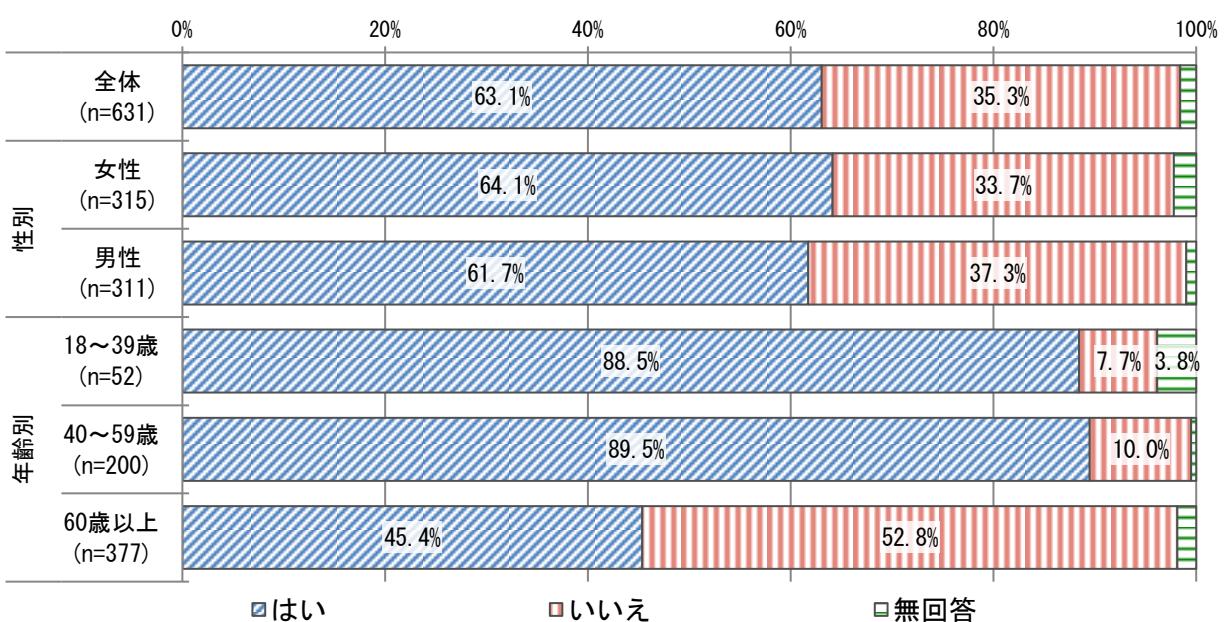
「はい(事実婚も含む)」が72.7%、「いいえ」が24.9%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		全体会	女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
サンプル数	868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
はい(事実婚も含む)	631	315	311	52	200	377	631	0	147	102	166	209	
	72.7%	72.2%	75.3%	53.1%	75.2%	76.9%	100.0%	0.0%	72.1%	65.8%	72.5%	81.0%	
いいえ	216	112	101	46	66	104	0	216	57	53	55	48	
	24.9%	25.7%	24.5%	46.9%	24.8%	21.2%	0.0%	100.0%	27.9%	34.2%	24.0%	18.6%	
無回答	21	9	1	0	0	9	0	0	0	0	8	1	
	2.4%	2.1%	0.2%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.5%	0.4%	

問5 配偶者・パートナーがいらっしゃる方におたずねします。 配偶者・パートナーは就業されていますか。(○は1つ)

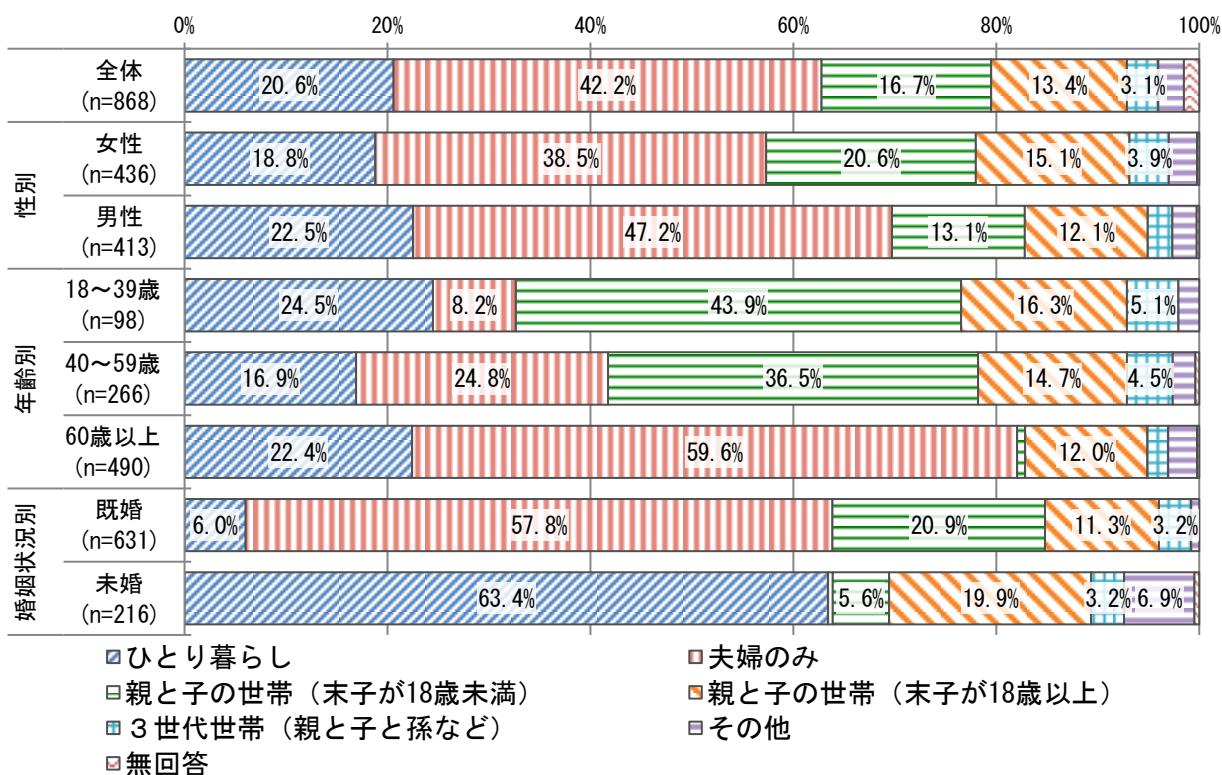
「はい」が63.1%、「いいえ」が35.3%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		全体	女性	男性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	既婚	未婚	18～59歳女性	18～59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
サンプル数		631	315	311	52	200	377	631	0	147	102	166	209
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
はい		398	202	192	46	179	171	398	0	137	85	63	107
		63.1%	64.1%	61.7%	88.5%	89.5%	45.4%	63.1%	—	93.2%	83.3%	38.0%	51.2%
いいえ		223	106	116	4	20	199	223	0	8	16	98	100
		35.3%	33.7%	37.3%	7.7%	10.0%	52.8%	35.3%	—	5.4%	15.7%	59.0%	47.8%
無回答		10	7	3	2	1	7	10	0	2	1	5	2
		1.6%	2.2%	1.0%	3.8%	0.5%	1.9%	1.6%	—	1.4%	1.0%	3.0%	1.0%

問6 あなたの世帯の状況は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

「夫婦のみ」が42.2%と最も高く、次いで「ひとり暮らし」が20.6%、「親と子の世帯（末子が18歳未満）」が16.7%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		全体	女性	男性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	既婚	未婚	18～59歳女性	18～59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
ひとり暮らし		179	82	93	24	45	110	38	137	24	42	58	51
		20.6%	18.8%	22.5%	24.5%	16.9%	22.4%	6.0%	63.4%	11.8%	27.1%	25.3%	19.8%
夫婦のみ		366	168	195	8	66	292	365	1	43	30	125	165
		42.2%	38.5%	47.2%	8.2%	24.8%	59.6%	57.8%	0.5%	21.1%	19.4%	54.6%	64.0%
親と子の世帯(末子が18歳未満)		145	90	54	43	97	4	132	12	88	51	1	3
		16.7%	20.6%	13.1%	43.9%	36.5%	0.8%	20.9%	5.6%	43.1%	32.9%	0.4%	1.2%
親と子の世帯(末子が18歳以上)		116	66	50	16	39	59	71	43	32	23	32	27
		13.4%	15.1%	12.1%	16.3%	14.7%	12.0%	11.3%	19.9%	15.7%	14.8%	14.0%	10.5%
3世代世帯(親と子と孫など)		27	17	10	5	12	10	20	7	13	4	4	6
		3.1%	3.9%	2.4%	5.1%	4.5%	2.0%	3.2%	3.2%	6.4%	2.6%	1.7%	2.3%
その他		22	12	10	2	6	14	5	15	4	4	8	6
		2.5%	2.8%	2.4%	2.0%	2.3%	2.9%	0.8%	6.9%	2.0%	2.6%	3.5%	2.3%
無回答		13	1	1	0	1	1	0	1	0	1	1	0
		1.5%	0.2%	0.2%	0.0%	0.4%	0.2%	0.0%	0.5%	0.0%	0.6%	0.4%	0.0%

■ その他の内容

- ◇兄弟姉妹（同回答複数）
- ◇下宿
- ◇祖父と孫
- ◇パートナー
- ◇共同生活

2 男女の地位に関する考え方

あなたは、次のような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。
問7 (①～⑦のそれぞれに○を1つ)

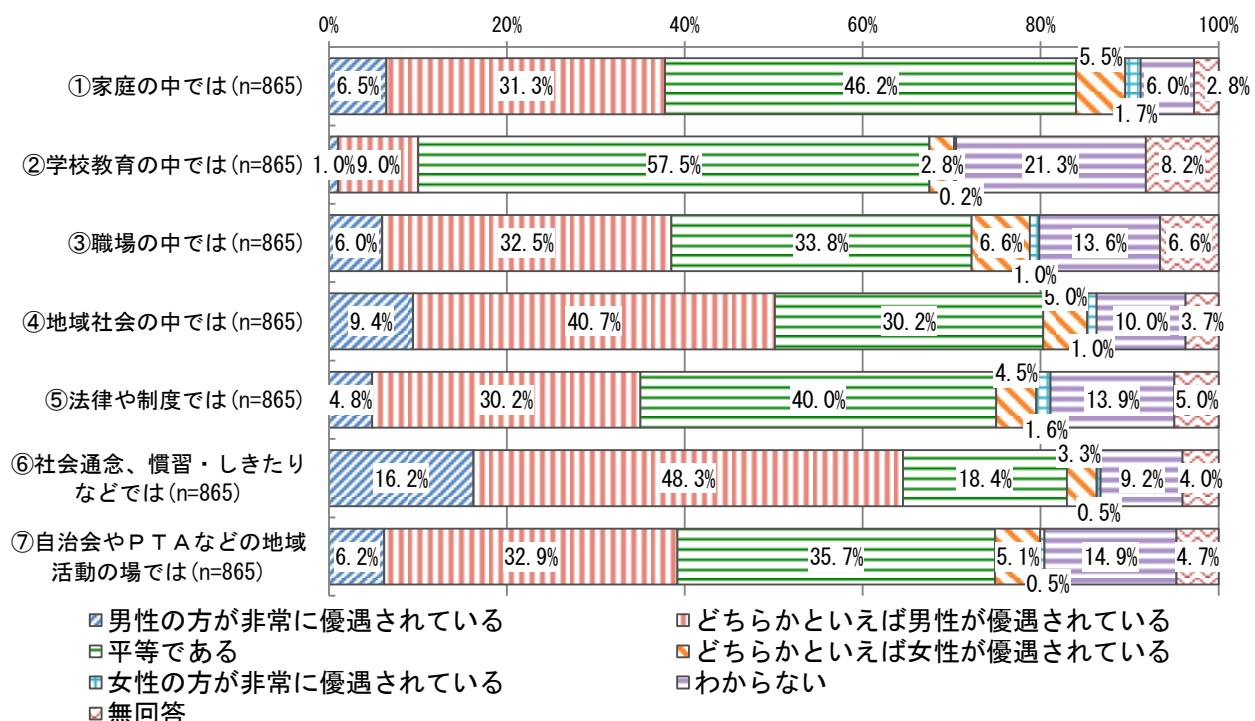
『③職場の中では』、『④地域社会の中では』、『⑥社会通念、慣習・しきたりなどでは』、『⑦自治会やPTAなど地域活動の場では』の4項目で「男性優遇」の割合が、『①家庭の中では』、『②学校教育の中では』、『⑤法律や制度では』の3項目で「平等」の割合が、それぞれ高くなっています。

特に、『⑥社会通念、慣習・しきたりなどでは』で「男性優遇」が64.5%、『④地域社会の中では』で50.1%と、この2分野については過半数の人が男性が優遇されていると考えています。

また、『②学校教育の中では』で、「平等」が57.5%、「わからない」が21.3%となっており、「わからない」の割合が他の項目よりも高いものの、過半数の人が平等であると考えています。

※「男性優遇」：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計

「女性優遇」：「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計



前回調査と比較すると、「平等」の割合が、『①家庭の中では』、『③職場の中では』、『④地域社会の中では』、『⑥社会通念、慣習・しきたりなどでは』の4項目で前回よりも7～8ポイント程度増加しています。

また、『②学校教育の中では』では「平等」が10.6ポイント減（前回68.1%、今回57.5%）、「わからない」が8.7ポイント増（前回12.6%、今回21.3%）と、「平等」が減少し「分からぬ」と考える人が増加しています。

鹿児島県調査と比較すると、『②学校教育の中では』を除く5項目で、屋久島町は「平等」の割合が県を上回り、「男性優遇」の割合が下回っています。

①、③、④、⑤、⑥の5項目で「男性優遇」が3～6割台と依然として高いものの、前回調査より「男性優遇」は減少、「平等」は増加の傾向にあります。

また、全体として鹿児島県平均よりは良好な状況となっています。

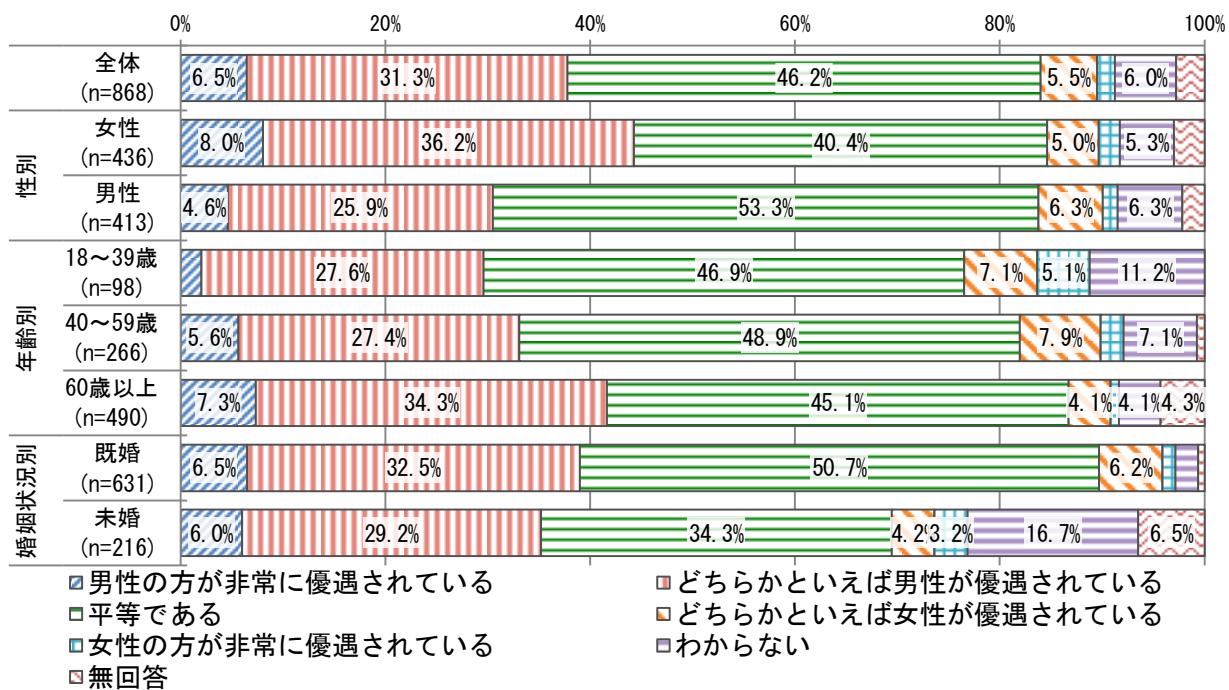
■前回調査、鹿児島県との比較

	調査	男性優遇	平等	女性優遇	前回比
①家庭の中では	屋久島町今回調査	37.8%	46.2%	7.2%	「平等」の割合 前回より 8.6pt 増
	前回調査	52.9%	37.6%	4.8%	
	鹿児島県調査	44.7%	42.8%	4.8%	
②学校教育の中では	屋久島町今回調査	10.0%	57.5%	3.0%	「平等」の割合 前回より 10.6pt 減
	前回調査	12.9%	68.1%	4.9%	
	鹿児島県調査	13.1%	57.9%	2.6%	
③職場の中では	屋久島町今回調査	38.5%	33.8%	7.6%	「平等」の割合 前回より 7.5pt 増
	前回調査	55.5%	26.3%	9.7%	
	鹿児島県調査	49.3%	27.6%	6.3%	
④地域社会の中では	屋久島町今回調査	50.1%	30.2%	6.0%	「平等」の割合 前回より 8.0pt 増
	前回調査	60.1%	22.2%	7.5%	
	鹿児島県調査	53.2%	27.2%	4.5%	
⑤法律や制度では	屋久島町今回調査	35.0%	40.0%	6.1%	「平等」の割合 前回より 1.7pt 減
	前回調査	32.0%	41.7%	12.6%	
	鹿児島県調査	38.8%	34.9%	5.8%	
⑥社会通念、慣習・しきたりなどでは	屋久島町今回調査	64.5%	18.4%	3.8%	「平等」の割合 前回より 7.1pt 増
	前回調査	74.9%	11.3%	3.7%	
	鹿児島県調査	68.9%	15.1%	2.1%	

※「⑦自治会やPTAなど地域活動の場では」は前回調査及び鹿児島県調査では調査していない。

問7① 家庭の中では

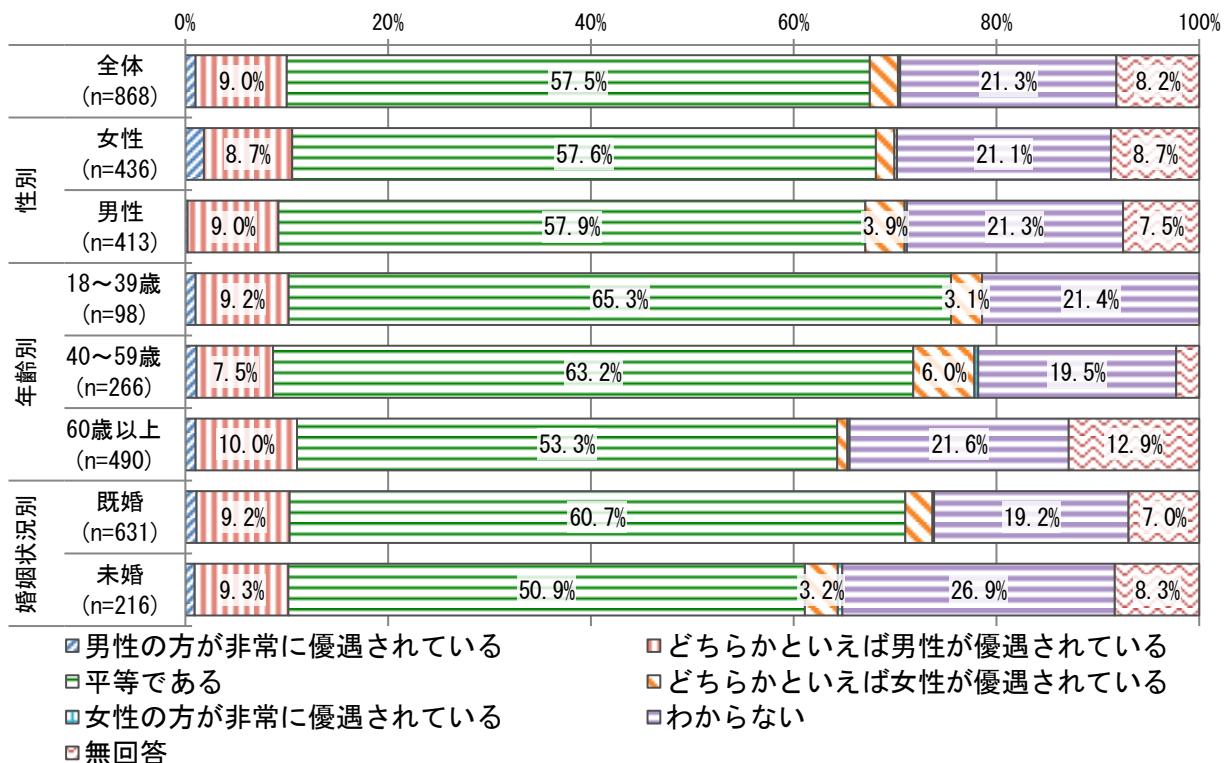
「平等である」が46.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が31.3%、「男性の方が非常に優遇されている」が6.5%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別					
		全般	女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男性の方が非常に優遇されている		56	35	19	2	15	36	41	13	15	2	19	17	
		6.5%	8.0%	4.6%	2.0%	5.6%	7.3%	6.5%	6.0%	7.4%	1.3%	8.3%	6.6%	
どちらかといえば男性が優遇されている		272	158	107	27	73	168	205	63	65	34	93	73	
		31.3%	36.2%	25.9%	27.6%	27.4%	34.3%	32.5%	29.2%	31.9%	21.9%	40.6%	28.3%	
平等である		401	176	220	46	130	221	320	74	88	86	86	134	
		46.2%	40.4%	53.3%	46.9%	48.9%	45.1%	50.7%	34.3%	43.1%	55.5%	37.6%	51.9%	
どちらかといえば女性が優遇されている		48	22	26	7	21	20	39	9	15	13	7	13	
		5.5%	5.0%	6.3%	7.1%	7.9%	4.1%	6.2%	4.2%	7.4%	8.4%	3.1%	5.0%	
女性の方が非常に優遇されている		15	9	6	5	6	4	8	7	6	5	3	1	
		1.7%	2.1%	1.5%	5.1%	2.3%	0.8%	1.3%	3.2%	2.9%	3.2%	1.3%	0.4%	
わからない		52	23	26	11	19	20	14	36	14	15	9	11	
		6.0%	5.3%	6.3%	11.2%	7.1%	4.1%	2.2%	16.7%	6.9%	9.7%	3.9%	4.3%	
無回答		24	13	9	0	2	21	4	14	1	0	12	9	
		2.8%	3.0%	2.2%	0.0%	0.8%	4.3%	0.6%	6.5%	0.5%	0.0%	5.2%	3.5%	

問7② 学校教育の中では

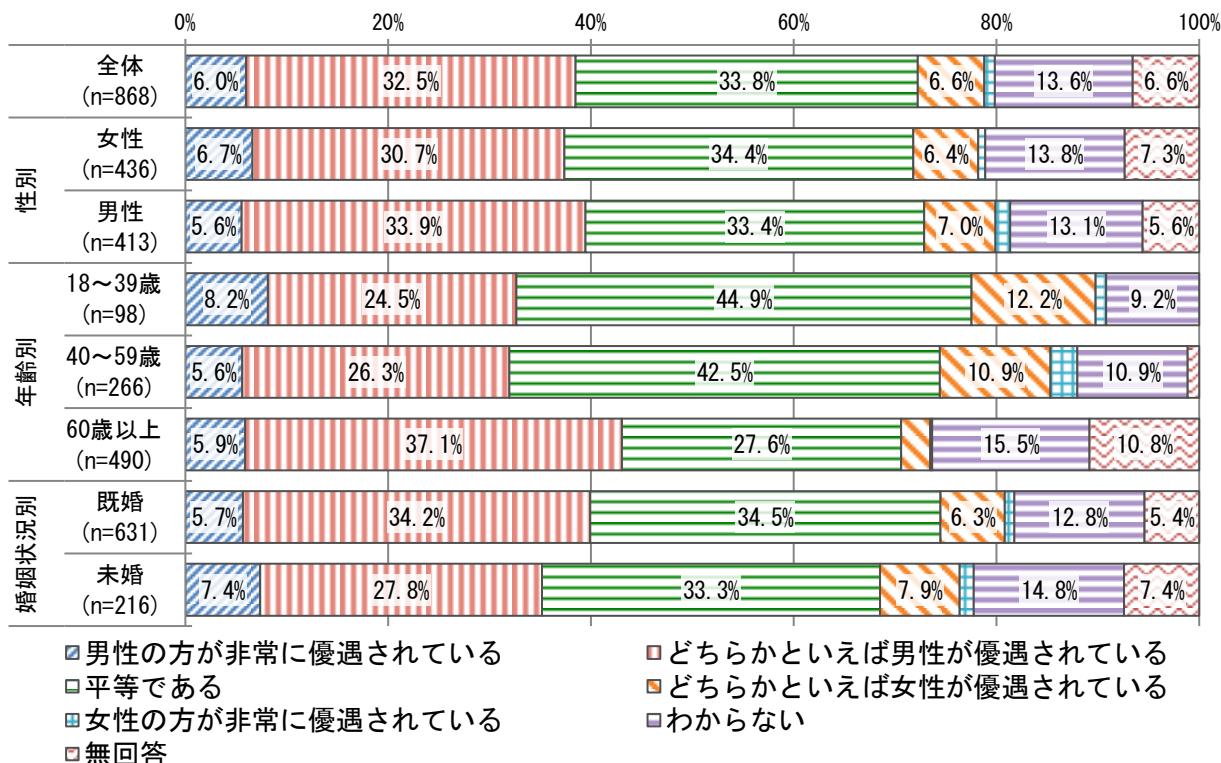
「平等である」が57.5%と最も高く、次いで「わからない」が21.3%、「どちらかといえば男性が優遇されている」が9.0%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		女性	男性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	既婚	未婚	18～59歳女性	18～59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男性の方が非常に優遇されている		9	8	1	1	3	5	7	2	4	0	4	1
		1.0%	1.8%	0.2%	1.0%	1.1%	1.0%	1.1%	0.9%	2.0%	0.0%	1.7%	0.4%
どちらかといえば男性が優遇されている		78	38	37	9	20	49	58	20	18	10	20	27
		9.0%	8.7%	9.0%	9.2%	7.5%	10.0%	9.2%	9.3%	8.8%	6.5%	8.7%	10.5%
平等である		499	251	239	64	168	261	383	110	134	95	116	144
		57.5%	57.6%	57.9%	65.3%	63.2%	53.3%	60.7%	50.9%	65.7%	61.3%	50.7%	55.8%
どちらかといえば女性が優遇されている		24	8	16	3	16	5	17	7	8	11	0	5
		2.8%	1.8%	3.9%	3.1%	6.0%	1.0%	2.7%	3.2%	3.9%	7.1%	0.0%	1.9%
女性の方が非常に優遇されている		2	1	1	0	1	1	1	1	0	1	1	0
		0.2%	0.2%	0.2%	0.0%	0.4%	0.2%	0.2%	0.5%	0.0%	0.6%	0.4%	0.0%
わからない		185	92	88	21	52	106	121	58	37	36	54	52
		21.3%	21.1%	21.3%	21.4%	19.5%	21.6%	19.2%	26.9%	18.1%	23.2%	23.6%	20.2%
無回答		71	38	31	0	6	63	44	18	3	2	34	29
		8.2%	8.7%	7.5%	0.0%	2.3%	12.9%	7.0%	8.3%	1.5%	1.3%	14.8%	11.2%

問7③ 職場の中では

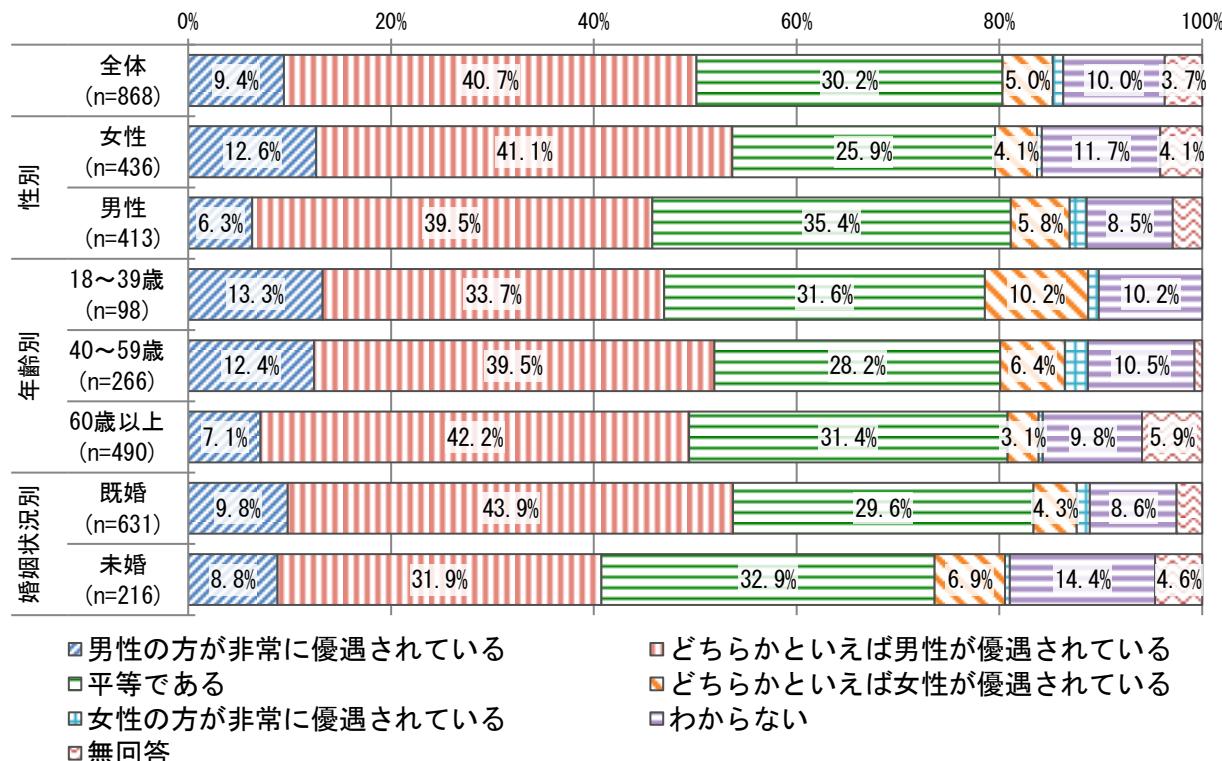
「平等である」が33.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が32.5%、「わからない」が13.6%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		全般	女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男性の方が非常に優遇されている		52	29	23	8	15	29	36	16	17	6	12	17
		6.0%	6.7%	5.6%	8.2%	5.6%	5.9%	5.7%	7.4%	8.3%	3.9%	5.2%	6.6%
どちらかといえば男性が優遇されている		282	134	140	24	70	182	216	60	51	42	82	98
		32.5%	30.7%	33.9%	24.5%	26.3%	37.1%	34.2%	27.8%	25.0%	27.1%	35.8%	38.0%
平等である		293	150	138	44	113	135	218	72	94	60	56	78
		33.8%	34.4%	33.4%	44.9%	42.5%	27.6%	34.5%	33.3%	46.1%	38.7%	24.5%	30.2%
どちらかといえば女性が優遇されている		57	28	29	12	29	14	40	17	18	23	8	6
		6.6%	6.4%	7.0%	12.2%	10.9%	2.9%	6.3%	7.9%	8.8%	14.8%	3.5%	2.3%
女性の方が非常に優遇されている		9	3	6	1	7	1	6	3	2	6	1	0
		1.0%	0.7%	1.5%	1.0%	2.6%	0.2%	1.0%	1.4%	1.0%	3.9%	0.4%	0.0%
わからない		118	60	54	9	29	76	81	32	21	17	39	37
		13.6%	13.8%	13.1%	9.2%	10.9%	15.5%	12.8%	14.8%	10.3%	11.0%	17.0%	14.3%
無回答		57	32	23	0	3	53	34	16	1	1	31	22
		6.6%	7.3%	5.6%	0.0%	1.1%	10.8%	5.4%	7.4%	0.5%	0.6%	13.5%	8.5%

問7④ 地域社会の中では

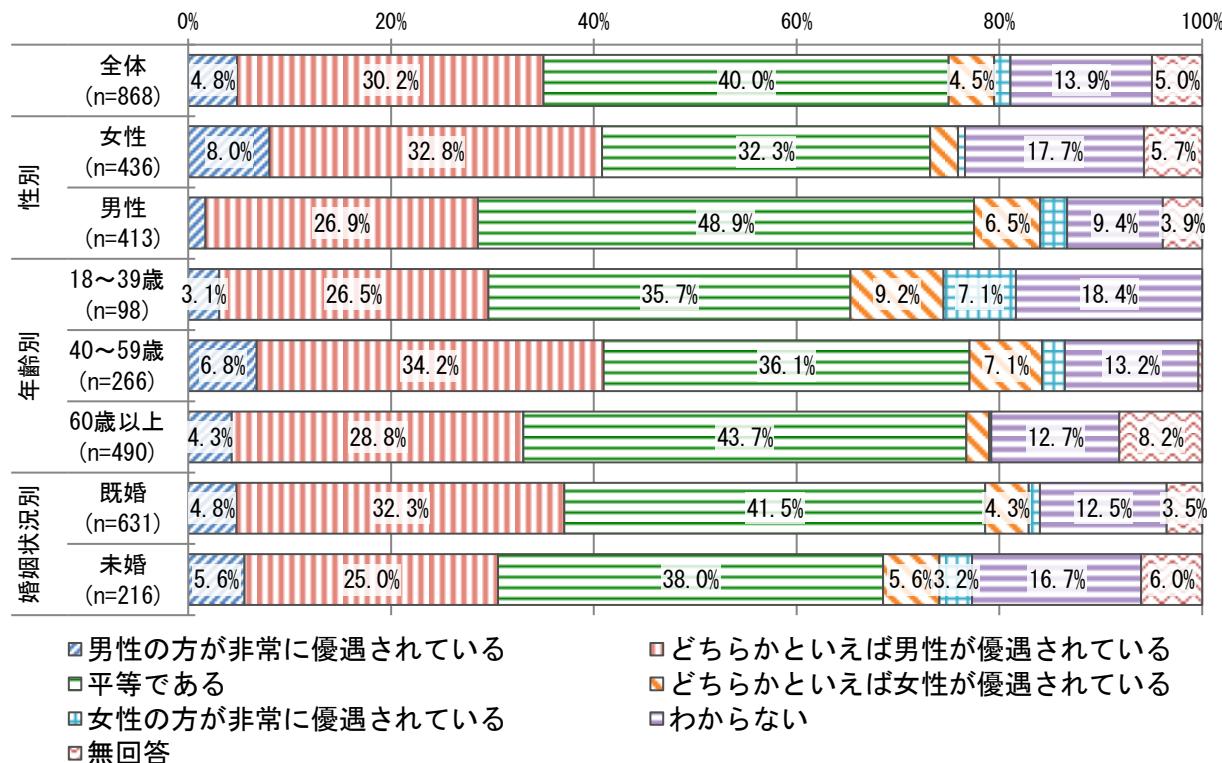
「どちらかといえば男性が優遇されている」が40.7%と最も高く、次いで「平等である」が30.2%、「わからない」が10.0%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男性の方が非常に優遇されている		82	55	26	13	33	35	62	19	37	9	18	17
		9.4%	12.6%	6.3%	13.3%	12.4%	7.1%	9.8%	8.8%	18.1%	5.8%	7.9%	6.6%
どちらかといえば男性が優遇されている		353	179	163	33	105	207	277	69	85	51	92	112
		40.7%	41.1%	39.5%	33.7%	39.5%	42.2%	43.9%	31.9%	41.7%	32.9%	40.2%	43.4%
平等である		262	113	146	31	75	154	187	71	50	54	62	92
		30.2%	25.9%	35.4%	31.6%	28.2%	31.4%	29.6%	32.9%	24.5%	34.8%	27.1%	35.7%
どちらかといえば女性が優遇されている		43	18	24	10	17	15	27	15	11	16	7	8
		5.0%	4.1%	5.8%	10.2%	6.4%	3.1%	4.3%	6.9%	5.4%	10.3%	3.1%	3.1%
女性の方が非常に優遇されている		9	2	7	1	6	2	8	1	1	6	1	1
		1.0%	0.5%	1.7%	1.0%	2.3%	0.4%	1.3%	0.5%	0.5%	3.9%	0.4%	0.4%
わからない		87	51	35	10	28	48	54	31	19	19	32	16
		10.0%	11.7%	8.5%	10.2%	10.5%	9.8%	8.6%	14.4%	9.3%	12.3%	14.0%	6.2%
無回答		32	18	12	0	2	29	16	10	1	0	17	12
		3.7%	4.1%	2.9%	0.0%	0.8%	5.9%	2.5%	4.6%	0.5%	0.0%	7.4%	4.7%

問7⑤ 法律や制度では

「平等である」が40.0%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が30.2%、「わからない」が13.9%となっています。



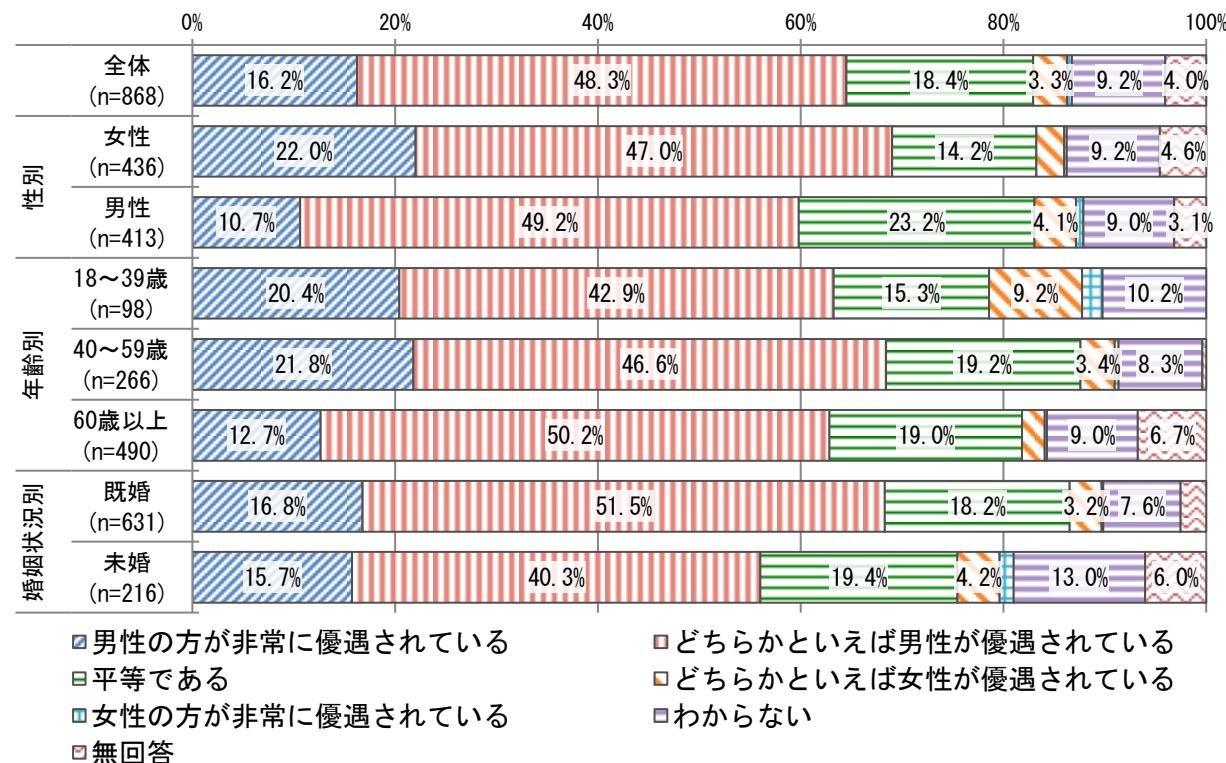
- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- 平等である
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

- どちらかといえば男性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- 平等である
- 男性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男性の方が非常に優遇されている		42	35	7	3	18	21	30	12	20	1	15	6
		4.8%	8.0%	1.7%	3.1%	6.8%	4.3%	4.8%	5.6%	9.8%	0.6%	6.6%	2.3%
どちらかといえば男性が優遇されている		262	143	111	26	91	141	204	54	76	39	67	72
		30.2%	32.8%	26.9%	26.5%	34.2%	28.8%	32.3%	25.0%	37.3%	25.2%	29.3%	27.9%
平等である		347	141	202	35	96	214	262	82	65	65	76	137
		40.0%	32.3%	48.9%	35.7%	36.1%	43.7%	41.5%	38.0%	31.9%	41.9%	33.2%	53.1%
どちらかといえば女性が優遇されている		39	12	27	9	19	11	27	12	7	21	5	6
		4.5%	2.8%	6.5%	9.2%	7.1%	2.2%	4.3%	5.6%	3.4%	13.5%	2.2%	2.3%
女性の方が非常に優遇されている		14	3	11	7	6	1	7	7	2	11	1	0
		1.6%	0.7%	2.7%	7.1%	2.3%	0.2%	1.1%	3.2%	1.0%	7.1%	0.4%	0.0%
わからない		121	77	39	18	35	62	79	36	34	18	41	21
		13.9%	17.7%	9.4%	18.4%	13.2%	12.7%	12.5%	16.7%	16.7%	11.6%	17.9%	8.1%
無回答		43	25	16	0	1	40	22	13	0	0	24	16
		5.0%	5.7%	3.9%	0.0%	0.4%	8.2%	3.5%	6.0%	0.0%	0.0%	10.5%	6.2%

問7⑥ 社会通念、慣習・しきたりなどでは

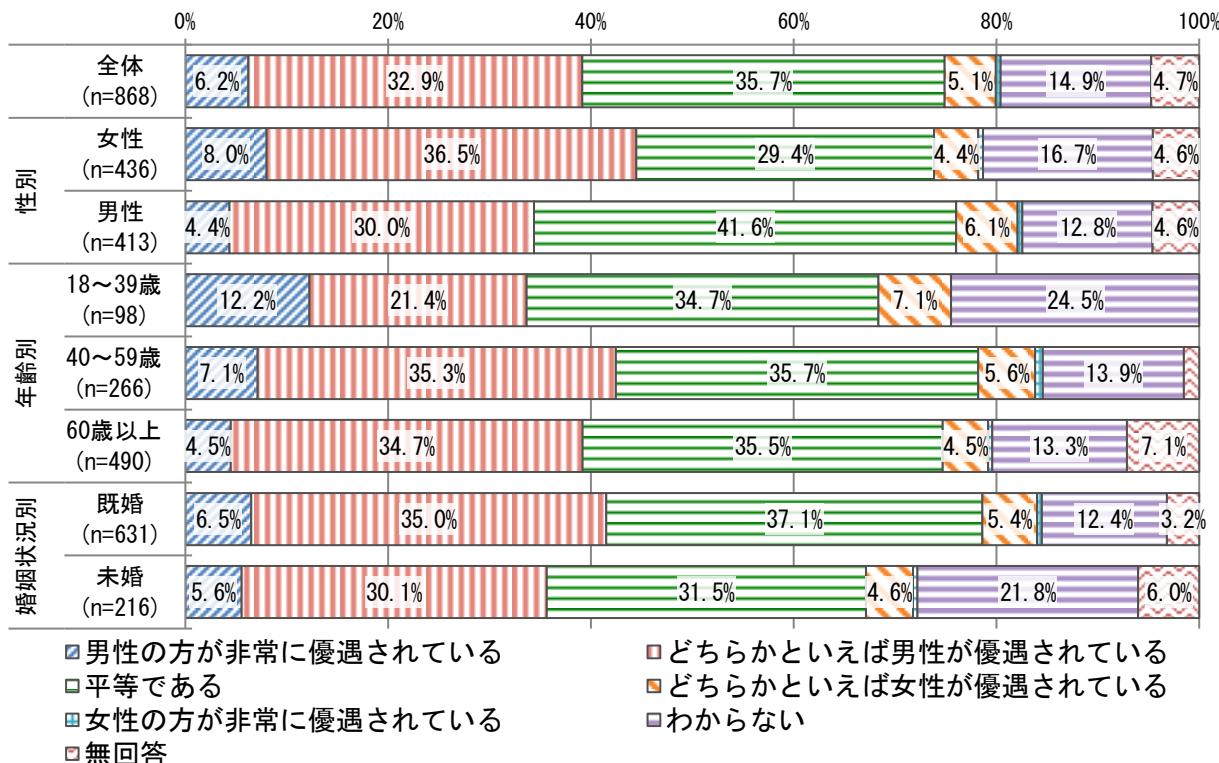
「どちらかといえば男性が優遇されている」が48.3%と最も高く、次いで「平等である」が18.4%、「男性の方が非常に優遇されている」が16.2%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男性の方が非常に優遇されている		141	96	44	20	58	62	106	34	58	20	38	24
		16.2%	22.0%	10.7%	20.4%	21.8%	12.7%	16.8%	15.7%	28.4%	12.9%	16.6%	9.3%
どちらかといえば男性が優遇されている		419	205	203	42	124	246	325	87	104	60	100	143
		48.3%	47.0%	49.2%	42.9%	46.6%	50.2%	51.5%	40.3%	51.0%	38.7%	43.7%	55.4%
平等である		160	62	96	15	51	93	115	42	25	39	36	57
		18.4%	14.2%	23.2%	15.3%	19.2%	19.0%	18.2%	19.4%	12.3%	25.2%	15.7%	22.1%
どちらかといえば女性が優遇されている		29	12	17	9	9	11	20	9	5	13	7	4
		3.3%	2.8%	4.1%	9.2%	3.4%	2.2%	3.2%	4.2%	2.5%	8.4%	3.1%	1.6%
女性の方が非常に優遇されている		4	1	3	2	1	1	1	3	0	3	1	0
		0.5%	0.2%	0.7%	2.0%	0.4%	0.2%	0.2%	1.4%	0.0%	1.9%	0.4%	0.0%
わからない		80	40	37	10	22	44	48	28	12	20	27	17
		9.2%	9.2%	9.0%	10.2%	8.3%	9.0%	7.6%	13.0%	5.9%	12.9%	11.8%	6.6%
無回答		35	20	13	0	1	33	16	13	0	0	20	13
		4.0%	4.6%	3.1%	0.0%	0.4%	6.7%	2.5%	6.0%	0.0%	0.0%	8.7%	5.0%

問7⑦ 自治会やPTAなどの地域活動の場では

「平等である」が35.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が32.9%、「わからない」が14.9%となっています。

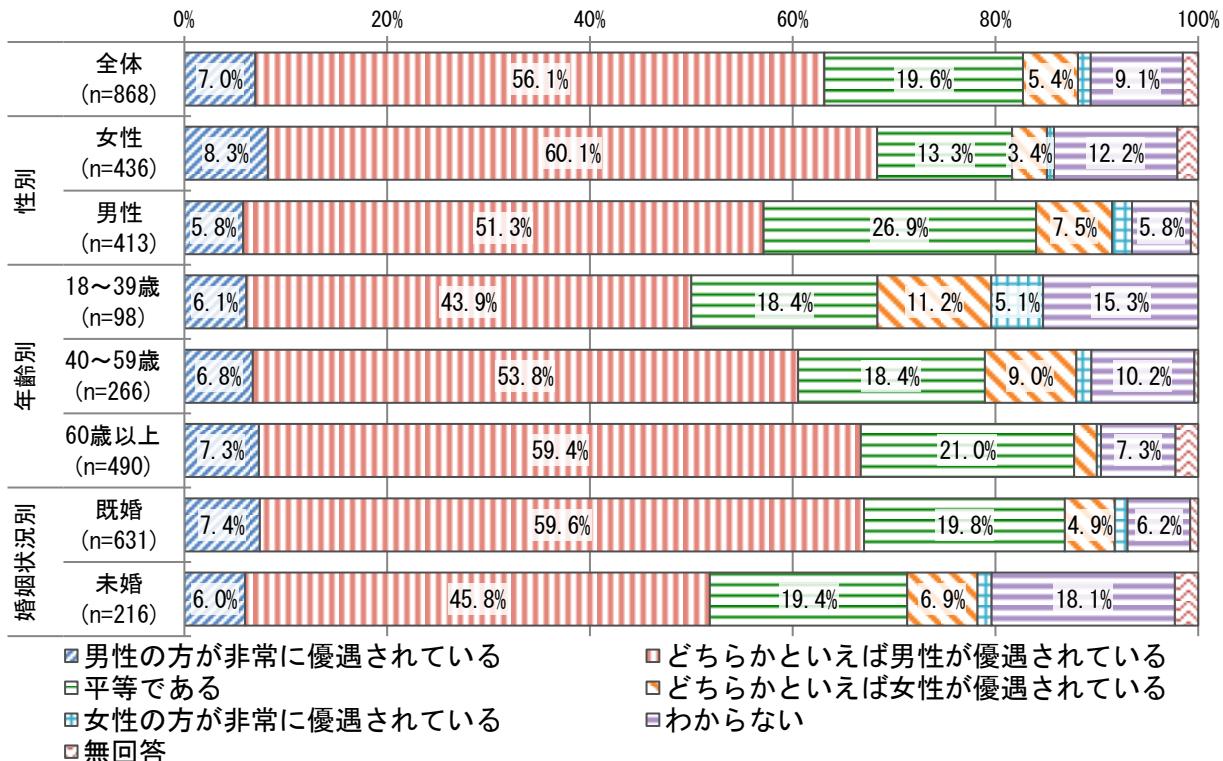


	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男性の方が非常に優遇されている		54	35	18	12	19	22	41	12	24	7	11	11
		6.2%	8.0%	4.4%	12.2%	7.1%	4.5%	6.5%	5.6%	11.8%	4.5%	4.8%	4.3%
どちらかといえば男性が優遇されている		286	159	124	21	94	170	221	65	76	38	82	86
		32.9%	36.5%	30.0%	21.4%	35.3%	34.7%	35.0%	30.1%	37.3%	24.5%	35.8%	33.3%
平等である		310	128	172	34	95	174	234	68	59	68	69	104
		35.7%	29.4%	41.6%	34.7%	35.7%	35.5%	37.1%	31.5%	28.9%	43.9%	30.1%	40.3%
どちらかといえば女性が優遇されている		44	19	25	7	15	22	34	10	11	11	8	14
		5.1%	4.4%	6.1%	7.1%	5.6%	4.5%	5.4%	4.6%	5.4%	7.1%	3.5%	5.4%
女性の方が非常に優遇されている		4	2	2	0	2	2	3	1	0	2	2	0
		0.5%	0.5%	0.5%	0.0%	0.8%	0.4%	0.5%	0.5%	0.0%	1.3%	0.9%	0.0%
わからない		129	73	53	24	37	65	78	47	33	27	39	26
		14.9%	16.7%	12.8%	24.5%	13.9%	13.3%	12.4%	21.8%	16.2%	17.4%	17.0%	10.1%
無回答		41	20	19	0	4	35	20	13	1	2	18	17
		4.7%	4.6%	4.6%	0.0%	1.5%	7.1%	3.2%	6.0%	0.5%	1.3%	7.9%	6.6%

問8

あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。(○は1つ)

「どちらかといえば男性が優遇されている」が 56.1%と最も高く、次いで「平等である」が 19.6%、「わからない」が 9.1%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		全体	女性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男性の方が非常に優遇されている		61	36	24	6	18	36	47	13	20	4	16	20
		7.0%	8.3%	5.8%	6.1%	6.8%	7.3%	7.4%	6.0%	9.8%	2.6%	7.0%	7.8%
どちらかといえば男性が優遇されている		487	262	212	43	143	291	376	99	118	65	141	147
		56.1%	60.1%	51.3%	43.9%	53.8%	59.4%	59.6%	45.8%	57.8%	41.9%	61.6%	57.0%
平等である		170	58	111	18	49	103	125	42	28	38	30	73
		19.6%	13.3%	26.9%	18.4%	18.4%	21.0%	19.8%	19.4%	13.7%	24.5%	13.1%	28.3%
どちらかといえば女性が優遇されている		47	15	31	11	24	11	31	15	9	26	6	5
		5.4%	3.4%	7.5%	11.2%	9.0%	2.2%	4.9%	6.9%	4.4%	16.8%	2.6%	1.9%
女性の方が非常に優遇されている		11	3	8	5	4	2	8	3	2	7	1	1
		1.3%	0.7%	1.9%	5.1%	1.5%	0.4%	1.3%	1.4%	1.0%	4.5%	0.4%	0.4%
わからない		79	53	24	15	27	36	39	39	26	15	27	9
		9.1%	12.2%	5.8%	15.3%	10.2%	7.3%	6.2%	18.1%	12.7%	9.7%	11.8%	3.5%
無回答		13	9	3	0	1	11	5	5	1	0	8	3
		1.5%	2.1%	0.7%	0.0%	0.4%	2.2%	0.8%	2.3%	0.5%	0.0%	3.5%	1.2%

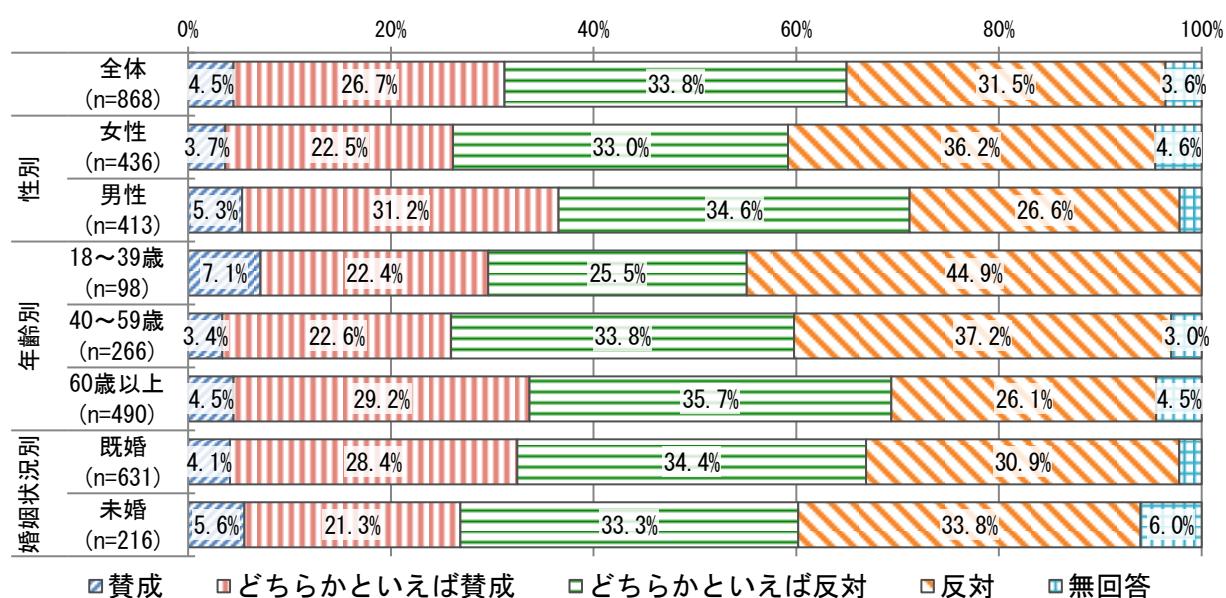
問9

あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どのようにお考えですか。(○は1つ)

「賛成」が4.5%、「どちらかといえば賛成」が26.7%、「どちらかといえば反対」が33.8%、「反対」が31.5%となっています。

年齢別でみると、年齢層が高いほど「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえば反対」の割合が高く、年齢層が低いほど「反対」の割合が高くなっています。

「賛成意見」（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）と「反対意見」（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）の割合についてみると、18~59歳女性、18~59歳男性、60歳以上女性の層では「賛成意見」が2割台、「反対意見」が7割前後となっているのに対し、60歳以上男性の層では「賛成意見」が41.0%、「反対意見」が56.2%と、他の層と比較して賛成する人の割合が高くなっています。



性別	年齢三区分別	単純集計		性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		全般		女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
		サンプル数	割合	サンプル数	割合	サンプル数	割合	サンプル数	割合	サンプル数	割合	サンプル数	割合	サンプル数	割合
賛成		39	4.5%	16	3.7%	22	5.3%	7	7.1%	9	3.4%	22	4.5%	12	2.6%
どちらかといえば賛成		232	26.7%	98	22.5%	129	31.2%	22	22.4%	60	22.6%	143	29.2%	179	28.4%
どちらかといえば反対		293	33.8%	144	33.0%	143	34.6%	25	25.5%	90	33.8%	175	35.7%	217	21.3%
反対		273	31.5%	158	36.2%	110	26.6%	44	44.9%	99	37.2%	128	26.1%	195	30.9%
無回答		31	3.6%	20	4.6%	9	2.2%	0	0.0%	8	3.0%	22	4.5%	14	2.2%

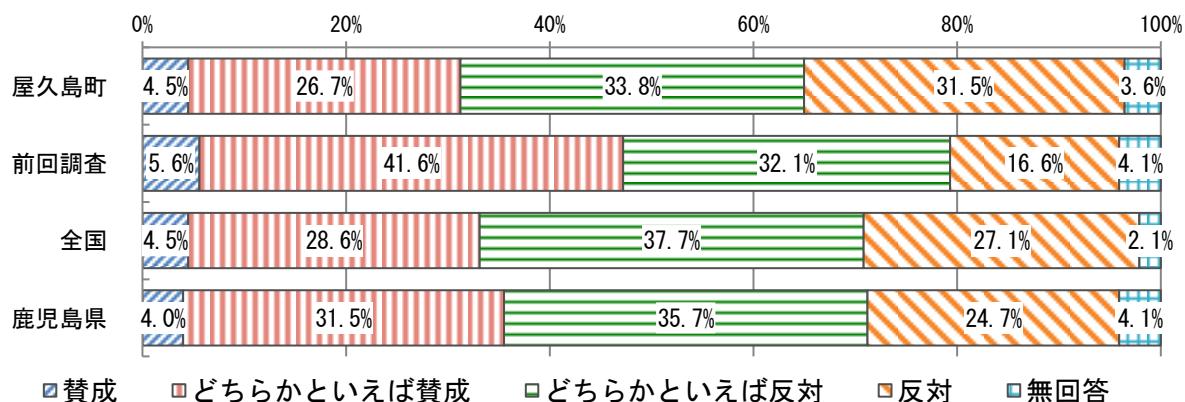
■賛成意見、反対意見の割合（年齢×性別）

	全体	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
賛成意見 (「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計)	31.2%	25.9%	29.0%	25.7%	41.0%
反対意見 (「反対」と「どちらかといえば反対」の合計)	65.3%	71.5%	69.7%	67.7%	56.2%

前回調査と比較すると、「どちらかといえば賛成」が前回調査より 14.9 ポイント減、「反対」が 14.9 ポイント増となっています。

賛成意見、反対意見の割合をみると、前回調査、国、県のいずれよりも「賛成意見」の割合が低く、「反対意見」の割合が高くなっています。

■前回調査、国・県との比較



■賛成意見、反対意見の割合の前回調査、国、県との比較

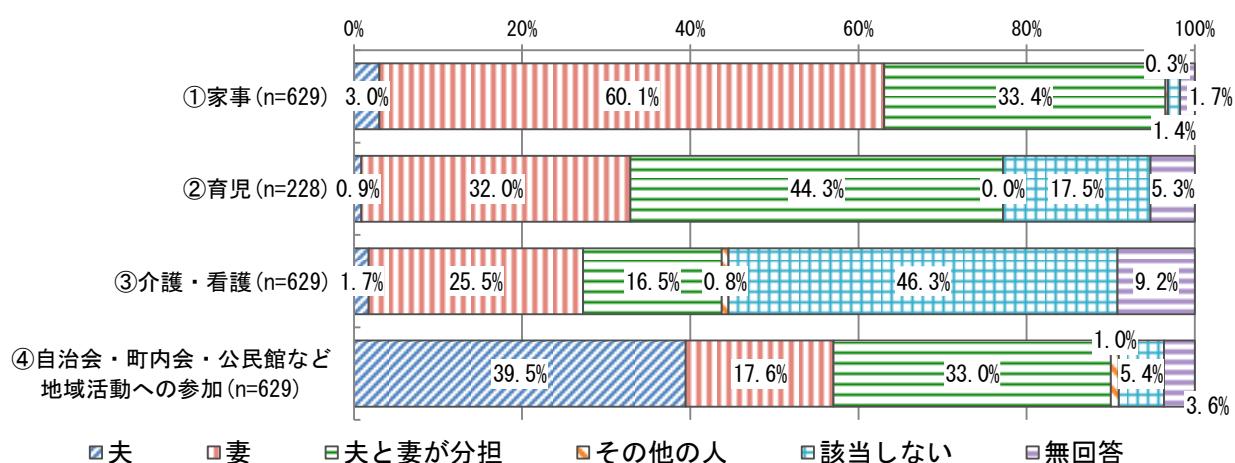
	屋久島町	前回調査	全国	鹿児島県
賛成意見 (「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計)	31.2%	47.2%	33.1%	35.5%
反対意見 (「反対」と「どちらかといえば反対」の合計)	65.3%	48.7%	64.8%	60.4%

3 地域や働き方について

- 問10は、現在結婚している方（事実婚も含む）（問4『現在結婚していますか。』で「1. はい」に○をした人）に伺います。
- あなたの家庭では、次のような事柄を主に誰が行っていますか。（①～④のそれぞれに○を1つ）

「該当しない」の割合を除くと、『①家事』と『③介護・看護』は「妻」が、『②育児』は「夫と妻が分担」が、『④自治会・町内会・公民館など地域活動への参加』は「夫」の割合が高くなっています。

世帯の就労状況別でみると、①～④のすべての項目で、共働きの世帯で「夫と妻が分担」の割合が他の層より高くなっています。



■世帯の就労状況別の状況

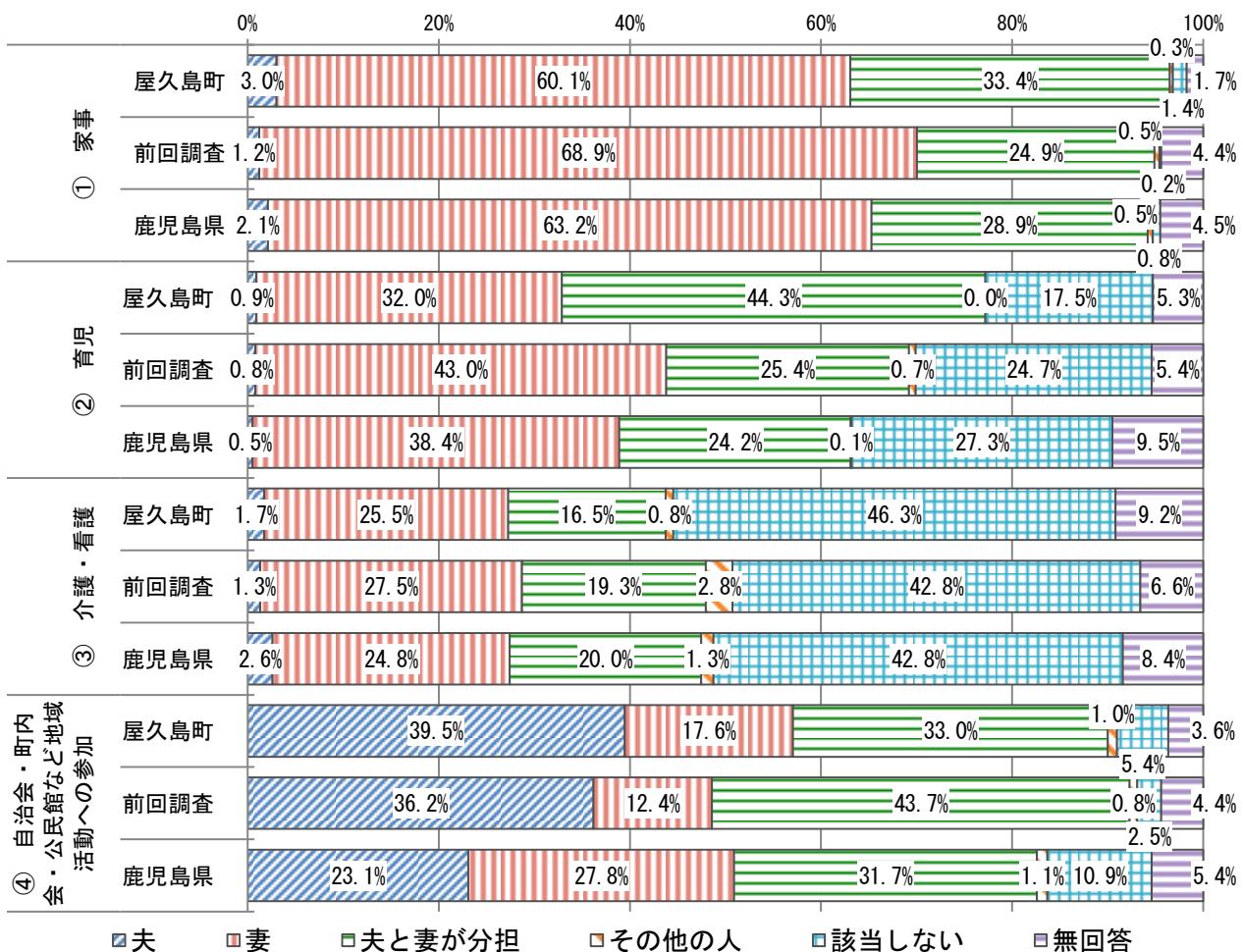
	世帯区分	夫	妻	夫と妻が分担
①家事	全体 (n=629)	3.0%	60.1%	33.4%
	共働き(n=322)	3.1%	53.4%	41.0%
	片方が就労(n=157)	1.3%	67.5%	28.7%
	共に無職(n=142)	3.5%	67.6%	23.2%
②育児(子どもがいる方にのみ調査)	全体 (n=228)	0.9%	32.0%	44.3%
	共働き(n=160)	0.6%	36.3%	50.6%
	片方が就労(n=46)	0.0%	21.7%	37.0%
	共に無職(n=13)	0.0%	26.3%	10.5%
③介護・看護	全体 (n=629)	1.7%	25.5%	16.5%
	共働き(n=322)	1.6%	24.5%	18.3%
	片方が就労(n=157)	1.3%	28.7%	15.9%
	共に無職(n=142)	2.8%	25.4%	14.1%
④自治会・町内会・公民館など地域活動への参加	全体 (n=629)	39.5%	17.6%	33.0%
	共働き(n=322)	37.6%	16.8%	39.4%
	片方が就労(n=157)	43.3%	21.0%	23.6%
	共に無職(n=142)	40.1%	16.2%	28.2%

前回調査と比較すると、①～③で「妻」の割合が前回調査より減少、④で「夫」と「妻」の割合が増加しています。

また、「夫と妻が分担」の割合について「①家事」で8.5ポイント増、「②育児」で18.9ポイントと、家事、育児での分担が進んでいる状況がうかがえます。

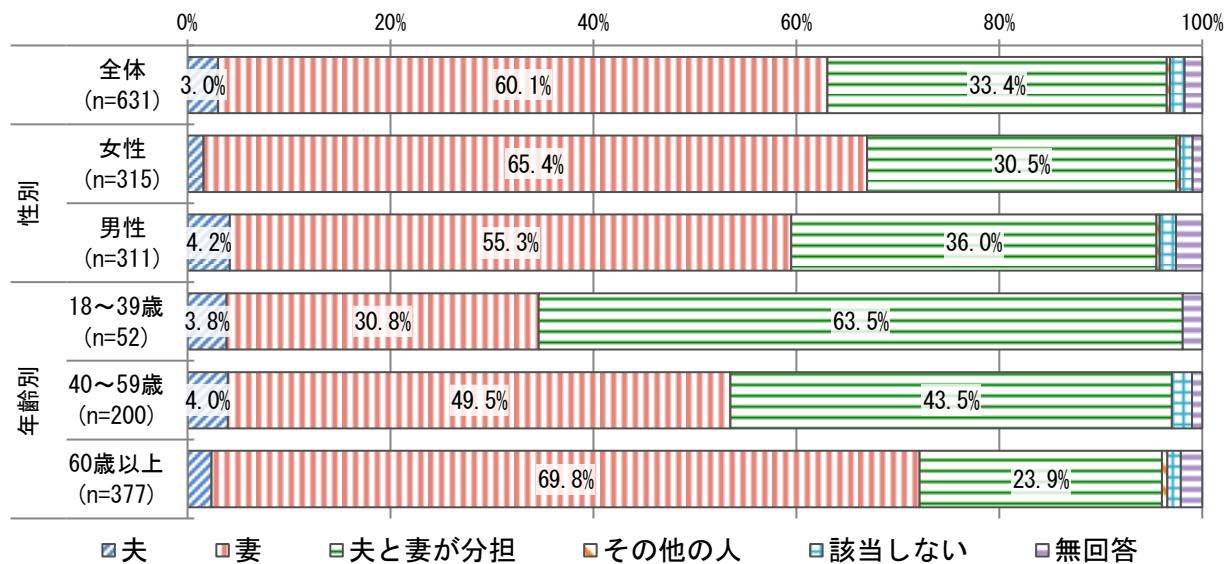
鹿児島県と比較すると、①、②、④の3項目で「夫と妻が分担」の割合が県を上回っています。

■前回調査、県との比較



問10① 家事

「妻」が60.1%と最も高く、次いで「夫と妻が分担」が33.4%、「夫」が3.0%となっています。

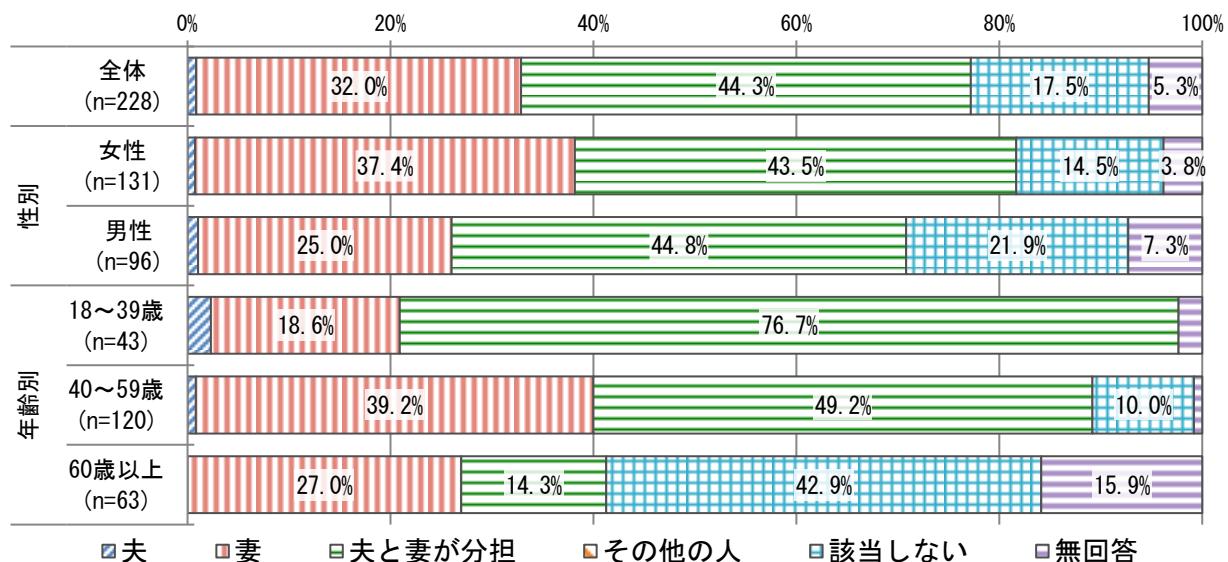


	単純集計	性別		年齢三区分別			年齢×性別				就労状況別	
		女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	有職	無職
サンプル数		631	315	311	52	200	377	147	102	166	209	407 224
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
夫		19	5	13	2	8	9	4	5	1	8	14 5
		3.0%	1.6%	4.2%	3.8%	4.0%	2.4%	2.7%	4.9%	0.6%	3.8%	3.4% 2.2%
妻		379	206	172	16	99	263	79	36	126	136	228 151
		60.1%	65.4%	55.3%	30.8%	49.5%	69.8%	53.7%	35.3%	75.9%	65.1%	56.0% 67.4%
夫と妻が分担		211	96	112	33	87	90	62	56	33	56	153 58
		33.4%	30.5%	36.0%	63.5%	43.5%	23.9%	42.2%	54.9%	19.9%	26.8%	37.6% 25.9%
その他の人		2	1	1	0	0	2	0	0	1	1	1 1
		0.3%	0.3%	0.3%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%	0.5%	0.2% 0.4%
該当しない		9	4	5	0	4	5	1	3	3	2	7 2
		1.4%	1.3%	1.6%	0.0%	2.0%	1.3%	0.7%	2.9%	1.8%	1.0%	1.7% 0.9%
無回答		11	3	8	1	2	8	1	2	2	6	4 7
		1.7%	1.0%	2.6%	1.9%	1.0%	2.1%	0.7%	2.0%	1.2%	2.9%	1.0% 3.1%

※既婚の方のみの設問であるため、婚姻状況別のクロス集計は割愛。就労状況別のクロス集計を掲載。(問10②~④も同様。)

問10② 育児(子どもがいる方にのみ調査)

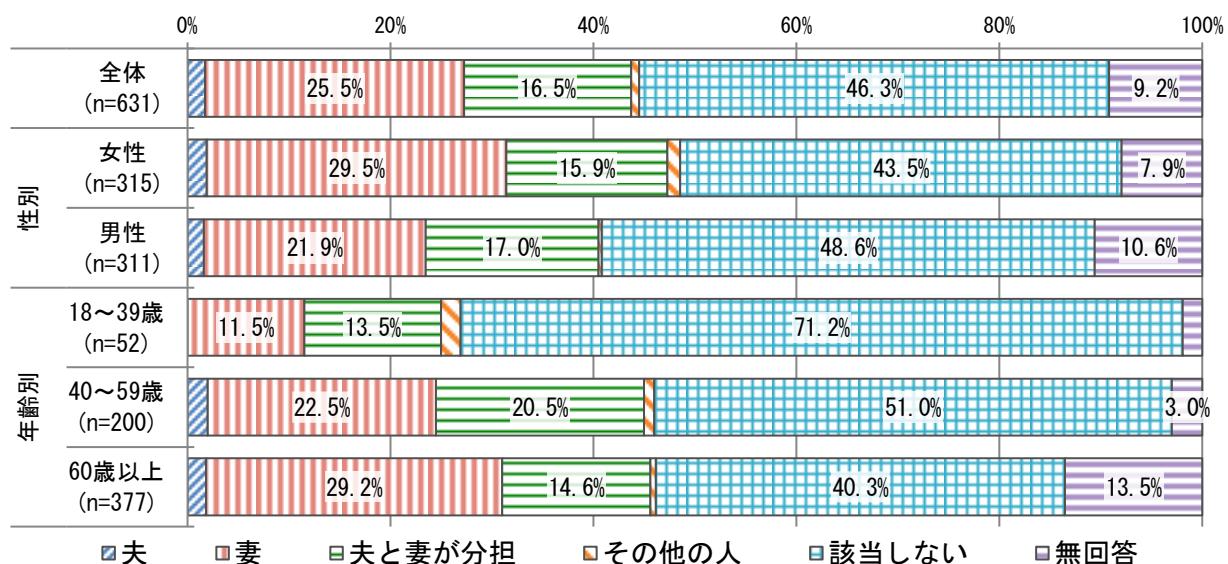
「夫と妻が分担」が44.3%と最も高く、次いで「妻」が32.0%、「該当しない」が17.5%となっています。



		単純集計		性別		年齢三区分別			年齢×性別				就労状況別		
				女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	有職	無職	
		サンプル数	全員	228	131	96	43	120	63	99	63	30	33	190	38
夫				2	1	1	1	1	0	1	1	0	0	2	0
妻				73	49	24	8	47	17	37	18	11	6	63	10
夫と妻が分担				101	57	43	33	59	9	54	37	3	6	90	11
その他の人				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
該当しない				40	19	21	0	12	27	5	7	13	14	28	12
無回答				12	5	7	1	1	10	2	0	3	7	7	5

問10③ 介護・看護

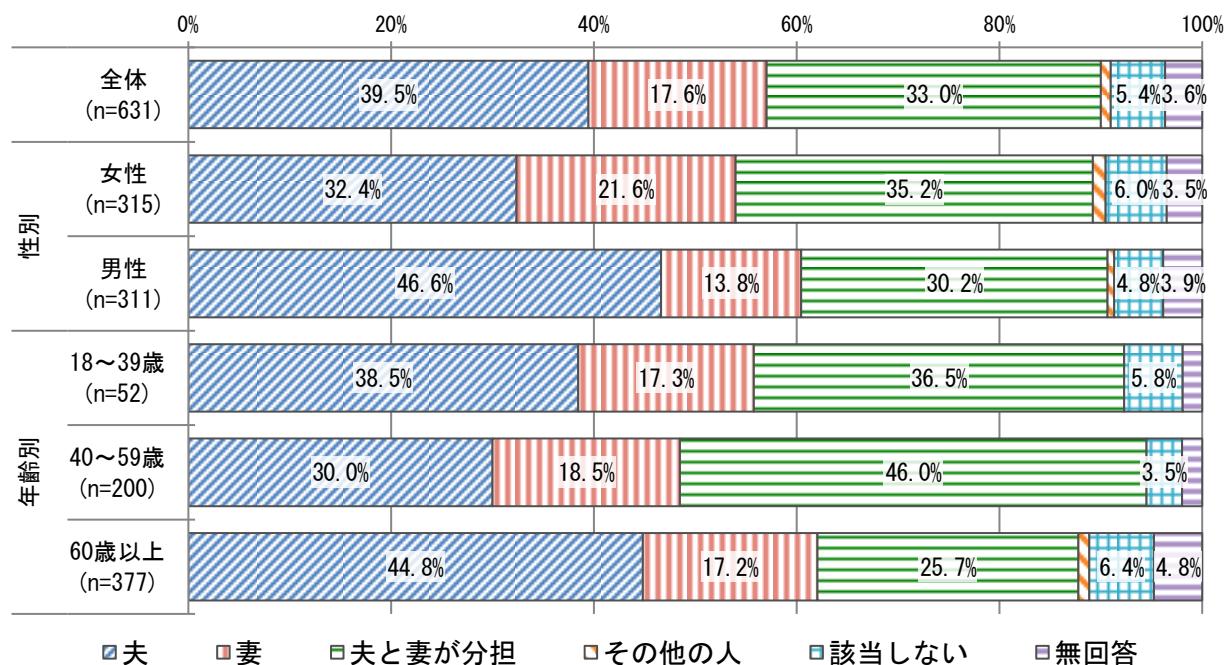
「該当しない」が46.3%と最も高く、次いで「妻」が25.5%、「夫と妻が分担」が16.5%となっています。



		単純集計		性別		年齢三区分別			年齢×性別				就労状況別		
				女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	有職	無職	
		サンプル数	全員	631	315	311	52	200	377	147	102	166	209	407	224
夫				11	6	5	0	4	7	3	1	3	4	6	5
妻				1.7%	1.9%	1.6%	0.0%	2.0%	1.9%	2.0%	1.0%	1.8%	1.9%	1.5%	2.2%
夫と妻が分担				161	93	68	6	45	110	39	12	54	56	102	59
その他の人				25.5%	29.5%	21.9%	11.5%	22.5%	29.2%	26.5%	11.8%	32.5%	26.8%	25.1%	26.3%
該当しない				104	50	53	7	41	55	25	22	24	31	71	33
無回答				5	4	1	1	2	2	3	0	1	1	2	3
				0.8%	1.3%	0.3%	1.9%	1.0%	0.5%	2.0%	0.0%	0.6%	0.5%	0.5%	1.3%
				292	137	151	37	102	152	73	64	63	87	197	95
				46.3%	43.5%	48.6%	71.2%	51.0%	40.3%	49.7%	62.7%	38.0%	41.6%	48.4%	42.4%
				58	25	33	1	6	51	4	3	21	30	29	29
				9.2%	7.9%	10.6%	1.9%	3.0%	13.5%	2.7%	2.9%	12.7%	14.4%	7.1%	12.9%

問10④ 自治会・町内会・公民館など地域活動への参加

「夫」が39.5%と最も高く、次いで「夫と妻が分担」が33.0%、「妻」が17.6%となっています。

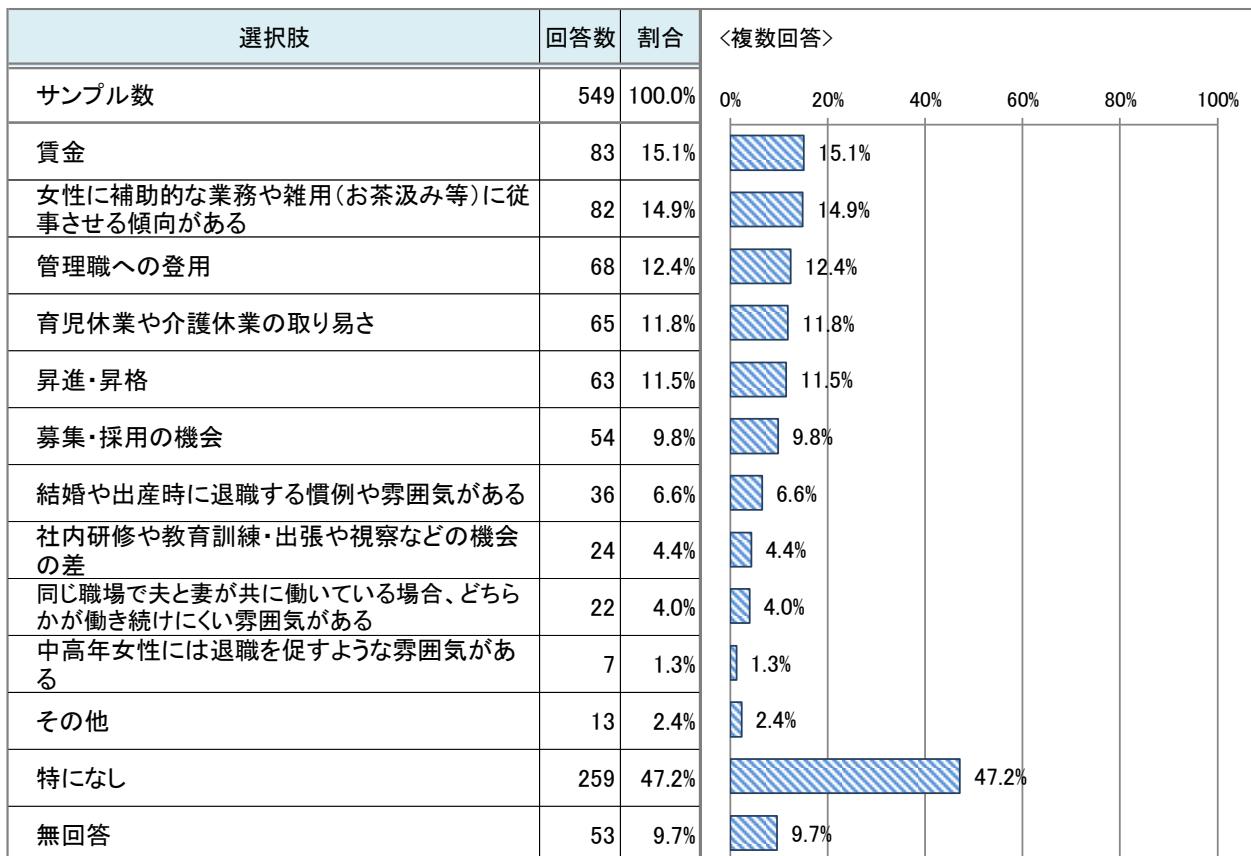


	単純集計	性別		年齢三区分別			年齢×性別				就労状況別	
		女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	有職	無職
											100.0%	100.0%
サンプル数		631	315	311	52	200	377	147	102	166	209	407 224
夫		249	102	145	20	60	169	45	34	57	111	156 93
妻		111	68	43	9	37	65	34	12	34	31	72 39
夫と妻が分担		208	111	94	19	92	97	60	49	51	45	148 60
その他の人		6	4	2	0	0	4	0	0	2	2	5 1
該当しない		34	19	15	3	7	24	5	5	14	10	18 16
無回答		23	11	12	1	4	18	3	2	8	10	8 15
		3.6%	3.5%	3.9%	1.9%	2.0%	4.8%	2.0%	2.0%	4.8%	4.8%	2.0% 6.7%

問11は、現在働いている方（問3『あなたの職業について』で「1」～「4」、「8.その他」のいずれかに○をした人）に伺います。

あなたの職場では、以下のそれぞれについて、性別によって待遇が異なっていると思いますか。（○はいくつでも）

「特になし」が47.2%と最も高く、次いで「賃金」が15.1%、「女性に補助的な業務や雑用（お茶汲み等）に従事させる傾向がある」が14.9%となっています。

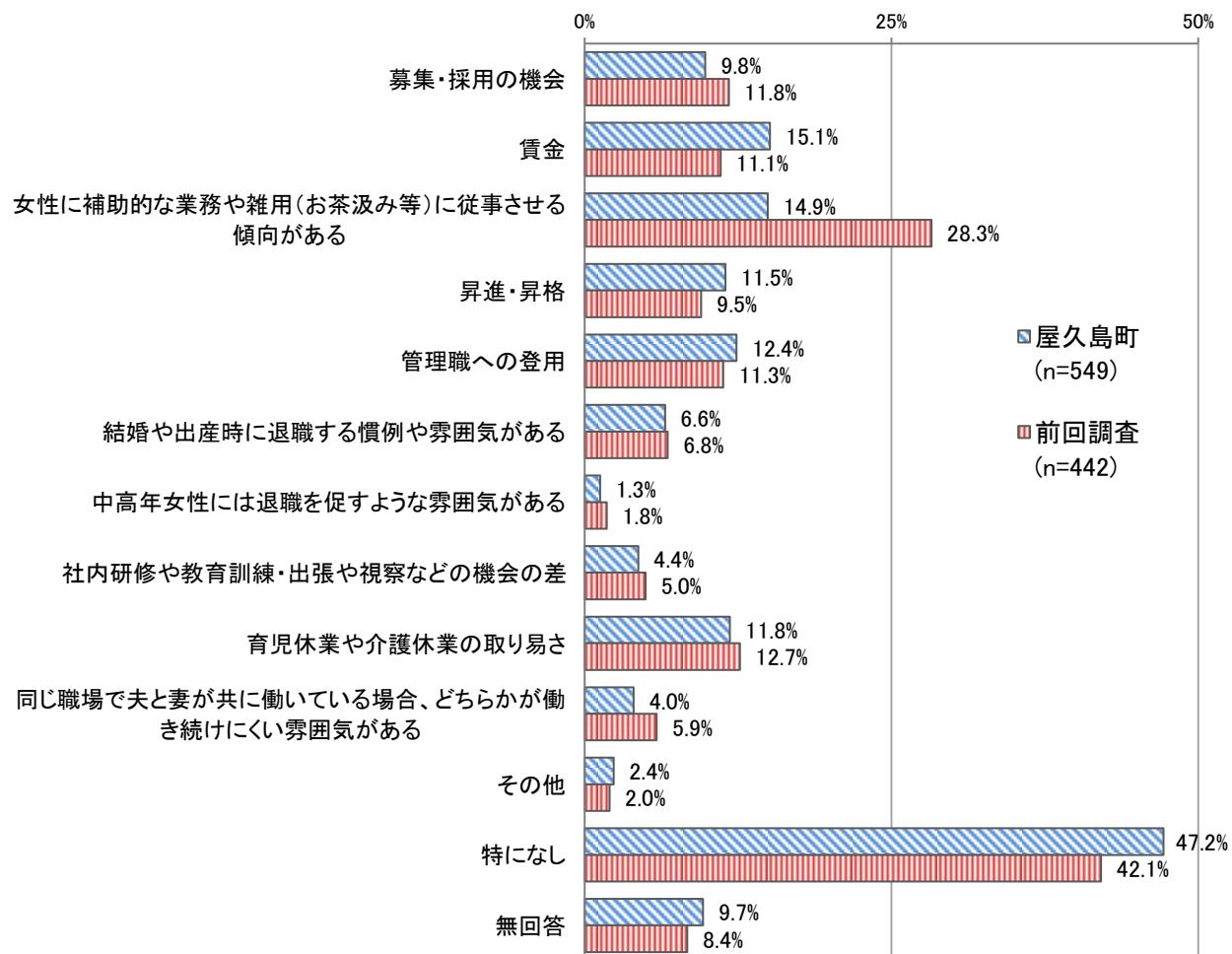


	単純集計		性別			年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別			
	全般	女性	男性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	既婚	未婚	18～59歳女性	18～59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性		
サンプル数	549	278	264	86	247	213	407	140	183	145	92	119		
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
募集・採用の機会	54	22	32	5	28	21	36	18	15	18	7	14		
	9.8%	7.9%	12.1%	5.8%	11.3%	9.9%	8.8%	12.9%	8.2%	12.4%	7.6%	11.8%		
賃金	83	42	41	10	33	39	58	24	29	14	12	27		
	15.1%	15.1%	15.5%	11.6%	13.4%	18.3%	14.3%	17.1%	15.8%	9.7%	13.0%	22.7%		
女性に補助的な業務や雑用（お茶汲み等）に従事させる傾向がある	82	45	37	20	36	26	62	20	34	22	11	15		
	14.9%	16.2%	14.0%	23.3%	14.6%	12.2%	15.2%	14.3%	18.6%	15.2%	12.0%	12.6%		
昇進・昇格	63	27	35	13	30	20	44	19	21	22	6	13		
	11.5%	9.7%	13.3%	15.1%	12.1%	9.4%	10.8%	13.6%	11.5%	15.2%	6.5%	10.9%		
管理職への登用	68	30	36	14	36	18	46	22	26	23	4	13		
	12.4%	10.8%	13.6%	16.3%	14.6%	8.5%	11.3%	15.7%	14.2%	15.9%	4.3%	10.9%		
結婚や出産時に退職する慣例や雰囲気がある	36	18	18	10	16	9	26	10	16	10	1	8		
	6.6%	6.5%	6.8%	11.6%	6.5%	4.2%	6.4%	7.1%	8.7%	6.9%	1.1%	6.7%		
中高年女性には退職を促すような雰囲気がある	7	5	2	0	3	4	4	3	2	1	3	1		
	1.3%	1.8%	0.8%	0.0%	1.2%	1.9%	1.0%	2.1%	1.1%	0.7%	3.3%	0.8%		
社内研修や教育訓練・出張や視察などの機会の差	24	13	10	5	10	9	16	8	9	5	4	5		
	4.4%	4.7%	3.8%	5.8%	4.0%	4.2%	3.9%	5.7%	4.9%	3.4%	4.3%	4.2%		
育児休業や介護休業の取り易さ	65	32	32	22	28	15	45	20	26	24	6	8		
	11.8%	11.5%	12.1%	25.6%	11.3%	7.0%	11.1%	14.3%	14.2%	16.6%	6.5%	6.7%		
同じ職場で夫と妻が共に働いている場合、どちらかが働き続けにくい雰囲気がある	22	7	15	7	8	7	14	8	5	10	2	5		
	4.0%	2.5%	5.7%	8.1%	3.2%	3.3%	3.4%	5.7%	2.7%	6.9%	2.2%	4.2%		
その他	13	0	13	2	6	5	9	4	0	8	0	5		
	2.4%	0.0%	4.9%	2.3%	2.4%	2.3%	2.2%	2.9%	0.0%	5.5%	0.0%	4.2%		
特になし	259	146	109	37	124	98	196	63	94	64	52	45		
	47.2%	52.5%	41.3%	43.0%	50.2%	46.0%	48.2%	45.0%	51.4%	44.1%	56.5%	37.8%		
無回答	53	25	27	4	11	37	42	10	10	4	14	23		
	9.7%	9.0%	10.2%	4.7%	4.5%	17.4%	10.3%	7.1%	5.5%	2.8%	15.2%	19.3%		

前回調査と比較すると、「特になし」が47.2%と前回調査より5.1ポイント増となっています。

前回調査と差がある項目についてみると、「女性に補助的な業務や雑用（お茶汲み等）に従事させる傾向がある」が13.4ポイント減、「賃金」が4.0ポイント増となっています。

■前回調査との比較



■その他の内容

- ◇個人事業主であるためわからない。（同回答複数）
- ◇厳しい環境や仕事、体力が必要な仕事、運転は男性に偏る傾向がある。（同回答複数）

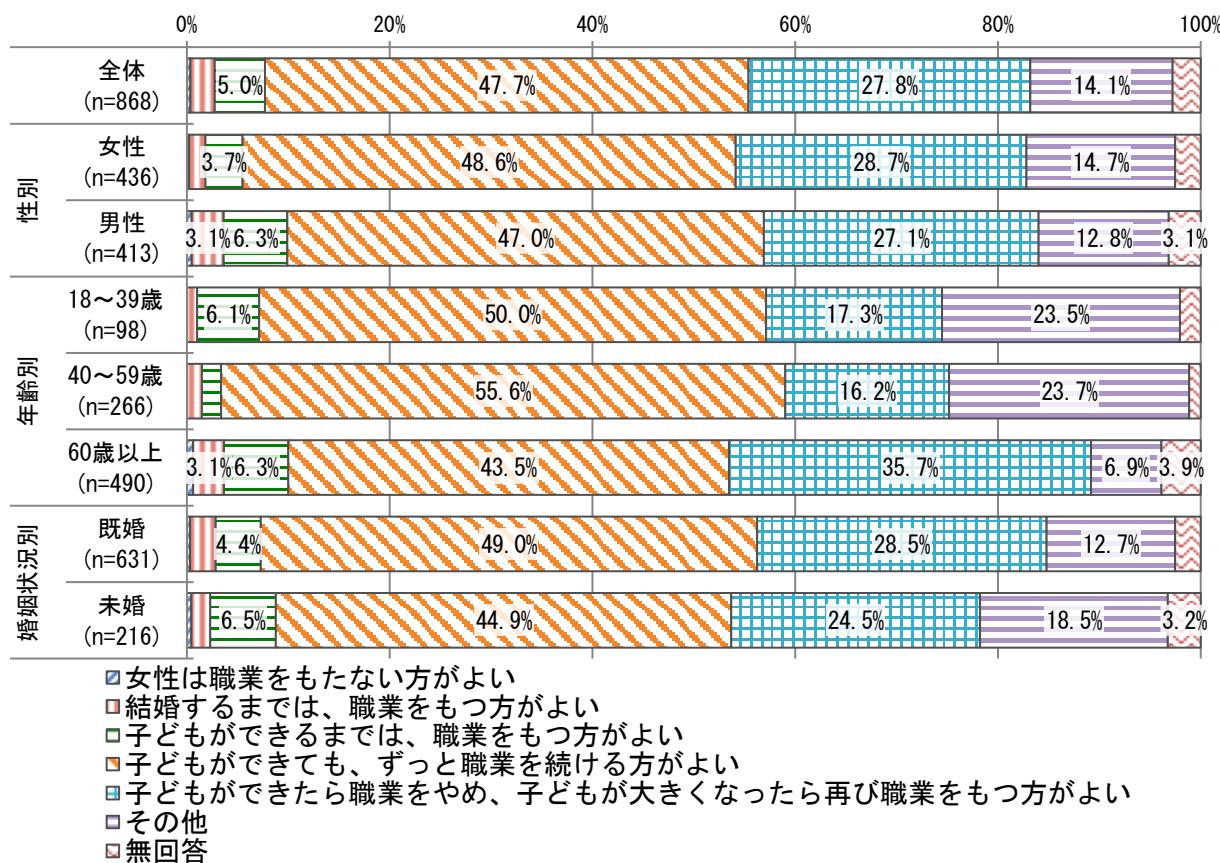
- ◇転職したばかりでよくわからない
- ◇女性登用のための女性の昇進昇格が顕著（=男性不遇）
- ◇女性が責任ある立場に就くことを望んでいないように見える。だけど給料は年功序列で上がっていく。責任のない仕事で同じ給料をもらうことに違和感がある。男女に限らずですが。業務の量や負担、責任にあった評価をすることが本当の平等だと思う。

問12 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」が47.7%と最も高く、次いで「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が27.8%、「その他」が14.1%となっています。

「その他」の内容としては、「個人の自由」、「状況に応じた選択をするのがよい」「どちらでもよい」、「家族で話しあうことが大事」という意見が多く見られます。

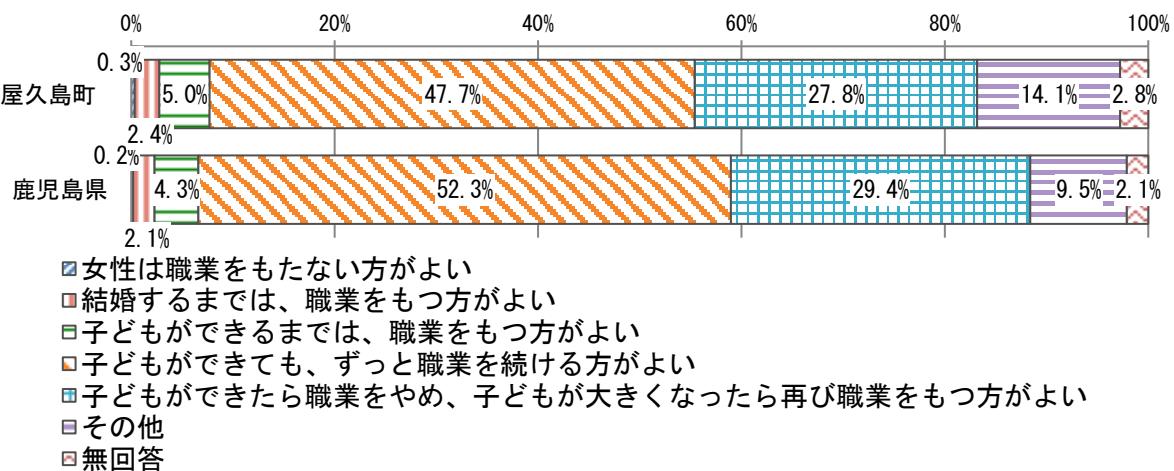
年齢別でみると、60歳以上の層で「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が35.7%と、59歳以下の層と比較して18~19ポイント程度高くなっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		全 体	女性	男 性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既 婚	未 婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
	サンプル数	868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
女性は職業をもたない方がよい		3	1	2	0	0	3	2	1	0	0	1	2
結婚するまでは、職業をもつ方がよい		21	7	13	1	4	15	16	4	2	3	5	10
子どもができるまでは、職業をもつ方がよい		43	16	26	6	5	31	28	14	7	4	9	22
子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい		414	212	194	49	148	213	309	97	109	85	102	109
子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい		241	125	112	17	43	175	180	53	35	25	88	87
その他		122	64	53	23	63	34	80	40	47	37	17	16
無回答		24	11	13	2	3	19	16	7	4	1	7	12
		2.8%	2.5%	3.1%	2.0%	1.1%	3.9%	2.5%	3.2%	2.0%	0.6%	3.1%	4.7%

県と比較すると、1～3位の順位は同じであるものの、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」が4.6ポイント、「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が1.6ポイントそれぞれ低く、「その他」が4.6ポイント高くなっています。

■県調査との比較



■ その他の内容

- ◇個人の自由。(同回答複数)
- ◇状況に応じた選択をするのがよい。(同回答複数)
- ◇どちらでもよい。(同回答複数)
- ◇家族で話しあうことが大事。(同回答複数)
- ◇女性が職業をもつことと結婚は無関係。(同回答複数)

- ◇職に就くターニングポイントは、結婚や出産・育児に縛られるものではない。本人が働きたいか、ほかのことに専念したくて職を離れるか、自由に選択できる機会を社会は与えるべき。
- ◇職業は持った方がいい。子どもと一緒にいたい方は家庭に入つていいし、働きたい方は働いていいと思うので、いつでも帰れる場所がある社会がいいと思う。
- ◇フルタイムで働くよりも、子どもの面倒を見ていたい。夫の給料で不足する分を扶養の範囲内で働きたい。
- ◇少々時間がかかるとしても、おのずから自分の力を発揮できるところを求めてほしいと思う。個性があるので1つに決めることは難しい。
- ◇職種にもよるので何とも言えないが、育児はその時しかできること、喜びでもあるのでその期間を大切にしてほしい。
- ◇それぞれの子どもとどのように生きて行きたいかという考え方で、様々な選択が可能な状況が良いと思う。
- ◇女性は職業を持つ方が良いと思うが、結婚出産後についてはその家庭によって最適な形を取ればよい。
- ◇希望としては、子どもができたら職業をやめて子どもが大きくなったら再び就業を持つほうが良いと思うが、なかなかそうはいかないので。
- ◇結婚、子供という概念よりも、常に自立心を持つという意味で職を持つ意識があったほうが良いと思う。
- ◇子どもが3歳くらいまでは、母親の手で育てたほうが良いと思う。
- ◇小さな子供を育てる期間は専業のほうが子供が幸せかもしれない。
- ◇結婚とか子供とか関係なく、職業をもつほうが良い。
- ◇女性、男性ではなく、その人がどう在りたいかを選べる社会が理想だ。
- ◇その人の好きなほうに。どちらの結論にも対応できる世の中になってほしい。
- ◇性別と職業は関係ないから。
- ◇育児休暇中、(1年間でも)手取り100%変化無だと良い。続けやすい。
- ◇子どもができたら、短時間で職業をもつほうが良い。
- ◇好きにしたら良い。お互いに足りない部分を補えば良い。
- ◇働きたい人は働き、働きたくない(働けない)人は働かない選択ができることがよい。
- ◇育児と仕事のバランスの調整が希望でできると良い。
- ◇子どもができても、ずっと働きたいか、環境や個人の考え方などが大切かと思う。

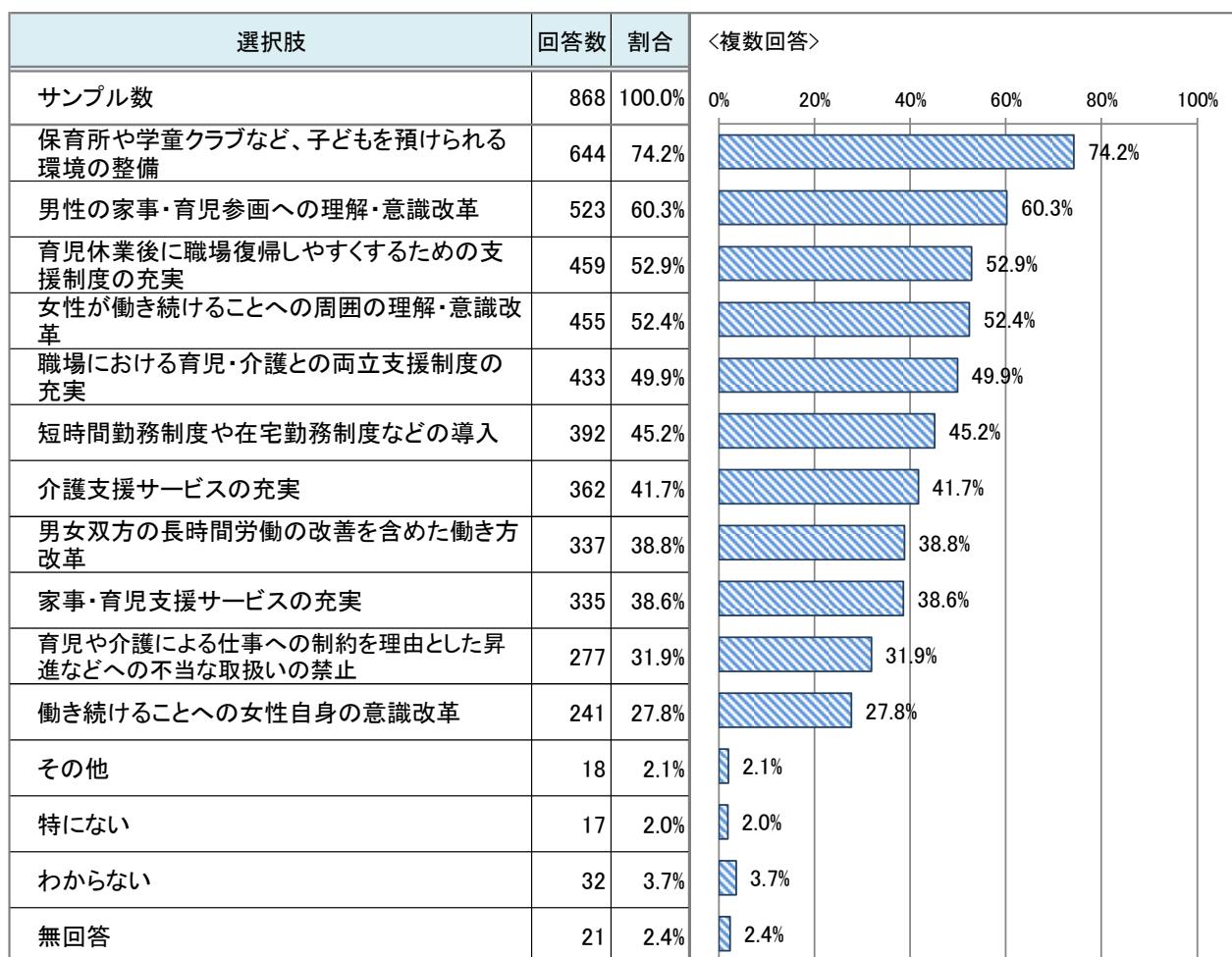
問13

あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。(○はいくつでも)

「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が74.2%と最も高く、次いで「男性の家事・育児参画への理解・意識改革」が60.3%、「育児休業後に職場復帰しやすくするための支援制度の充実」が52.9%となっています。

性別でみると、女性で「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が81.0%と特に高くなっています。

年齢×性別でみると、「男性の家事・育児参画への理解・意識改革」が70.1%と他の層と比較して高くなっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		全体	女性	男性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	既婚	未婚	18～59歳女性	18～59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
			868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229
サンプル数		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	644	353	277	71	199	363	483	146	167	100	183	177	74.2%
介護支援サービスの充実	362	185	164	26	110	216	269	82	78	55	105	109	41.7%
家事・育児支援サービスの充実	335	169	154	50	124	153	250	76	105	66	63	88	38.6%
男性の家事・育児参画への理解・意識改革	523	286	226	64	168	283	386	128	143	86	141	140	60.3%
女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	455	242	204	49	146	254	343	104	124	68	117	136	52.4%
働き続けることへの女性自身の意識改革	241	123	107	26	77	131	164	68	55	46	68	61	27.8%
男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	337	178	150	44	116	172	248	82	96	61	82	89	38.8%
職場における育児・介護との両立支援制度の充実	433	228	196	48	136	244	318	107	115	67	112	129	49.9%
短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	392	219	164	52	130	205	284	100	112	67	106	97	45.2%
育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不当な取扱いの禁止	277	150	119	32	86	155	199	71	77	38	72	81	31.9%
育児休業後に職場復帰しやすくするための支援制度の充実	459	235	215	47	137	268	332	118	112	70	122	145	52.9%
その他	18	12	6	2	11	5	13	5	8	5	4	1	2.1%
特にない	17	2	15	2	5	10	14	3	1	6	1	9	2.0%
わからない	32	15	15	6	9	16	21	10	6	8	9	7	3.7%
無回答	21	11	10	1	1	19	13	6	2	0	9	10	2.4%

■その他の内容

【女性の意見】

- ◇近くに祖父母がいなくて、預けないと働くことができないこともあるけれど、赤ちゃんを1歳くらいから預けるのはかわいそうな気がする。収入もあり困っていなければ、親子で楽しめる時期は、一生を振り返った時に思い出の財産になると思う。子供が4歳から、60過ぎまでずっと仕事をした。つらい時など、その当時の子供を思い出して頑張った。
- ◇未来を担う子供の出産、育児は周りの理解と協力が必要であるため、女性の身体的負担が少なくて済むような制度を望む。産みたくても病院、費用など安心して出産できなければ命をつないでいけない。
- ◇このようなアンケートをとり、意識を確認してくださるのなら、地域がより男性女性を超えて活躍できる、循環していく土台を作っていただきたい。
- ◇せっかく子供を授かったなら、お金も大切だけど、今しかない子供との時間を大切にしてほしい。仕事の代わりはいくらでもあるけど、子供の代わりはいない。
- ◇核家族化の解消。誰か1人いつでも子どもの面倒を見られる人の存在が必要。住み込みの家政婦、ベビーシッターでも良い。
- ◇起業や開業の選択肢を広げる意識改革や勉強の機会（自身で対策するためのひとつの道という意味で）。
- ◇自分の子供は自分で育てることが最善だと考えているので、出産後は離職したほうがいいと思うから。
- ◇代替職員（パート職員？）などの雇用の充実。
- ◇子どもの健康。
- ◇在宅ワークや副業がしやすい環境整備。
- ◇子どもの病気による休業は有給を消費しない有給であること。

【男性の意見】

- ◇景気が悪くて社会全体に余裕がなさすぎる。先に減税して、景気が良くなってからでないと、どんな改革もうまくいかないと思う。
- ◇選択肢に上がっているようなことは、本来当たり前のことであるべきだ。
- ◇育児、妊娠の休み充実。男と女のちがいは避けられない。
- ◇お金で支援する必要はない。育休を男女問わず親に与えられればそれで良い。
- ◇女性に寄り添うことが正義であるかのような社会的圧力が嫌になる。
- ◇人口減少と女の人の感性。
- ◇言い訳にしない。

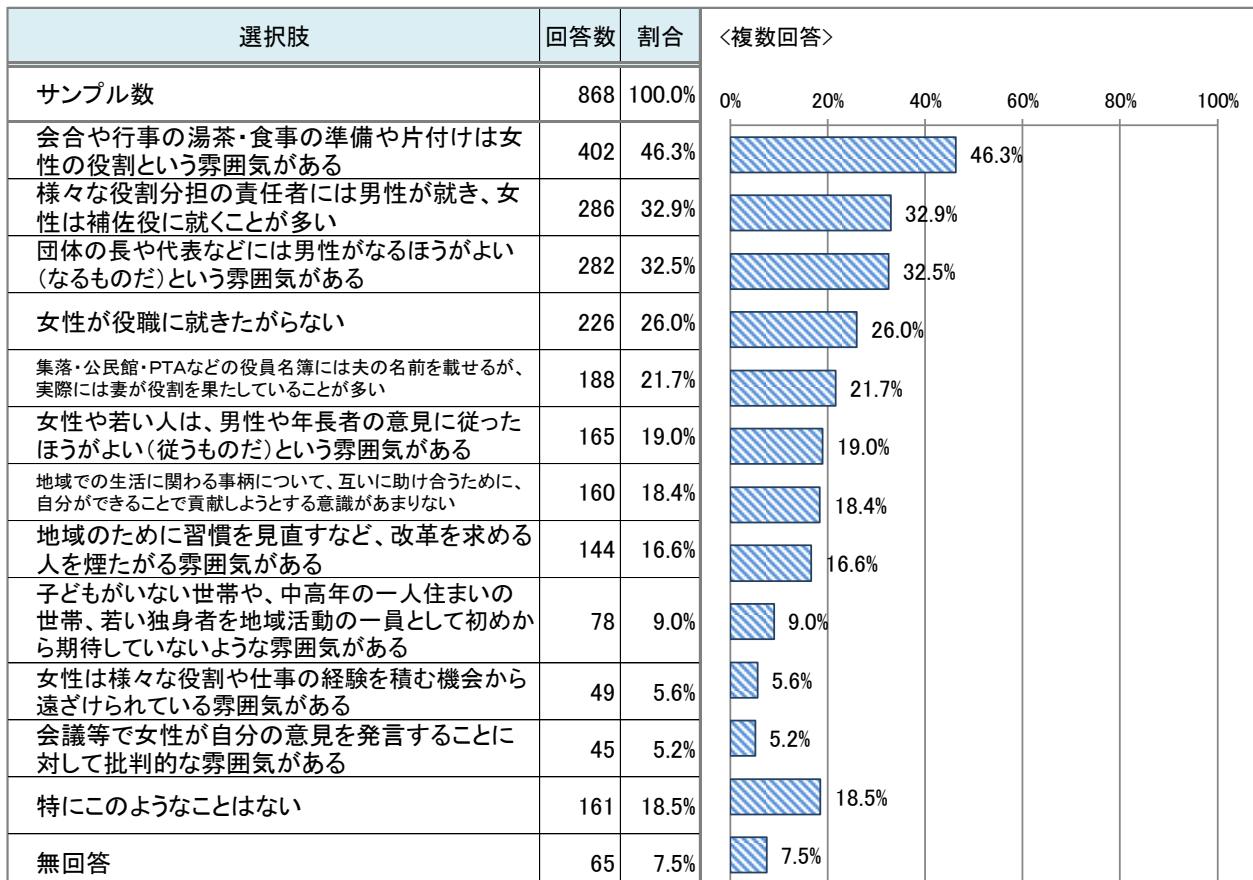
問14 あなたが住んでいる地域では、次のような雰囲気や慣習がありますか。(○はいくつでも)

「会合や行事の湯茶・食事の準備や片付けは女性の役割という雰囲気がある」が46.3%と最も高く、次いで「様々な役割分担の責任者には男性が就き、女性は補佐役に就くことが多い」が32.9%、「団体の長や代表などには男性がなるほうがよい(なるものだ)という雰囲気がある」が32.5%となっています。

年齢×性別でみると、全ての層で「会合や行事の湯茶・食事の準備や片付けは女性の役割という雰囲気がある」が最も高く、特に18~59歳女性の層では60.3%と特に高くなっています。

18~59歳女性の層では「女性や若い人は、男性や年長者の意見に従ったほうがよい(従うものだ)という雰囲気がある」が36.8%（3位）と他の層と比較して高くなっています。

「特にこのようなことはない」の割合についてみると、18~59歳女性の層で13.7%と他の層と比較して低く、18~59歳男性の層で28.4%と高くなっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		全体	女性	男性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	既婚	未婚	18～59歳女性	18～59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
			868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229
サンプル数		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
子どもがいない世帯や、中高年の一人住まいの世帯、若い独身者を地域活動の一員として初めから期待していないような雰囲気がある		78	40	37	10	29	38	51	25	23	16	17	21
		9.0%	9.2%	9.0%	10.2%	10.9%	7.8%	8.1%	11.6%	11.3%	10.3%	7.4%	8.1%
女性や若い人は、男性や年長者の意見に従ったほうがよい(従うものだ)という雰囲気がある		165	98	61	30	72	60	116	45	75	25	23	36
		19.0%	22.5%	14.8%	30.6%	27.1%	12.2%	18.4%	20.8%	36.8%	16.1%	10.0%	14.0%
団体の長や代表などには男性がなるほうがよい(なるものだ)という雰囲気がある		282	151	129	31	85	165	213	65	76	40	75	89
		32.5%	34.6%	31.2%	31.6%	32.0%	33.7%	33.8%	30.1%	37.3%	25.8%	32.8%	34.5%
会議等で女性が自分の意見を発言することにに対して批判的な雰囲気がある		45	28	14	1	14	28	34	9	13	1	15	13
		5.2%	6.4%	3.4%	1.0%	5.3%	5.7%	5.4%	4.2%	6.4%	0.6%	6.6%	5.0%
女性は様々な役割や仕事の経験を積む機会から遠ざけられている雰囲気がある		49	24	25	5	12	32	36	13	10	7	14	18
		5.6%	5.5%	6.1%	5.1%	4.5%	6.5%	5.7%	6.0%	4.9%	4.5%	6.1%	7.0%
様々な役割分担の責任者には男性が就き、女性は補佐役に就くことが多い		286	154	126	28	76	178	224	57	68	35	86	91
		32.9%	35.3%	30.5%	28.6%	28.6%	36.3%	35.5%	26.4%	33.3%	22.6%	37.6%	35.3%
集落・公民館・PTAなどの役員名簿には夫の名前を載せるが、実際には妻が役割を果たしていることが多い		188	111	70	17	69	99	152	32	58	27	53	43
		21.7%	25.5%	16.9%	17.3%	25.9%	20.2%	24.1%	14.8%	28.4%	17.4%	23.1%	16.7%
女性が役職に就きたがらない		226	94	128	20	76	127	172	50	48	47	46	81
		26.0%	21.6%	31.0%	20.4%	28.6%	25.9%	27.3%	23.1%	23.5%	30.3%	20.1%	31.4%
会合や行事の湯茶・食事の準備や片付けは女性の役割という雰囲気がある		402	237	158	43	135	219	305	90	123	53	113	105
		46.3%	54.4%	38.3%	43.9%	50.8%	44.7%	48.3%	41.7%	60.3%	34.2%	49.3%	40.7%
地域のために習慣を見直すなど、改革を求める人を煙たがる雰囲気がある		144	81	59	13	60	69	98	43	45	27	36	32
		16.6%	18.6%	14.3%	13.3%	22.6%	14.1%	15.5%	19.9%	22.1%	17.4%	15.7%	12.4%
地域での生活に関わる事柄について、互いに助け合うために、自分ができることで貢献しようとする意識があまりない		160	89	69	13	41	104	116	41	36	18	53	51
		18.4%	20.4%	16.7%	13.3%	15.4%	21.2%	18.4%	19.0%	17.6%	11.6%	23.1%	19.8%
特にこのようないことはない		161	73	85	22	51	84	108	49	28	44	43	41
		18.5%	16.7%	20.6%	22.4%	19.2%	17.1%	17.1%	22.7%	13.7%	28.4%	18.8%	15.9%
無回答		65	31	33	4	9	51	41	20	5	8	26	25
		7.5%	7.1%	8.0%	4.1%	3.4%	10.4%	6.5%	9.3%	2.5%	5.2%	11.4%	9.7%

■上位三項目（年齢×性別）

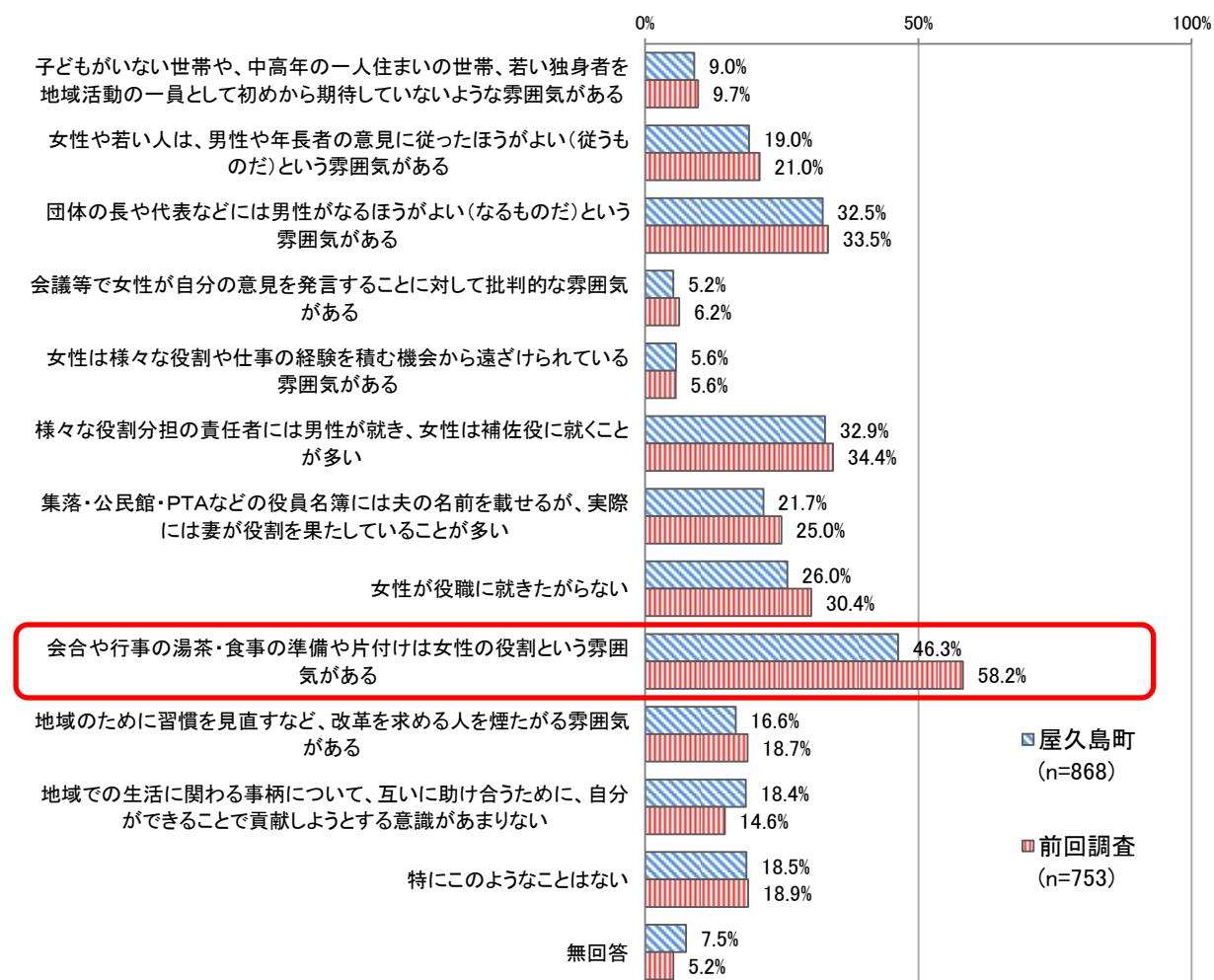
	全体 (n=868)	18～59歳女性 (n=204)	18～59歳男性 (n=155)	60歳以上女性 (n=229)	60歳以上男性 (n=258)
1位	会合や行事の湯茶・食事の準備や片付けは女性の役割という雰囲気がある	会合や行事の湯茶・食事の準備や片付けは女性の役割という雰囲気がある	会合や行事の湯茶・食事の準備や片付けは女性の役割という雰囲気がある	会合や行事の湯茶・食事の準備や片付けは女性の役割という雰囲気がある	会合や行事の湯茶・食事の準備や片付けは女性の役割という雰囲気がある
2位	様々な役割分担の責任者には男性が就き、女性は補佐役に就くことが多い	団体の長や代表などには男性がなる方がよい(なるものだ)という雰囲気がある	女性が役職に就きたがらない	女性が役職に就くことが多い	女性が役職に就くことが多い
3位	団体の長や代表などには男性がなる方がよい(なるものだ)という雰囲気がある	女性や若い人は、男性や年長者の意見に従ったほうがよい(従うものだ)という雰囲気がある	団体の長や代表などには男性がなる方がよい(なるものだ)という雰囲気がある	団体の長や代表などには男性がなる方がよい(なるものだ)という雰囲気がある	団体の長や代表などには男性がなる方がよい(なるものだ)という雰囲気がある
「特にこのようないことはない」の割合	18.5%	13.7%	28.4%	18.8%	15.9%

前回調査と比較すると、「会合や行事の湯茶・食事の準備や片付けは女性の役割という雰囲気がある」が前回・今回ともに1位であるものの、前回調査より11.9ポイント減少しています。

また、前回・今回ともに「様々な役割分担の責任者には男性が就き、女性は補佐役に就くことが多い」が2位、「団体の長や代表などには男性がなる方がよい(なるものだ)という雰囲気がある」が3位となっており、その割合もほぼ同じとなっています。

前回調査と3ポイント以上差がある項目についてみると、「集落・公民館・PTAなどの役員名簿には夫の名前を乗せるが、実際には妻が役割を果たしていることが多い」が3.3ポイント減、「女性が役職に就きたがらない」が4.4ポイント減、「地域での生活にかかわる事柄について、互いに助け合うために、自分ができることで貢献しようとする意識があまりない」が3.8ポイント増となっています。

■前回調査との比較



4 男女間の暴力について

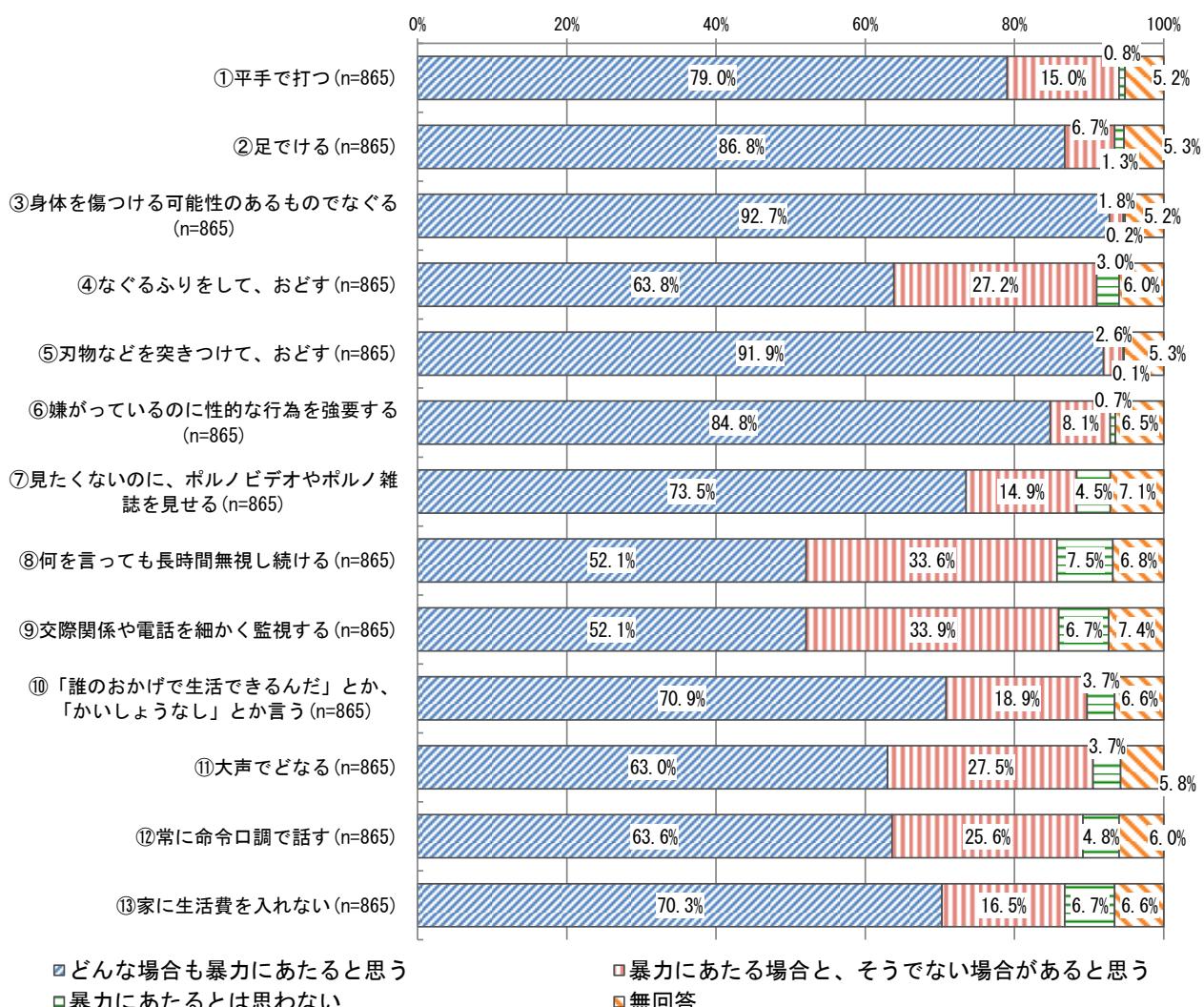
問15 次のようなことが夫婦間や交際相手との間で行われた場合、あなたはそれを暴力だと 思いますか。(①～⑬のそれぞれに○を1つ)

全ての項目で「どんな場合も暴力にあたると思う」の割合が半数以上となっています。

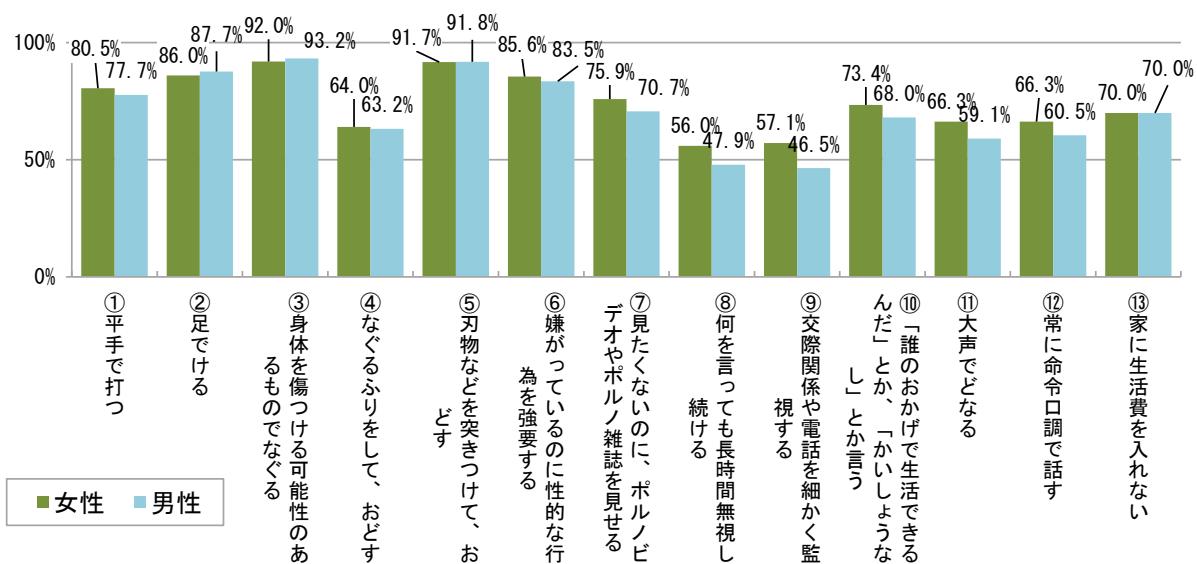
「どんな場合も暴力にあたると思う」の割合を項目別でみると「③身体を傷つける可能性のあるものでなぐる」(92.7% 1位)、「②足でける」(86.8% 3位)、「①平手で打つ」(79.0% 5位)など身体的な暴力については高い一方で、「⑧何を言っても長時間無視し続ける」、「⑨交際関係や電話を細かく監視する」(ともに 52.1% 同順 12位)といったコミュニケーションに関する項目は比較的低くなっています。

「どんな場合も暴力にあたると思う」の割合を性別でみると、13項目中6項目で女性が男性を5ポイント以上上回っており、全体的に女性の方が多くの項目を暴力にあたると感じていることがうかがえます。

年齢別でみると、年齢が高い層ほど「どんな場合も暴力にあたると思う」の割合が低い傾向にあり、特に「④なぐるふりをして、おどす」で、60歳以上の層とそれ以下の層で20ポイント前後と大きな開きが見られます。



■ 「どんな場合も暴力にあたると思う」の割合（性別）

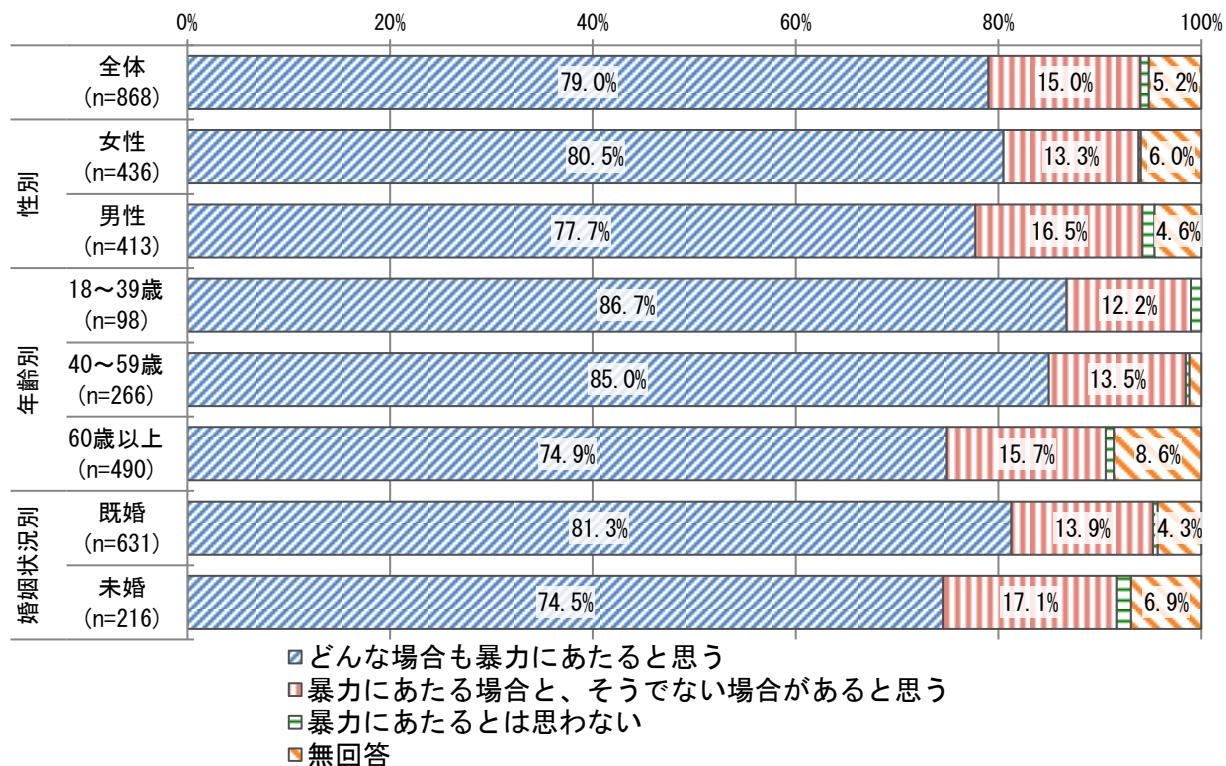


■ 「どんな場合も暴力にあたると思う」の割合（年齢別）

	町全体 (n=868)	18~39歳 (n=98)	40~59歳 (n=266)	60歳以上 (n=490)
① 平手で打つ	79.0%	86.7%	85.0%	74.9%
② 足でける	86.8%	90.8%	90.6%	84.1%
③ 身体を傷つける可能性のあるものでなぐる	92.7%	93.9%	96.6%	90.2%
④ なぐるふりをして、おどす	63.8%	79.6%	74.1%	55.5%
⑤ 刃物などを突きつけて、おどす	91.9%	99.0%	95.9%	88.2%
⑥ 嫌がっているのに性的な行為を強要する	84.8%	89.8%	92.5%	79.4%
⑦ 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	73.5%	85.7%	81.2%	66.9%
⑧ 何を言っても長時間無視し続ける	52.1%	59.2%	54.1%	49.2%
⑨ 交際関係や電話を細かく監視する	52.1%	60.2%	55.6%	48.4%
⑩ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょななし」とか言う	70.9%	75.5%	76.7%	66.9%
⑪ 大声でどなる	63.0%	67.3%	66.5%	60.4%
⑫ 常に命令口調で話す	63.6%	69.4%	68.4%	60.0%
⑬ 家に生活費を入れない	70.3%	65.3%	70.7%	70.4%

問15① 平手で打つ

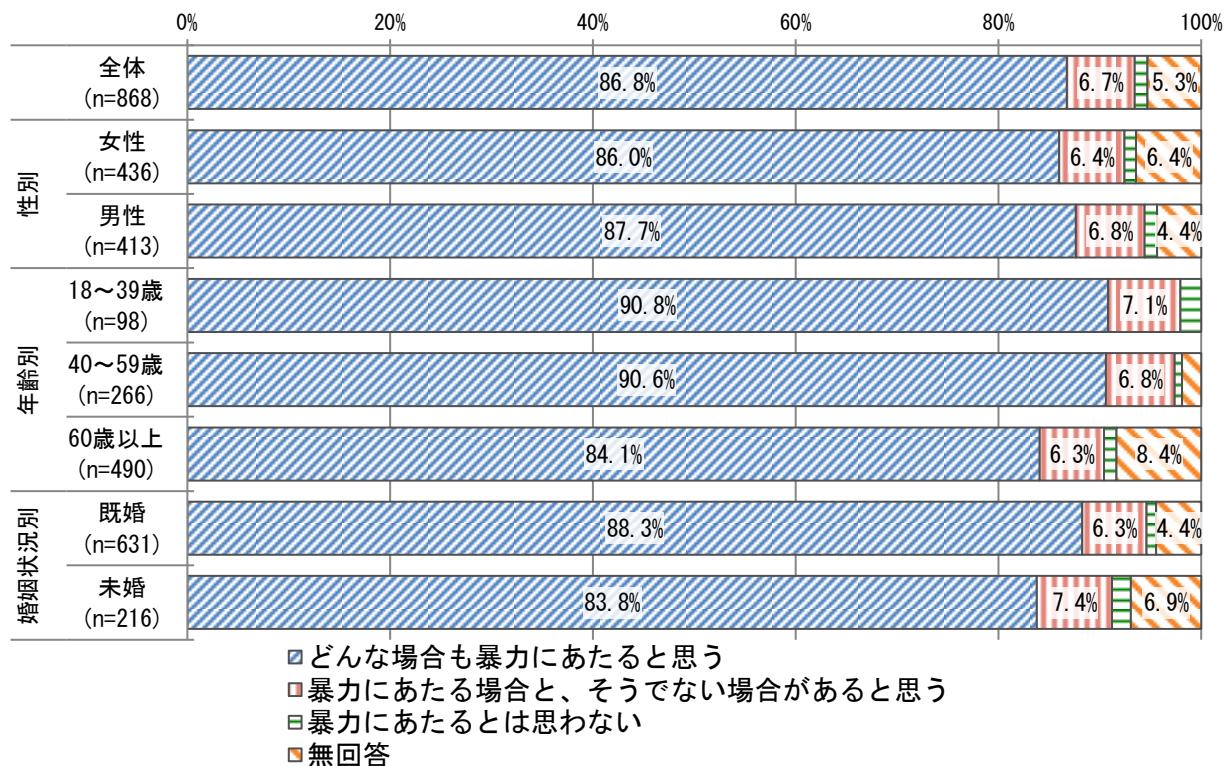
「どんな場合も暴力にあたると思う」が 79.0%、「暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う」が 15.0%、「暴力にあたるとは思わない」が 0.8%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		全體	女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
サンプル数	868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258	100.0%
どんな場合も暴力にあたると思う	686	351	321	85	226	367	513	161	182	124	167	197	79.0%
暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う	130	58	68	12	36	77	88	37	22	26	35	42	15.0%
暴力にあたるとは思わない	7	1	5	1	1	4	3	3	0	2	1	3	0.8%
無回答	45	26	19	0	3	42	27	15	0	3	26	16	5.2%
													6.0%
													4.6%
													0.0%
													1.1%
													8.6%
													4.3%
													0.0%
													1.9%
													11.4%
													6.2%

問15② 足でける

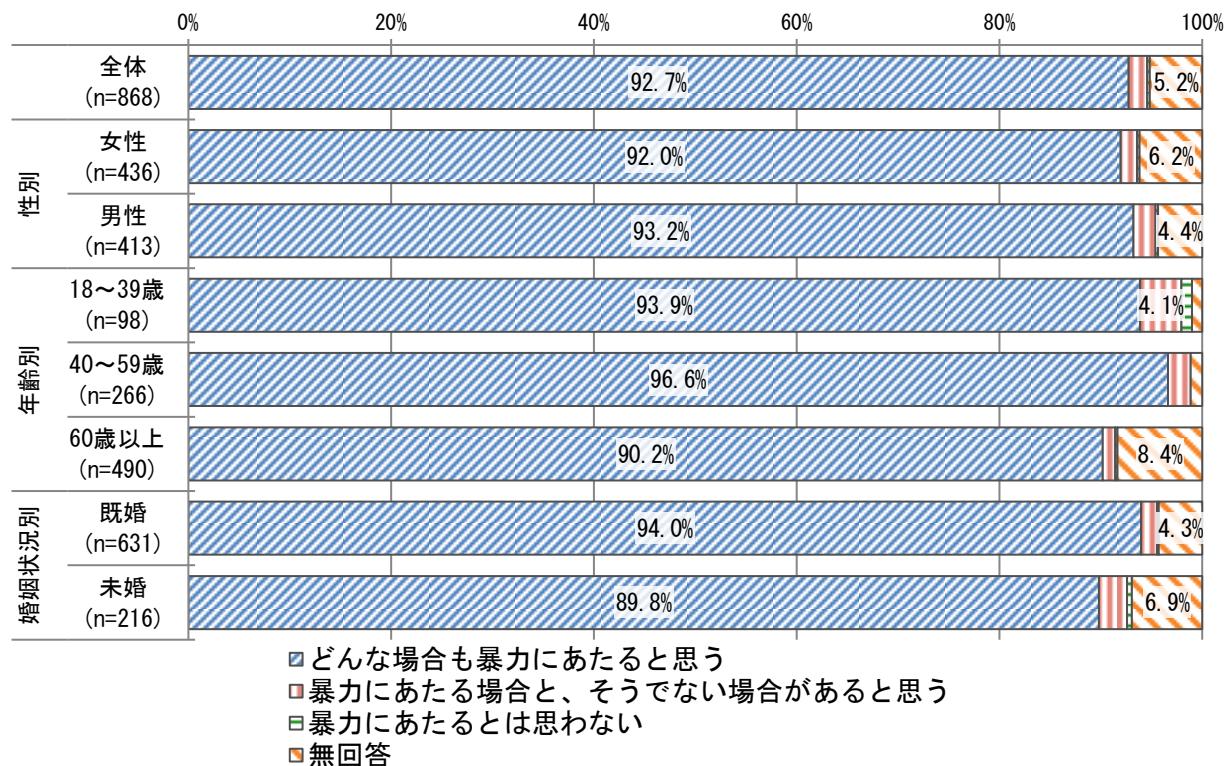
「どんな場合も暴力にあたると思う」が86.8%、「暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う」が6.7%、「暴力にあたるとは思わない」が1.3%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		全體	女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
どんな場合も暴力にあたると思う		753	375	362	89	241	412	557	181	187	138	185	224
		86.8%	86.0%	87.7%	90.8%	90.6%	84.1%	88.3%	83.8%	91.7%	89.0%	80.8%	86.8%
暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う		58	28	28	7	18	31	40	16	14	11	14	17
		6.7%	6.4%	6.8%	7.1%	6.8%	6.3%	6.3%	7.4%	6.9%	7.1%	6.1%	6.6%
暴力にあたるとは思わない		11	5	5	2	2	6	6	4	1	3	4	2
		1.3%	1.1%	1.2%	2.0%	0.8%	1.2%	1.0%	1.9%	0.5%	1.9%	1.7%	0.8%
無回答		46	28	18	0	5	41	28	15	2	3	26	15
		5.3%	6.4%	4.4%	0.0%	1.9%	8.4%	4.4%	6.9%	1.0%	1.9%	11.4%	5.8%

問15③ 身体を傷つける可能性のあるものでなくる

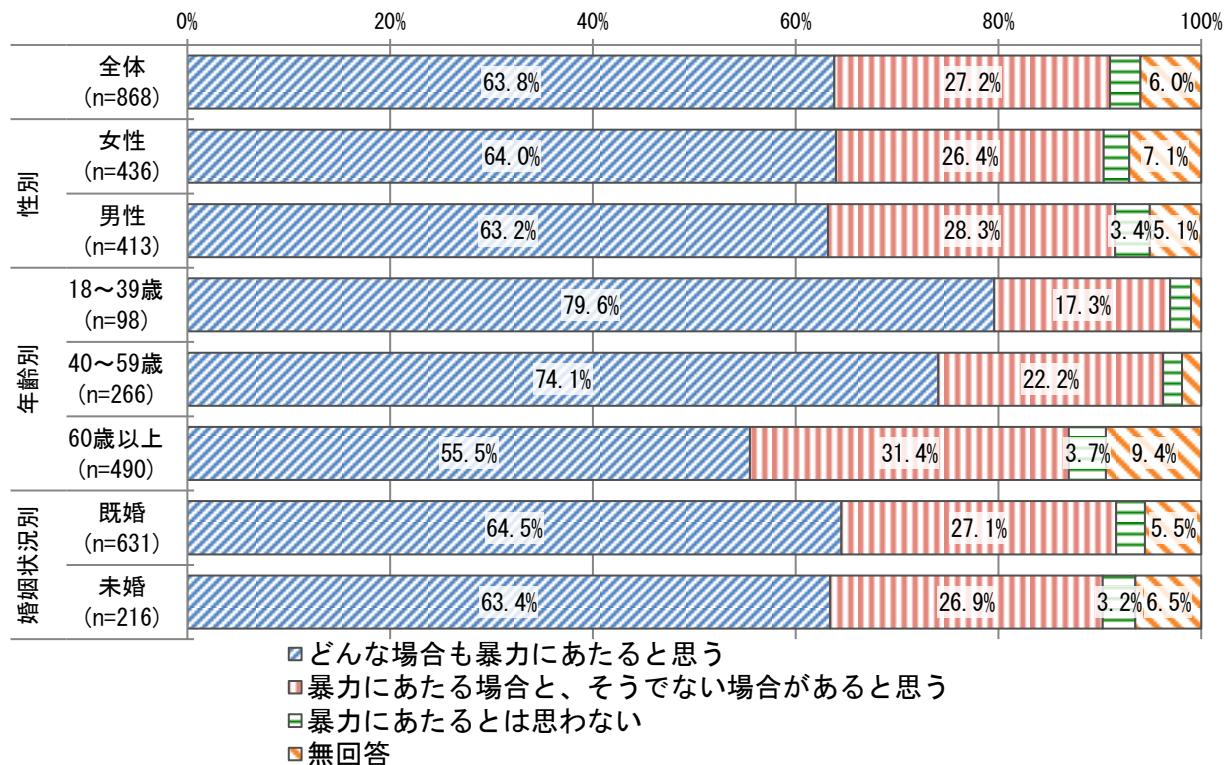
「どんな場合も暴力にあたると思う」が92.7%、「暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う」が1.8%、「暴力にあたるとは思わない」が0.2%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		全般	女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
	サンプル数	868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
どんな場合も暴力にあたると思う		805	401	385	92	257	442	593	194	199	145	199	240
		92.7%	92.0%	93.2%	93.9%	96.6%	90.2%	94.0%	89.8%	97.5%	93.5%	86.9%	93.0%
暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う		16	7	9	4	6	6	10	6	4	6	3	3
		1.8%	1.6%	2.2%	4.1%	2.3%	1.2%	1.6%	2.8%	2.0%	3.9%	1.3%	1.2%
暴力にあたるとは思わない		2	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	0
		0.2%	0.2%	0.2%	1.0%	0.0%	0.2%	0.2%	0.5%	0.0%	0.6%	0.4%	0.0%
無回答		45	27	18	1	3	41	27	15	1	3	26	15
		5.2%	6.2%	4.4%	1.0%	1.1%	8.4%	4.3%	6.9%	0.5%	1.9%	11.4%	5.8%

問15④ なぐるふりをして、おどす

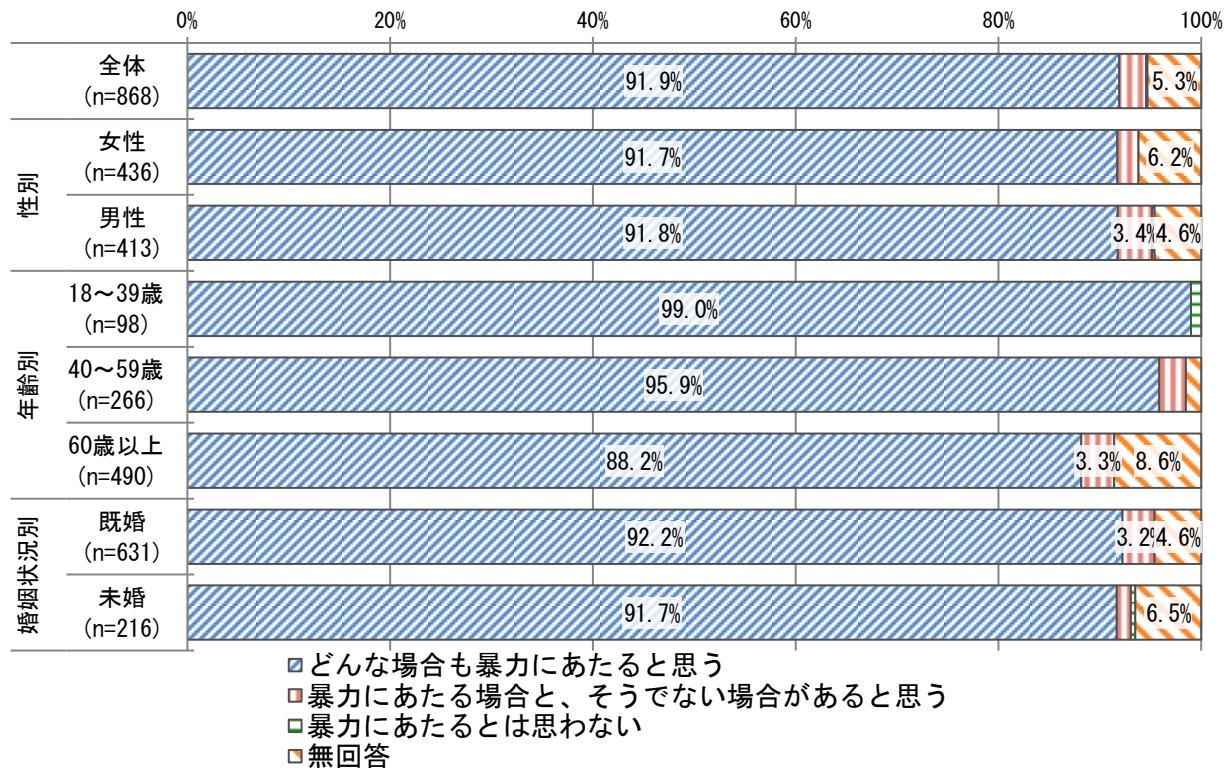
「どんな場合も暴力にあたると思う」が 63.8%、「暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う」が 27.2%、「暴力にあたるとは思わない」が 3.0%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別					
		全般	女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
					100.0%	100.0%	100.0%			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258	
どんな場合も暴力にあたると思う		554	279	261	78	197	272	407	137	156	114	122	147	
		63.8%	64.0%	63.2%	79.6%	74.1%	55.5%	64.5%	63.4%	76.5%	73.5%	53.3%	57.0%	
暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う		236	115	117	17	59	154	171	58	43	33	70	84	
		27.2%	26.4%	28.3%	17.3%	22.2%	31.4%	27.1%	26.9%	21.1%	21.3%	30.6%	32.6%	
暴力にあたるとは思わない		26	11	14	2	5	18	18	7	2	5	9	9	
		3.0%	2.5%	3.4%	2.0%	1.9%	3.7%	2.9%	3.2%	1.0%	3.2%	3.9%	3.5%	
無回答		52	31	21	1	5	46	35	14	3	3	28	18	
		6.0%	7.1%	5.1%	1.0%	1.9%	9.4%	5.5%	6.5%	1.5%	1.9%	12.2%	7.0%	

問15⑤ 刃物などを突きつけて、おどす

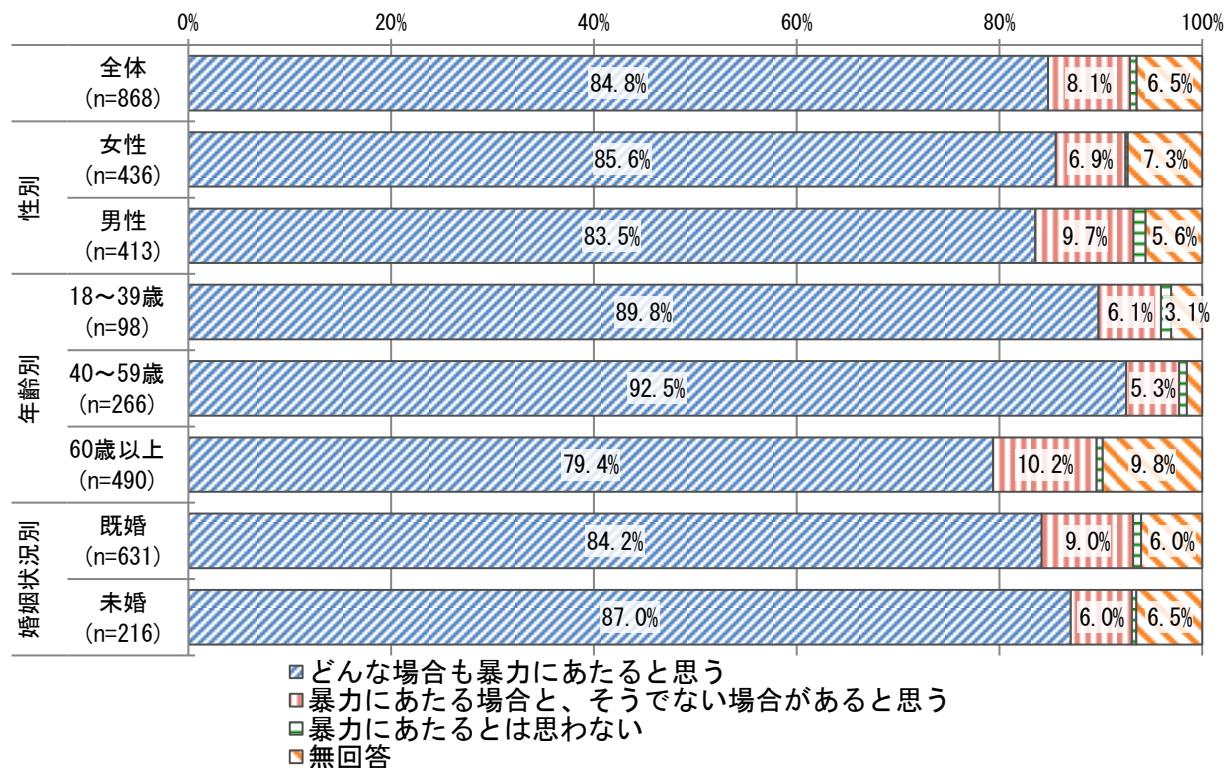
「どんな場合も暴力にあたると思う」が91.9%、「暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う」が2.6%、「暴力にあたるとは思わない」が0.1%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
どんな場合も暴力にあたると思う		798	400	379	97	255	432	582	198	200	147	197	232
		91.9%	91.7%	91.8%	99.0%	95.9%	88.2%	92.2%	91.7%	98.0%	94.8%	86.0%	89.9%
暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う		23	9	14	0	7	16	20	3	3	4	6	10
		2.6%	2.1%	3.4%	0.0%	2.6%	3.3%	3.2%	1.4%	1.5%	2.6%	2.6%	3.9%
暴力にあたるとは思わない		1	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0
		0.1%	0.0%	0.2%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
無回答		46	27	19	0	4	42	29	14	1	3	26	16
		5.3%	6.2%	4.6%	0.0%	1.5%	8.6%	4.6%	6.5%	0.5%	1.9%	11.4%	6.2%

問15⑥ 嫌がっているのに性的な行為を強要する

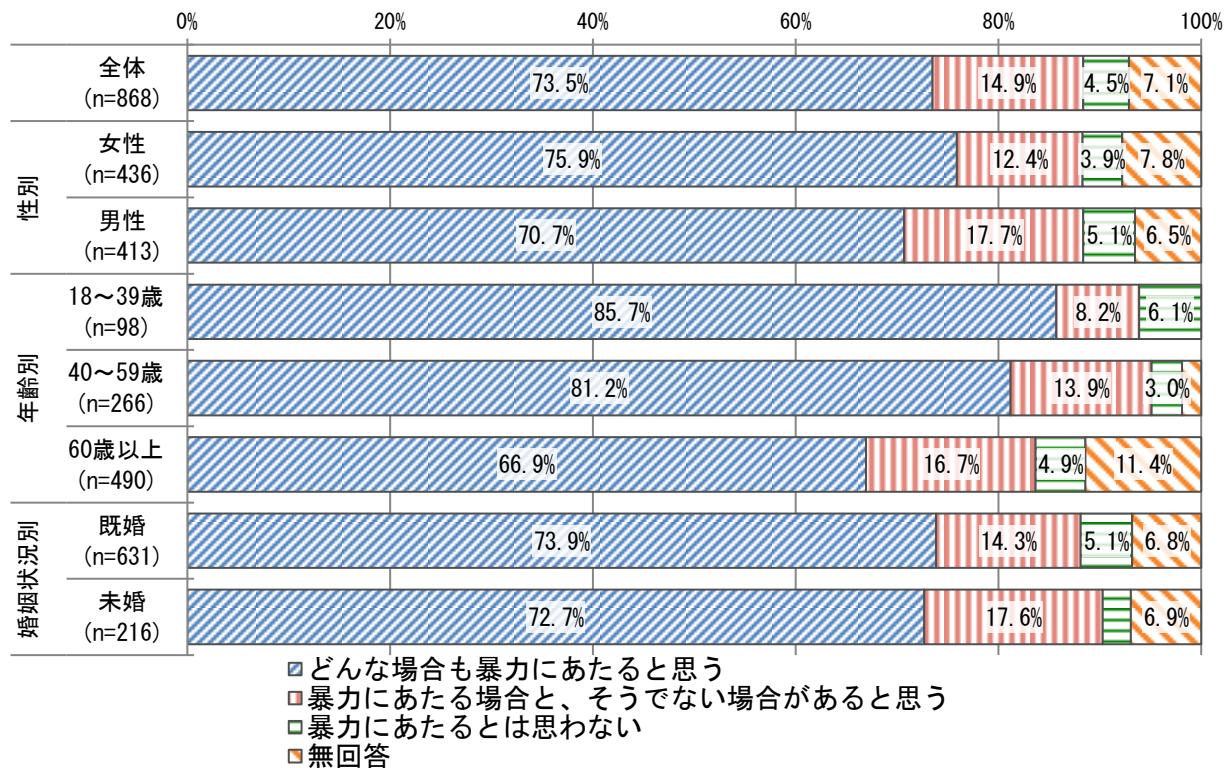
「どんな場合も暴力にあたると思う」が84.8%、「暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う」が8.1%、「暴力にあたるとは思わない」が0.7%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
どんな場合も暴力にあたると思う		736	373	345	88	246	389	531	188	191	138	179	207
		84.8%	85.6%	83.5%	89.8%	92.5%	79.4%	84.2%	87.0%	93.6%	89.0%	78.2%	80.2%
暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う		70	30	40	6	14	50	57	13	9	11	21	29
		8.1%	6.9%	9.7%	6.1%	5.3%	10.2%	9.0%	6.0%	4.4%	7.1%	9.2%	11.2%
暴力にあたるとは思わない		6	1	5	1	2	3	5	1	1	2	0	3
		0.7%	0.2%	1.2%	1.0%	0.8%	0.6%	0.8%	0.5%	0.5%	1.3%	0.0%	1.2%
無回答		56	32	23	3	4	48	38	14	3	4	29	19
		6.5%	7.3%	5.6%	3.1%	1.5%	9.8%	6.0%	6.5%	1.5%	2.6%	12.7%	7.4%

問15⑦ 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

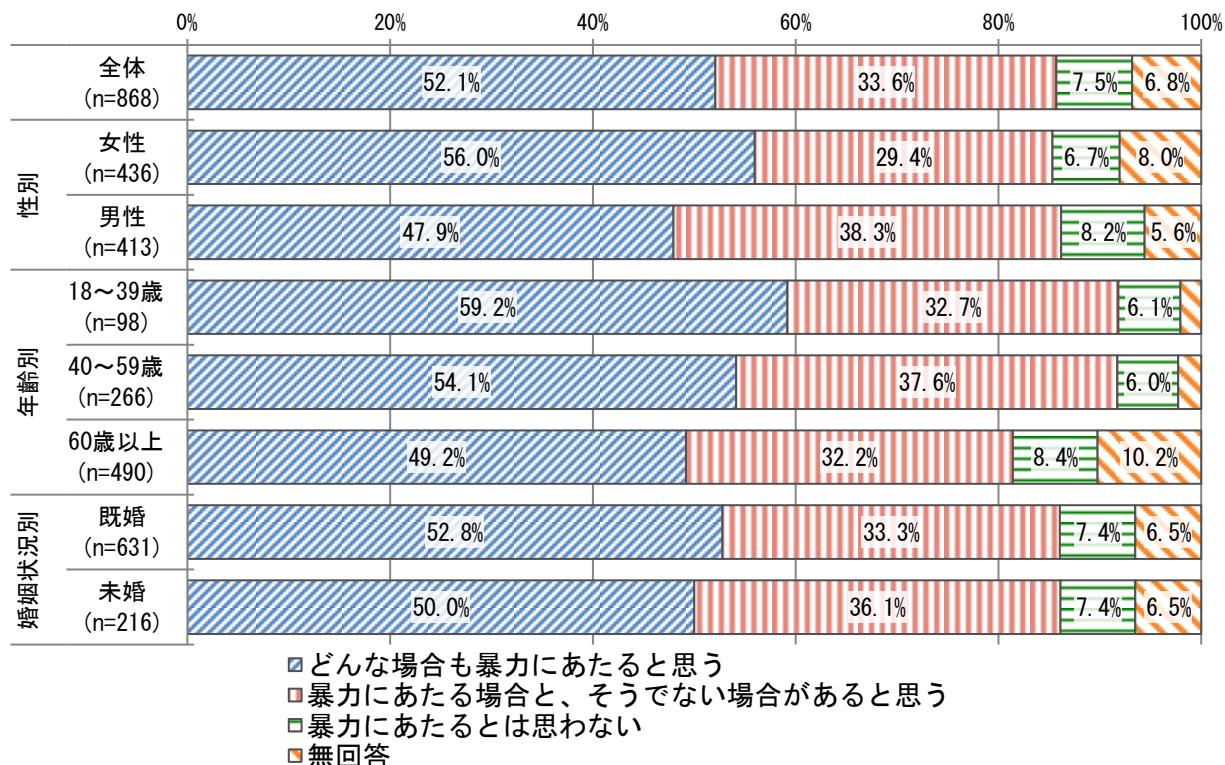
「どんな場合も暴力にあたると思う」が73.5%、「暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う」が14.9%、「暴力にあたるとは思わない」が4.5%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別			
		女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
サンプル数	868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
どんな場合も暴力にあたると思う	638	331	292	84	216	328	466	157	176	120	153	172
	73.5%	75.9%	70.7%	85.7%	81.2%	66.9%	73.9%	72.7%	86.3%	77.4%	66.8%	66.7%
暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う	129	54	73	8	37	82	90	38	21	23	32	50
	14.9%	12.4%	17.7%	8.2%	13.9%	16.7%	14.3%	17.6%	10.3%	14.8%	14.0%	19.4%
暴力にあたるとは思わない	39	17	21	6	8	24	32	6	6	8	11	13
	4.5%	3.9%	5.1%	6.1%	3.0%	4.9%	5.1%	2.8%	2.9%	5.2%	4.8%	5.0%
無回答	62	34	27	0	5	56	43	15	1	4	33	23
	7.1%	7.8%	6.5%	0.0%	1.9%	11.4%	6.8%	6.9%	0.5%	2.6%	14.4%	8.9%

問15⑧ 何を言っても長時間無視し続ける

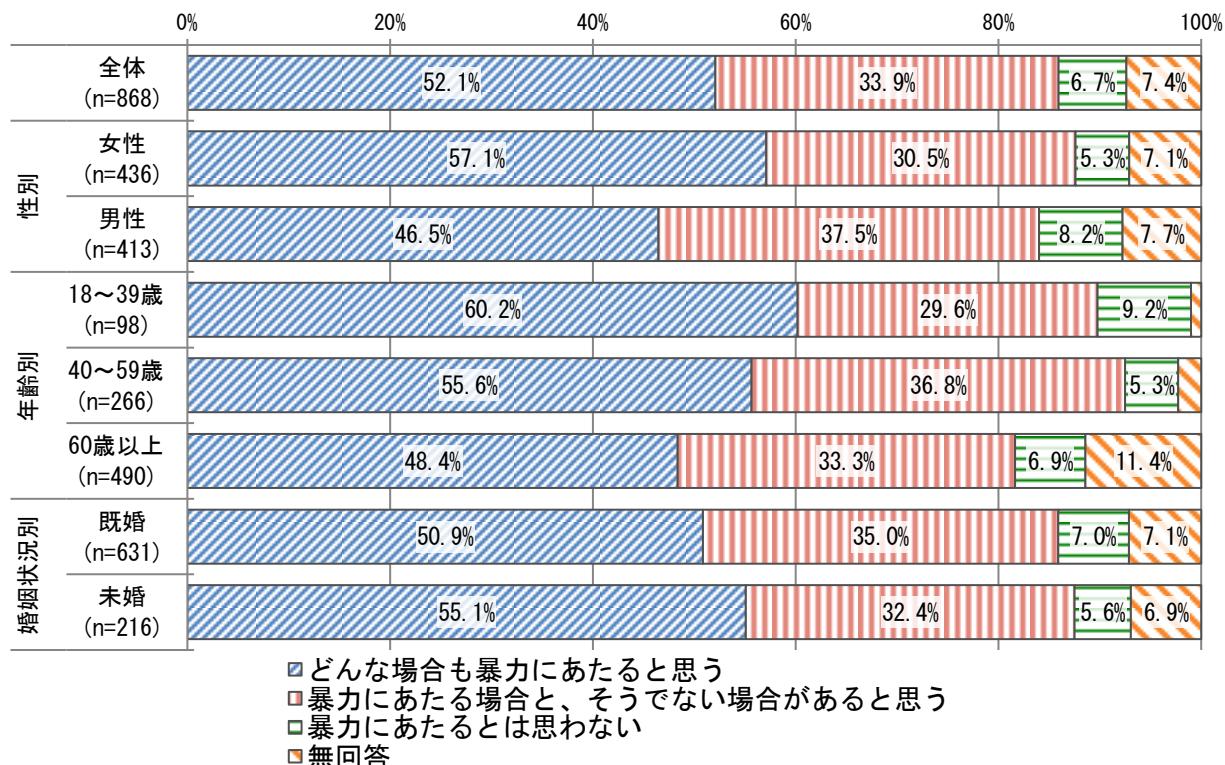
「どんな場合も暴力にあたると思う」が52.1%、「暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う」が33.6%、「暴力にあたるとは思わない」が7.5%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
どんな場合も暴力にあたると思う		452	244	198	58	144	241	333	108	117	82	124	116
		52.1%	56.0%	47.9%	59.2%	54.1%	49.2%	52.8%	50.0%	57.4%	52.9%	54.1%	45.0%
暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う		292	128	158	32	100	158	210	78	74	56	54	102
		33.6%	29.4%	38.3%	32.7%	37.6%	32.2%	33.3%	36.1%	36.3%	36.1%	23.6%	39.5%
暴力にあたるとは思わない		65	29	34	6	16	41	47	16	8	14	21	20
		7.5%	6.7%	8.2%	6.1%	6.0%	8.4%	7.4%	7.4%	3.9%	9.0%	9.2%	7.8%
無回答		59	35	23	2	6	50	41	14	5	3	30	20
		6.8%	8.0%	5.6%	2.0%	2.3%	10.2%	6.5%	6.5%	2.5%	1.9%	13.1%	7.8%

問15⑨ 交際関係や電話を細かく監視する

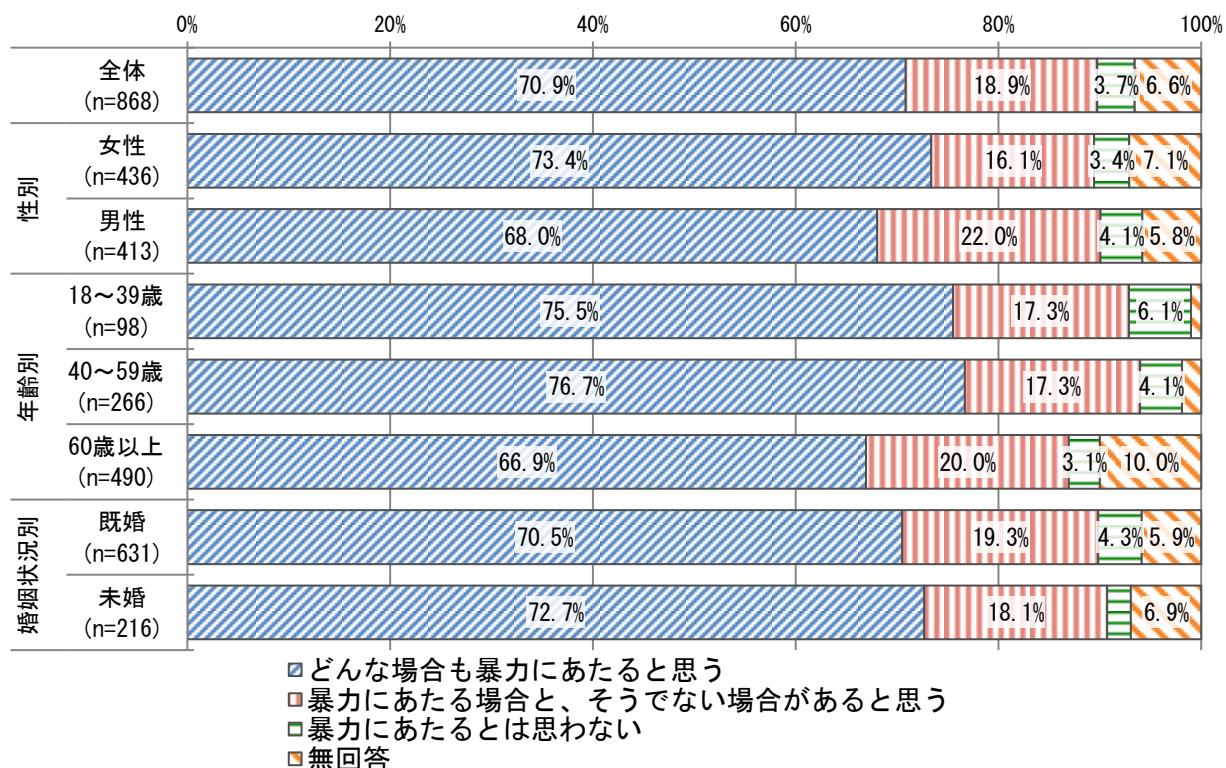
「どんな場合も暴力にあたると思う」が52.1%、「暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う」が33.9%、「暴力にあたるとは思わない」が6.7%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
どんな場合も暴力にあたると思う		452	249	192	59	148	237	321	119	129	75	118	117
		52.1%	57.1%	46.5%	60.2%	55.6%	48.4%	50.9%	55.1%	63.2%	48.4%	51.5%	45.3%
暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う		294	133	155	29	98	163	221	70	68	57	64	98
		33.9%	30.5%	37.5%	29.6%	36.8%	33.3%	35.0%	32.4%	33.3%	36.8%	27.9%	38.0%
暴力にあたるとは思わない		58	23	34	9	14	34	44	12	6	17	17	17
		6.7%	5.3%	8.2%	9.2%	5.3%	6.9%	7.0%	5.6%	2.9%	11.0%	7.4%	6.6%
無回答		64	31	32	1	6	56	45	15	1	6	30	26
		7.4%	7.1%	7.7%	1.0%	2.3%	11.4%	7.1%	6.9%	0.5%	3.9%	13.1%	10.1%

問15⑩ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいじょうなし」とか言う

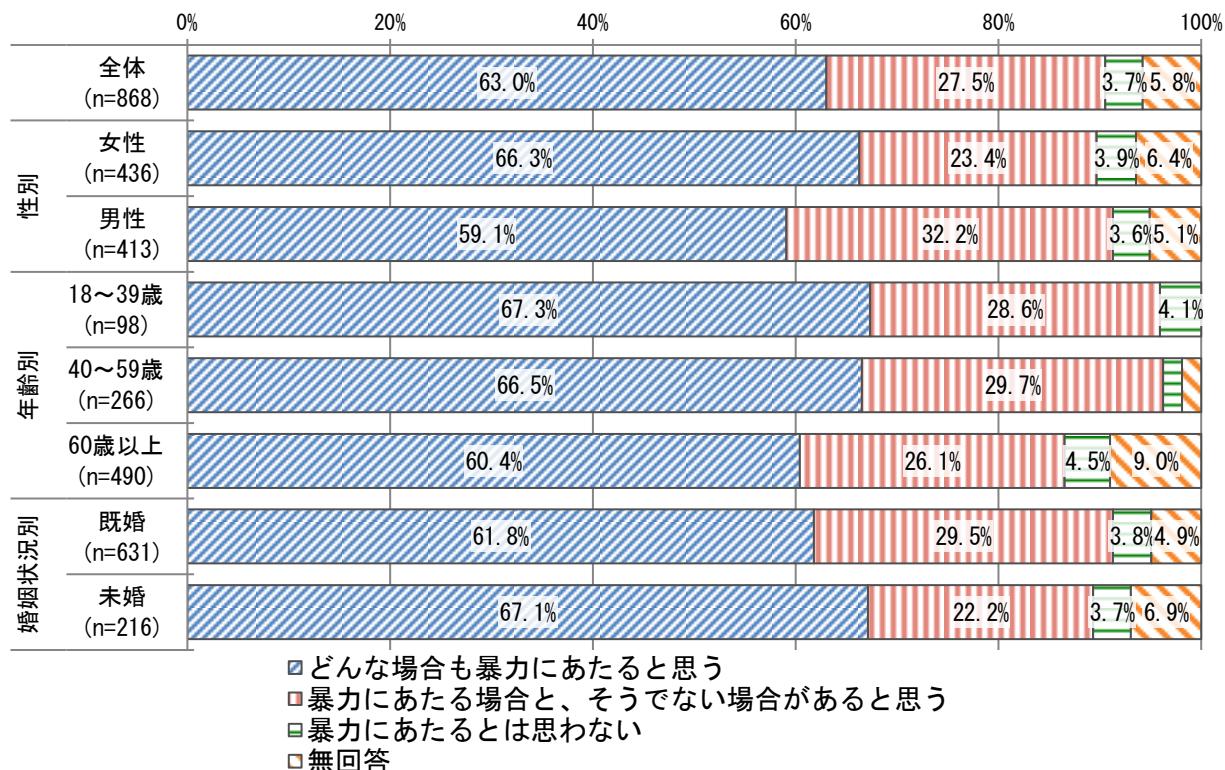
「どんな場合も暴力にあたると思う」が70.9%、「暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う」が18.9%、「暴力にあたるとは思わない」が3.7%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別					
		女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性		
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
どんな場合も暴力にあたると思う		615	320	281	74	204	328	445	157	166	109	153	172	
		70.9%	73.4%	68.0%	75.5%	76.7%	66.9%	70.5%	72.7%	81.4%	70.3%	66.8%	66.7%	
暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う		164	70	91	17	46	98	122	39	30	31	38	60	
		18.9%	16.1%	22.0%	17.3%	17.3%	20.0%	19.3%	18.1%	14.7%	20.0%	16.6%	23.3%	
暴力にあたるとは思わない		32	15	17	6	11	15	27	5	7	10	8	7	
		3.7%	3.4%	4.1%	6.1%	4.1%	3.1%	4.3%	2.3%	3.4%	6.5%	3.5%	2.7%	
無回答		57	31	24	1	5	49	37	15	1	5	30	19	
		6.6%	7.1%	5.8%	1.0%	1.9%	10.0%	5.9%	6.9%	0.5%	3.2%	13.1%	7.4%	

問15⑪ 大声でどなる

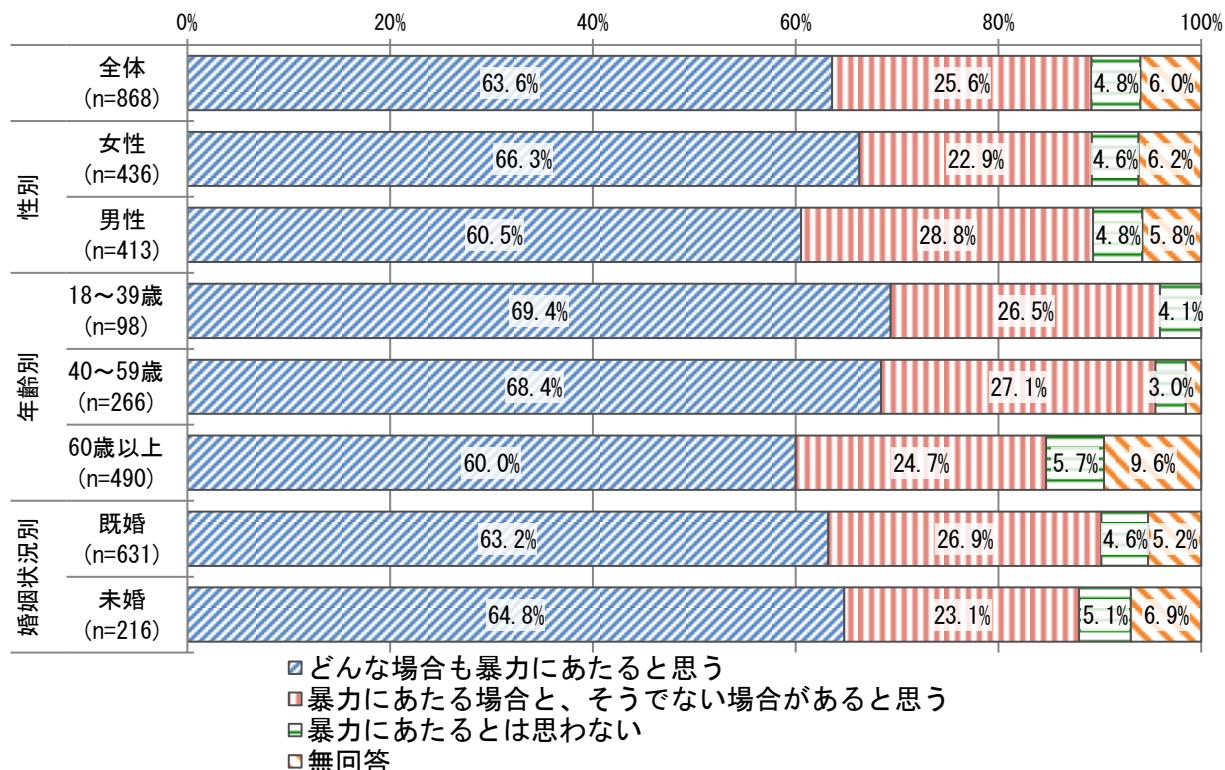
「どんな場合も暴力にあたると思う」が 63.0%、「暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う」が 27.5%、「暴力にあたるとは思わない」が 3.7%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
どんな場合も暴力にあたると思う		547	289	244	66	177	296	390	145	145	94	143	150
		63.0%	66.3%	59.1%	67.3%	66.5%	60.4%	61.8%	67.1%	71.1%	60.6%	62.4%	58.1%
暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う		239	102	133	28	79	128	186	48	55	51	46	82
		27.5%	23.4%	32.2%	28.6%	29.7%	26.1%	29.5%	22.2%	27.0%	32.9%	20.1%	31.8%
暴力にあたるとは思わない		32	17	15	4	5	22	24	8	2	7	14	8
		3.7%	3.9%	3.6%	4.1%	1.9%	4.5%	3.8%	3.7%	1.0%	4.5%	6.1%	3.1%
無回答		50	28	21	0	5	44	31	15	2	3	26	18
		5.8%	6.4%	5.1%	0.0%	1.9%	9.0%	4.9%	6.9%	1.0%	1.9%	11.4%	7.0%

問15⑫ 常に命令口調で話す

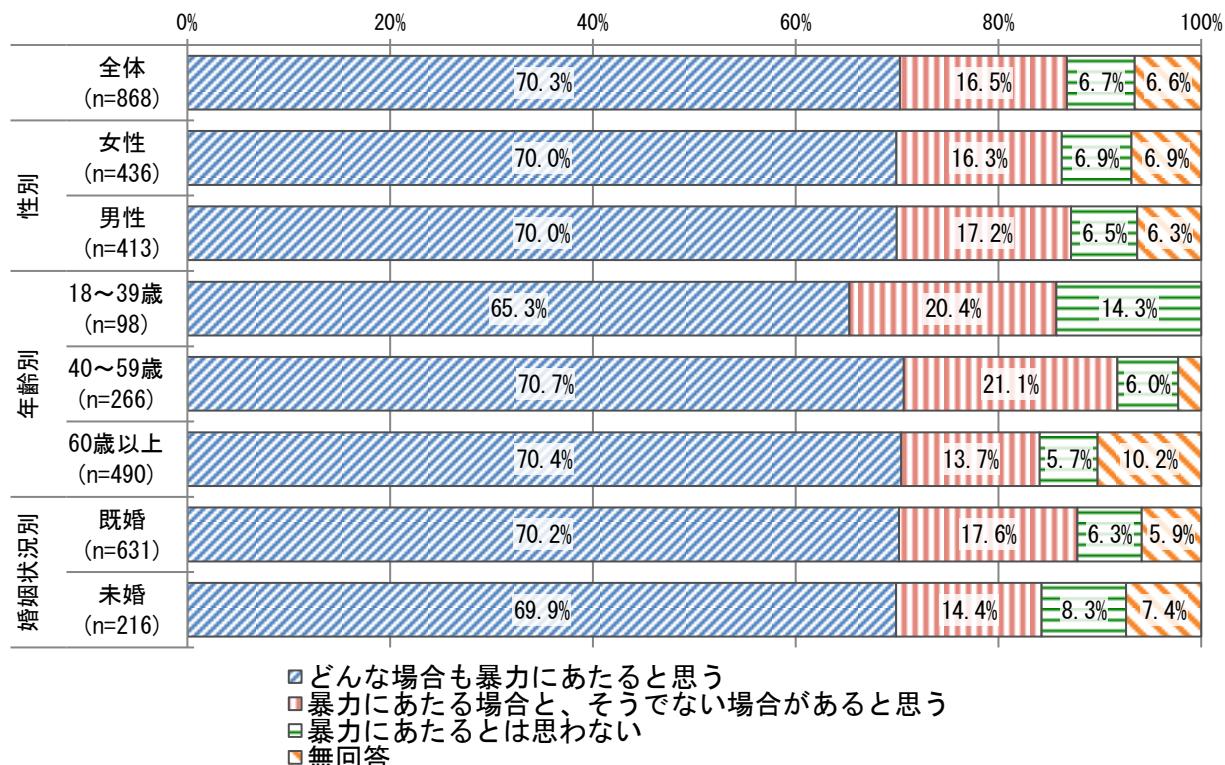
「どんな場合も暴力にあたると思う」が63.6%、「暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う」が25.6%、「暴力にあたるとは思わない」が4.8%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別					
		女性	男性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	既婚	未婚	18～59歳女性	18～59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性		
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
どんな場合も暴力にあたると思う		552	289	250	68	182	294	399	140	150	96	137	154	
		63.6%	66.3%	60.5%	69.4%	68.4%	60.0%	63.2%	64.8%	73.5%	61.9%	59.8%	59.7%	
暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う		222	100	119	26	72	121	170	50	51	46	48	73	
		25.6%	22.9%	28.8%	26.5%	27.1%	24.7%	26.9%	23.1%	25.0%	29.7%	21.0%	28.3%	
暴力にあたるとは思わない		42	20	20	4	8	28	29	11	3	9	17	11	
		4.8%	4.6%	4.8%	4.1%	3.0%	5.7%	4.6%	5.1%	1.5%	5.8%	7.4%	4.3%	
無回答		52	27	24	0	4	47	33	15	0	4	27	20	
		6.0%	6.2%	5.8%	0.0%	1.5%	9.6%	5.2%	6.9%	0.0%	2.6%	11.8%	7.8%	

問15⑬ 家に生活費を入れない

「どんな場合も暴力にあたると思う」が70.3%、「暴力にあたる場合と、そうでない場合があると思う」が16.5%、「暴力にあたるとは思わない」が6.7%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別					
		全体	女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
何度もあった		35	26	9	5	15	15	23	12	12	8	14	1	
		4.0%	6.0%	2.2%	5.1%	5.6%	3.1%	3.6%	5.6%	5.9%	5.2%	6.1%	0.4%	
1、2度あった		122	70	49	11	42	65	95	23	35	18	34	31	
		14.1%	16.1%	11.9%	11.2%	15.8%	13.3%	15.1%	10.6%	17.2%	11.6%	14.8%	12.0%	
まったくない		640	315	310	81	202	348	478	149	155	123	158	187	
		73.7%	72.2%	75.1%	82.7%	75.9%	71.0%	75.8%	69.0%	76.0%	79.4%	69.0%	72.5%	
無回答		71	25	45	1	7	62	35	32	2	6	23	39	
		8.2%	5.7%	10.9%	1.0%	2.6%	12.7%	5.5%	14.8%	1.0%	3.9%	10.0%	15.1%	

問16

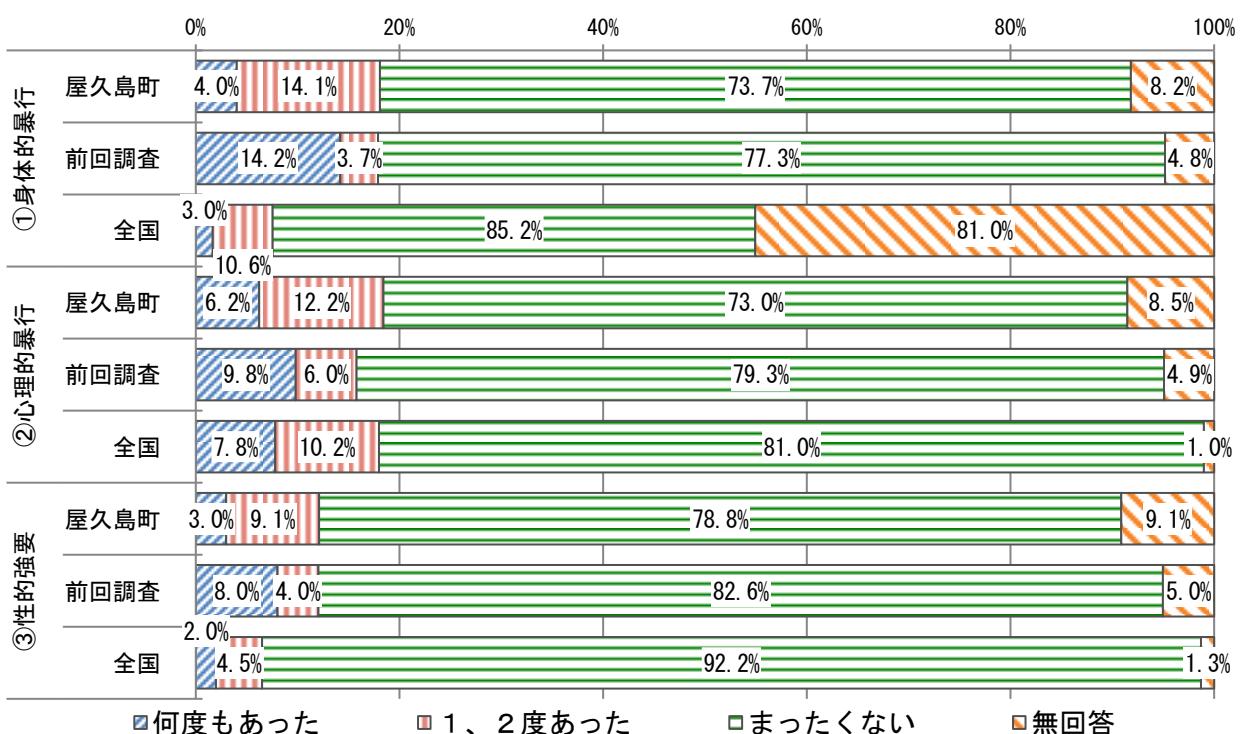
あなたはこれまでに、あなたの恋人や元恋人などの交際相手や、配偶者から次のようなことをされたことがありますか。(①～③のそれぞれに○を1つ)
 ※ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含みます。

「何度もあった」と「1、2度あった」の合計を見ると、『①身体的暴行』が18.1%、『②心理的攻撃』が18.4%、『③性的強要』が12.1%となっています。

前回調査と比較すると、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計はやや増加しているものの、「何度もあった」の割合は『①身体的暴行』で10.2ポイント減、『②心理的暴行』で3.6ポイント減、『③性的強要』で5.0ポイント減と、頻度は減っている状況がうかがえます。

「何度もあった」と「1、2度あった」の合計を全国調査と比較すると、すべての項目で上回っています。

①～③のうち1つでも「何度もあった」または「1、2度あった」と回答した人の割合は、全体28.2% (245/868)、女性33.3% (145/436)、男性23.5% (97/413) となっています。



■ 「何度もあった」と「1、2度あった」の合計

項目	屋久島町	前回調査	全国調査（令和5年度）
①身体的暴行	18.1%	17.9%	13.6%
②心理的攻撃	18.4%	15.8%	18.0%
③性的強要	12.1%	12.0%	6.5%

※身体的暴行：なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた

心理的攻撃：人格を否定するような暴言、交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家庭に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

性的強要：嫌がっているのに性的な行為を強要された

「何度もあった」と「1、2度あった」の合計について性別でみると、全ての項目で女性が男性を上回っており、①は8.0ポイント差、②は2.0ポイント差、③は15.1ポイント差となっており、身体的暴行は男性の約1.5倍の女性が、性的強要は約4倍の女性が経験しています。

年齢別でみると、40～59歳の層が①～③の全ての項目で他の年齢層よりも高くなっています。（図表省略）

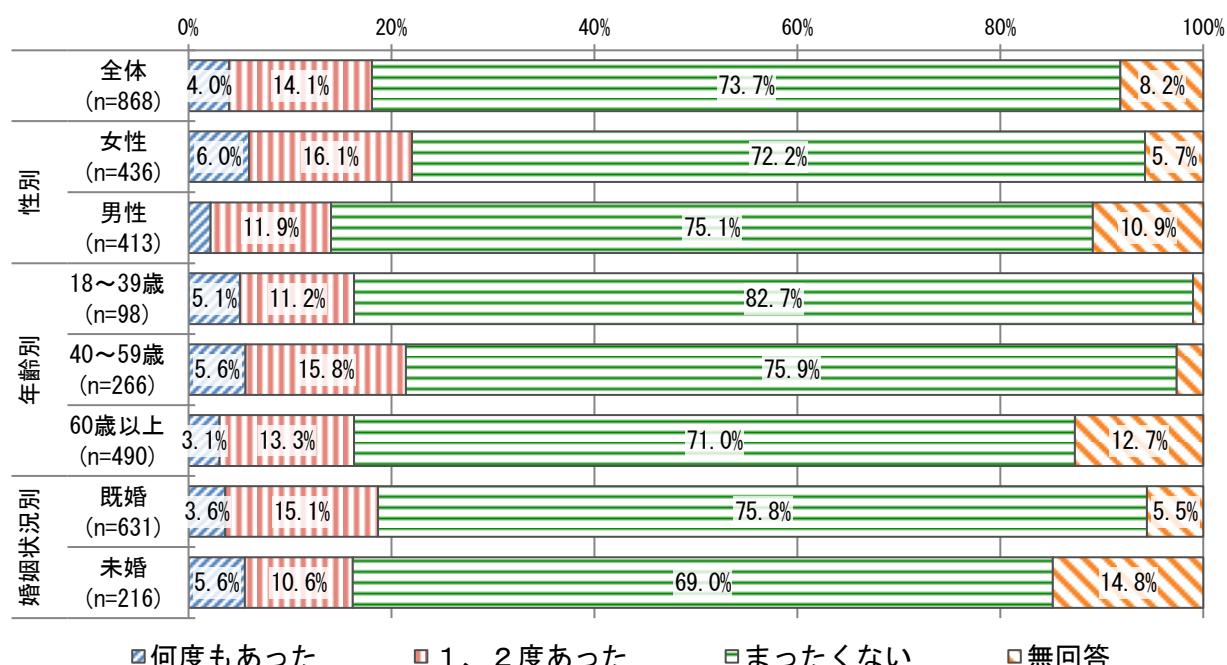
■ 「何度もあった」と「1、2度あった」の合計（性別）

項目	町全体 (n=868)	女性(n=436)	男性(n=413)
①身体的暴行	18.1%	22.1%	14.1%
②心理的攻撃	18.4%	19.7%	17.7%
③性的強要	12.1%	19.7%	4.6%

身体的暴行

問16①（なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた）

「何度もあった」が4.0%、「1、2度あった」が14.1%、「まったくない」が73.7%となっています。



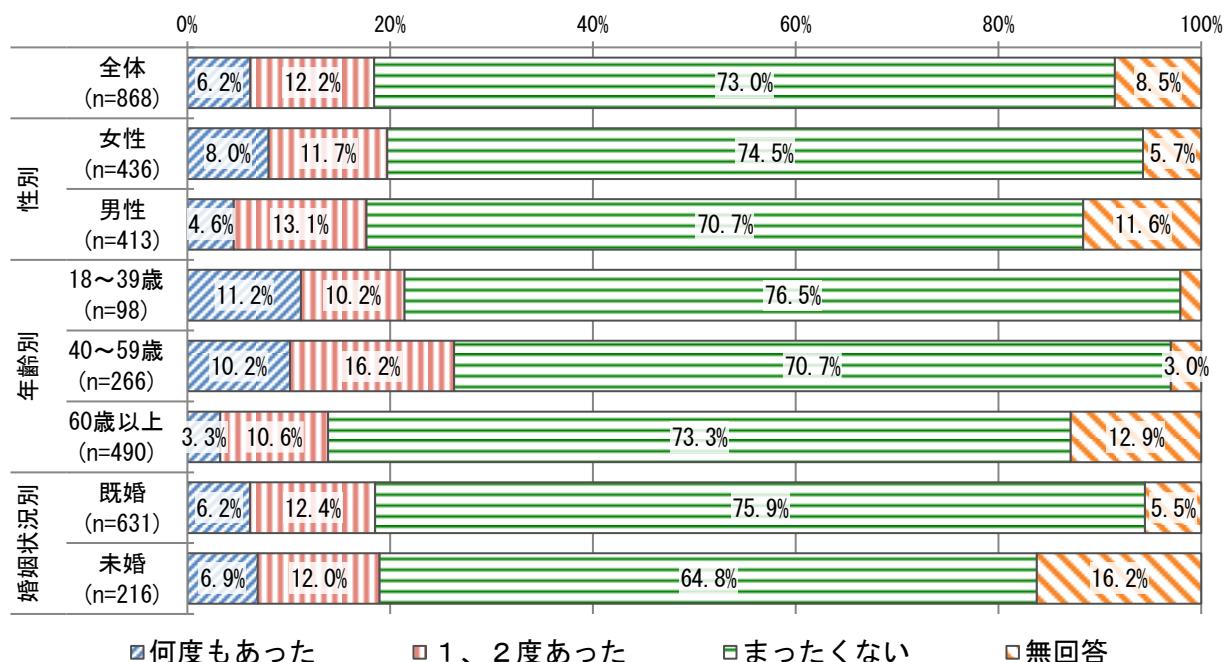
■ 何度もあった ■ 1、2度あった ■ まったくない ■ 無回答

	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		全体	女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
何度もあった		35	26	9	5	15	15	23	12	12	8	14	1
1、2度あった		122	70	49	11	42	65	95	23	35	18	34	31
まったくない		640	315	310	81	202	348	478	149	155	123	158	187
無回答		71	25	45	1	7	62	35	32	2	6	23	39
		8.2%	5.7%	10.9%	1.0%	2.6%	12.7%	5.5%	14.8%	1.0%	3.9%	10.0%	15.1%

心理的攻撃

問16② (人格を否定するような暴言、交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家庭に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた)

「何度もあった」が6.2%、「1、2度あった」が12.2%、「まったくない」が73.0%となっています。



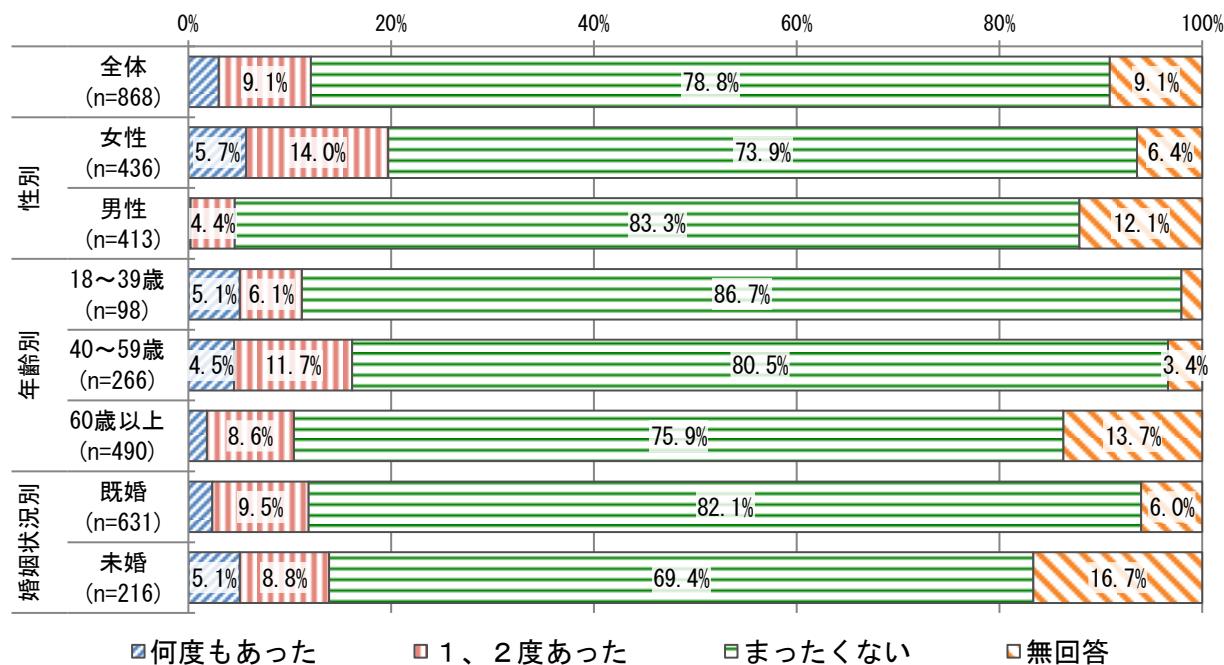
□何度もあった □1、2度あった □まったくない □無回答

	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
何度もあった		54	35	19	11	27	16	39	15	26	12	9	7
1、2度あった		106	51	54	10	43	52	78	26	26	27	25	27
まったくない		634	325	292	75	188	359	479	140	150	108	172	184
無回答		74	25	48	2	8	63	35	35	2	8	23	40
		8.5%	5.7%	11.6%	2.0%	3.0%	12.9%	5.5%	16.2%	1.0%	5.2%	10.0%	15.5%

性的強要

問16③ (嫌がっているのに性的な行為を強要された)

「何度もあった」が3.0%、「1、2度あった」が9.1%、「まったくない」が78.8%となっています。



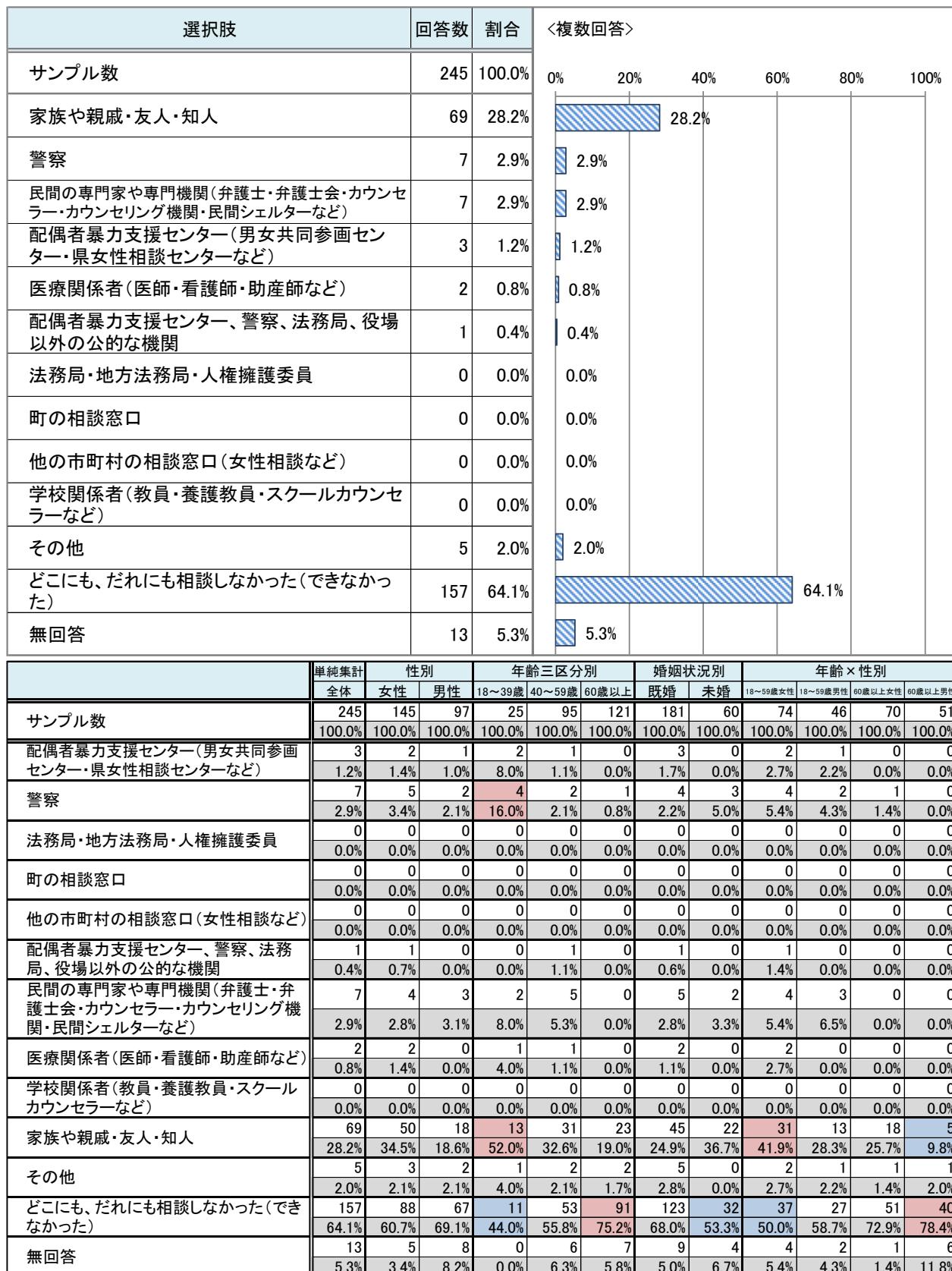
■何度もあった ■1、2度あった ■まったくない ■無回答

		単純集計		性別			年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別													
		全般		女性	男性		18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性										
		サンプル数	割合	サンプル数	割合		サンプル数	割合	サンプル数	割合	サンプル数	割合	サンプル数	割合	サンプル数	割合									
何度もあった		26	3.0%	25	5.7%	1	0.2%	5	5.1%	12	4.5%	9	1.8%	15	2.4%	11	5.1%	16	7.8%	1	0.6%	9	3.9%	0	0.0%
1、2度あった		79	9.1%	61	14.0%	18	4.4%	6	6.1%	31	11.7%	42	8.6%	60	9.5%	19	8.8%	32	15.7%	5	3.2%	29	12.7%	13	5.0%
まったくない		684	78.8%	322	73.9%	344	83.3%	85	86.7%	214	80.5%	372	75.9%	518	82.1%	150	69.4%	154	75.5%	140	90.3%	165	72.1%	204	79.1%
無回答		79	9.1%	28	6.4%	50	12.1%	2	2.0%	9	3.4%	67	13.7%	38	6.0%	36	16.7%	2	1.0%	9	5.8%	26	11.4%	41	15.9%

問17

問17は、問16の①～③で「1」「2」のいずれかに回答した方に伺います。
あなたはそのことを、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。(○はいくつでも)

「どこにも、だれにも相談しなかった(できなかった)」が64.1%と最も高く、次いで「家族や親戚・友人・知人」が28.2%、「警察」と「民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会・カウンセラー・カウンセリング機関・民間シェルターなど)」が2.9%となっています。



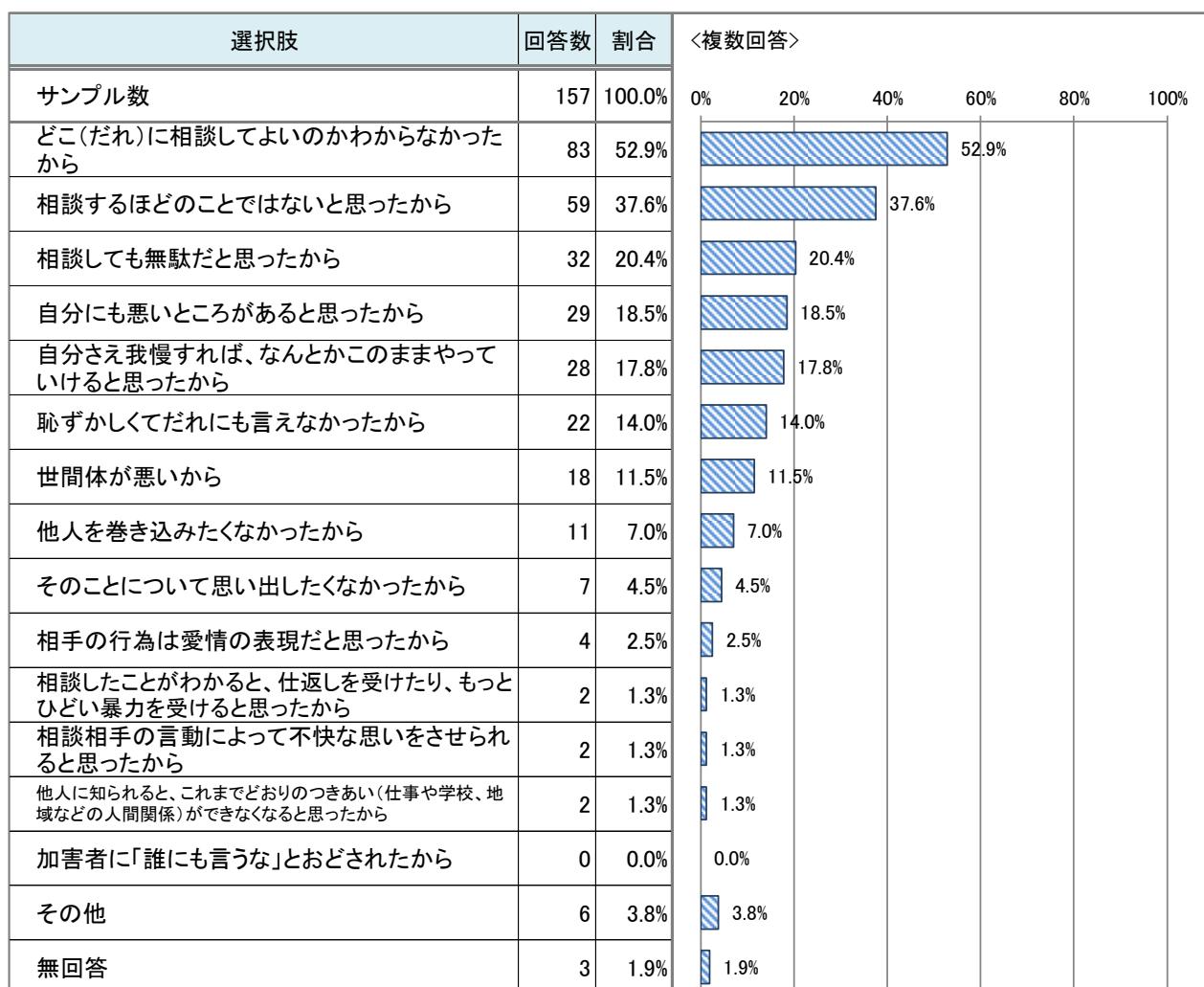
■ その他の内容

- ◇相談することで自分を責めてしまうこともある。
- ◇私もケンカの時はやり返したので、友人に話した。
- ◇口喧嘩だったので人に言うほどではなかった。
- ◇わからない。

問18は、問17で「12.どこにも、だれにも相談しなかった（できなかった）」に回答した方に伺います。

問18 どこにも、だれにも相談しなかった（できなかった）のはなぜですか。（○はいくつでも）

「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」が52.9%と最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」が37.6%、「相談しても無駄だと思ったから」が20.4%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		全体	女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
					100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
サンプル数		157	88	67	11	53	91	123	32	37	27	51	40
どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかつたから		83	19	20	6	20	13	25	14	13	13	6	7
		52.9%	21.6%	29.9%	54.5%	37.7%	14.3%	20.3%	43.8%	35.1%	48.1%	11.8%	17.5%
恥ずかしくてだれにも言えなかつたから		22	11	10	1	4	16	17	4	4	1	7	9
		14.0%	12.5%	14.9%	9.1%	7.5%	17.6%	13.8%	12.5%	10.8%	3.7%	13.7%	22.5%
相談しても無駄だと思ったから		32	21	10	2	10	19	21	10	7	5	14	5
		20.4%	23.9%	14.9%	18.2%	18.9%	20.9%	17.1%	31.3%	18.9%	18.5%	27.5%	12.5%
相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから		2	2	0	0	2	0	1	1	2	0	0	0
		1.3%	2.3%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%	0.8%	3.1%	5.4%	0.0%	0.0%	0.0%
加害者に「誰にも言うな」とおどされたから		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから		2	1	1	0	0	2	2	0	0	0	1	1
		1.3%	1.1%	1.5%	0.0%	0.0%	2.2%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	2.5%
自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやつていけると思ったから		28	16	11	1	4	22	20	7	5	0	11	11
		17.8%	18.2%	16.4%	9.1%	7.5%	24.2%	16.3%	21.9%	13.5%	0.0%	21.6%	27.5%
世間体が悪いから		18	7	10	0	2	15	12	5	0	2	7	8
		11.5%	8.0%	14.9%	0.0%	3.8%	16.5%	9.8%	15.6%	0.0%	7.4%	13.7%	20.0%
他人を巻き込みたくないから		11	7	4	1	3	7	7	4	4	0	3	4
		7.0%	8.0%	6.0%	9.1%	5.7%	7.7%	5.7%	12.5%	10.8%	0.0%	5.9%	10.0%
他人に知られると、これまでどおりのつきあい(仕事や学校、地域などの人間関係)ができなくなると思ったから		2	2	0	0	1	1	0	2	1	0	1	0
		1.3%	2.3%	0.0%	0.0%	1.9%	1.1%	0.0%	6.3%	2.7%	0.0%	2.0%	0.0%
そのことについて思い出したくなかったから		7	5	2	0	3	4	5	2	3	0	2	2
		4.5%	5.7%	3.0%	0.0%	5.7%	4.4%	4.1%	6.3%	8.1%	0.0%	3.9%	5.0%
自分にも悪いところがあると思ったから		29	11	18	1	6	22	23	6	3	4	8	14
		18.5%	12.5%	26.9%	9.1%	11.3%	24.2%	18.7%	18.8%	8.1%	14.8%	15.7%	35.0%
相手の行為は愛情の表現だと思ったから		4	4	0	0	1	3	4	0	1	0	3	0
		2.5%	4.5%	0.0%	0.0%	1.9%	3.3%	3.3%	0.0%	2.7%	0.0%	5.9%	0.0%
相談するほどのことではないと思ったから		59	32	27	2	11	46	54	5	6	7	26	20
		37.6%	36.4%	40.3%	18.2%	20.8%	50.5%	43.9%	15.6%	16.2%	25.9%	51.0%	50.0%
その他		6	4	2	0	3	3	5	1	2	1	2	1
		3.8%	4.5%	3.0%	0.0%	5.7%	3.3%	4.1%	3.1%	5.4%	3.7%	3.9%	2.5%
無回答		3	1	1	0	2	0	2	0	1	1	0	0
		1.9%	1.1%	1.5%	0.0%	3.8%	0.0%	1.6%	0.0%	2.7%	3.7%	0.0%	0.0%

■ その他の内容

- ◇誰しもが当たり前に経験していることだと思ったから。
- ◇自分も相手を否定したり、傷つけるようなことを言ってしまうことがあるから。
- ◇相手がおいつめられる原因が少なからず自分にもある事を理解しているから。
- ◇いつも言われるのではなく、仕事で帰りが遅くなったりした時だけだったから。

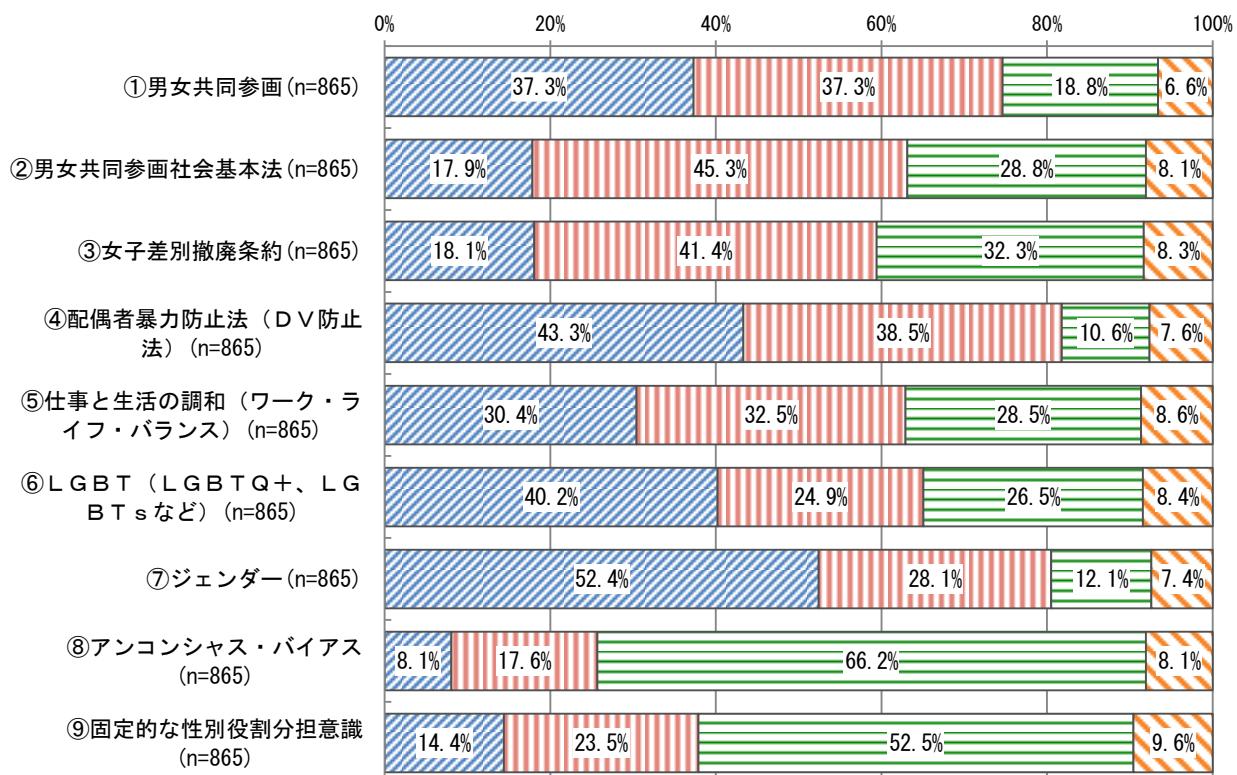
5 男女共同参画について

問19 あなたは、男女共同参画に関する深い用語について知っていますか。(①～⑨のそれに○を1つ)

「言葉も内容も知っている」の割合についてみると、『⑦ジェンダー』が52.4%と最も高く、『⑧アンコンシャス・バイアス』が8.1%と最も低くなっています。

法律である②～④では「言葉は知っているが内容は知らない」が3～4割台となっていることから、内容は知らなくても言葉そのものは目にしているケースが多いことがうがえます。

年齢別でみると、18歳～39歳の層では9項目中4項目が50%以上、40～59歳の層では3項目が50%以上であるのに対し、60歳以上ではすべての項目が50%未満となっています。



■ 言葉も内容も知っている □ 言葉は知っているが内容は知らない ▨ 言葉も内容も知らない ▨ 無回答

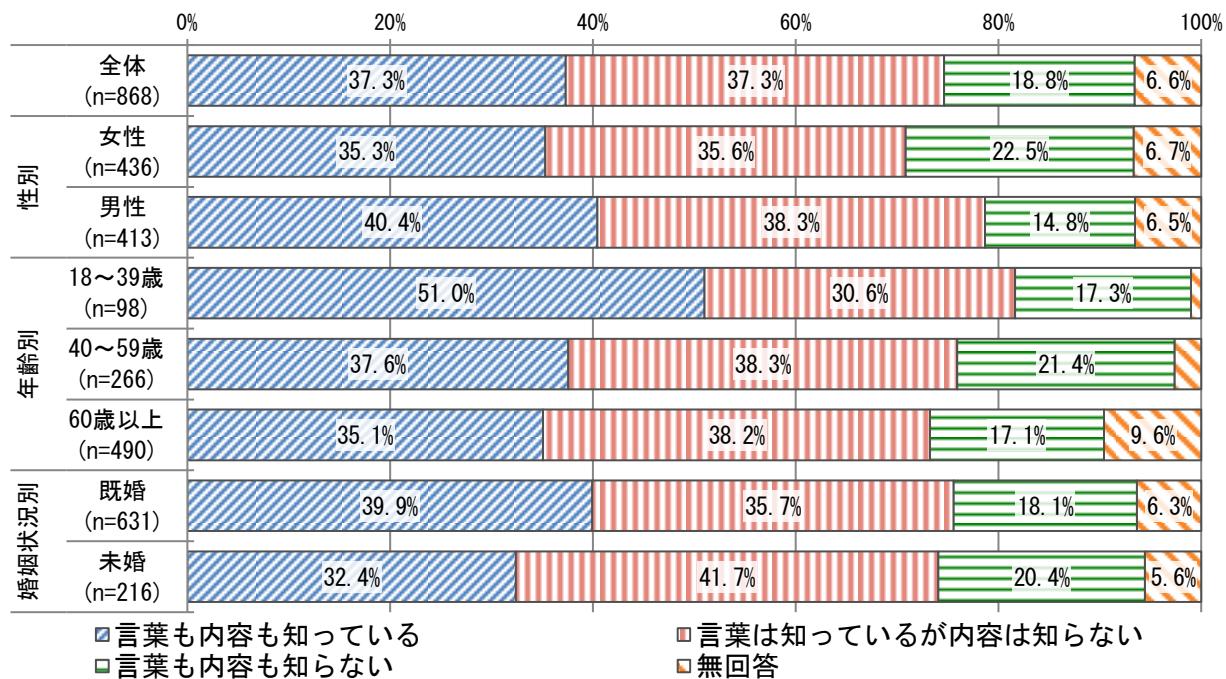
■ 「言葉も内容も知っている」の割合 (年齢別)

(※50%以上をオレンジで、25%以上を黄色でマーク)

項目	町全体 (n=871)	18～39歳 (n=98)	40～59歳 (n=266)	60歳以上 (n=490)
①男女共同参画	37.3%	51.0%	37.6%	35.1%
②男女共同参画社会基本法	17.9%	32.7%	19.2%	14.5%
③女子差別撤廃条約	18.1%	23.5%	21.1%	15.5%
④配偶者暴力防止法 (DV防止法)	43.3%	36.7%	50.0%	41.2%
⑤仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)	30.4%	57.1%	37.6%	21.4%
⑥LGBT (LGBTQ+、LGBTsなど)	40.2%	73.5%	58.3%	24.3%
⑦ジェンダー	52.4%	76.5%	68.8%	39.6%
⑧アンコンシャス・バイアス	8.1%	16.3%	13.2%	3.9%
⑨固定的な性別役割分担意識	14.4%	25.5%	16.9%	11.0%

問19① 男女共同参画

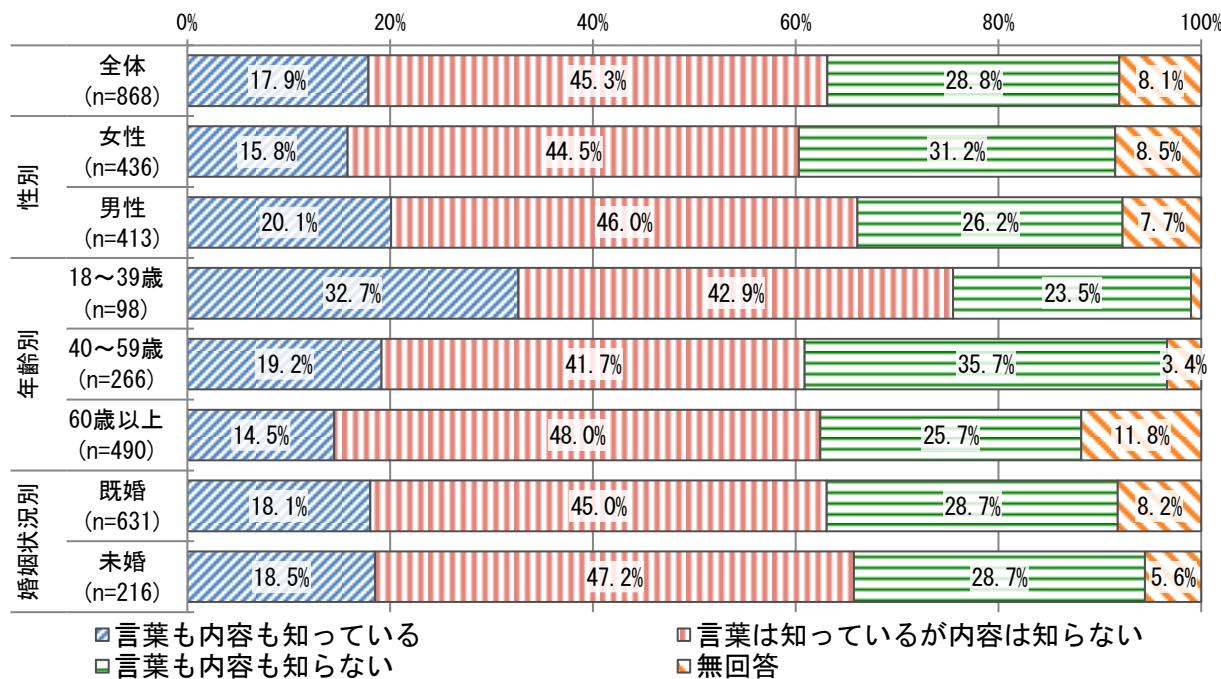
「言葉も内容も知っている」と「言葉は知っているが内容は知らない」が37.3%、「言葉も内容も知らない」が18.8%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別					
		全 体	女 性	男 性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既 婚	未 婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
言葉も内容も知っている		324	154	167	50	100	172	252	70	85	64	68	103	
		37.3%	35.3%	40.4%	51.0%	37.6%	35.1%	39.9%	32.4%	41.7%	41.3%	29.7%	39.9%	
言葉は知っているが内容は知らない		324	155	158	30	102	187	225	90	66	62	89	96	
		37.3%	35.6%	38.3%	30.6%	38.3%	38.2%	35.7%	41.7%	32.4%	40.0%	38.9%	37.2%	
言葉も内容も知らない		163	98	61	17	57	84	114	44	53	21	44	40	
		18.8%	22.5%	14.8%	17.3%	21.4%	17.1%	18.1%	20.4%	26.0%	13.5%	19.2%	15.5%	
無回答		57	29	27	1	7	47	40	12	0	8	28	19	
		6.6%	6.7%	6.5%	1.0%	2.6%	9.6%	6.3%	5.6%	0.0%	5.2%	12.2%	7.4%	

問19② 男女共同参画社会基本法

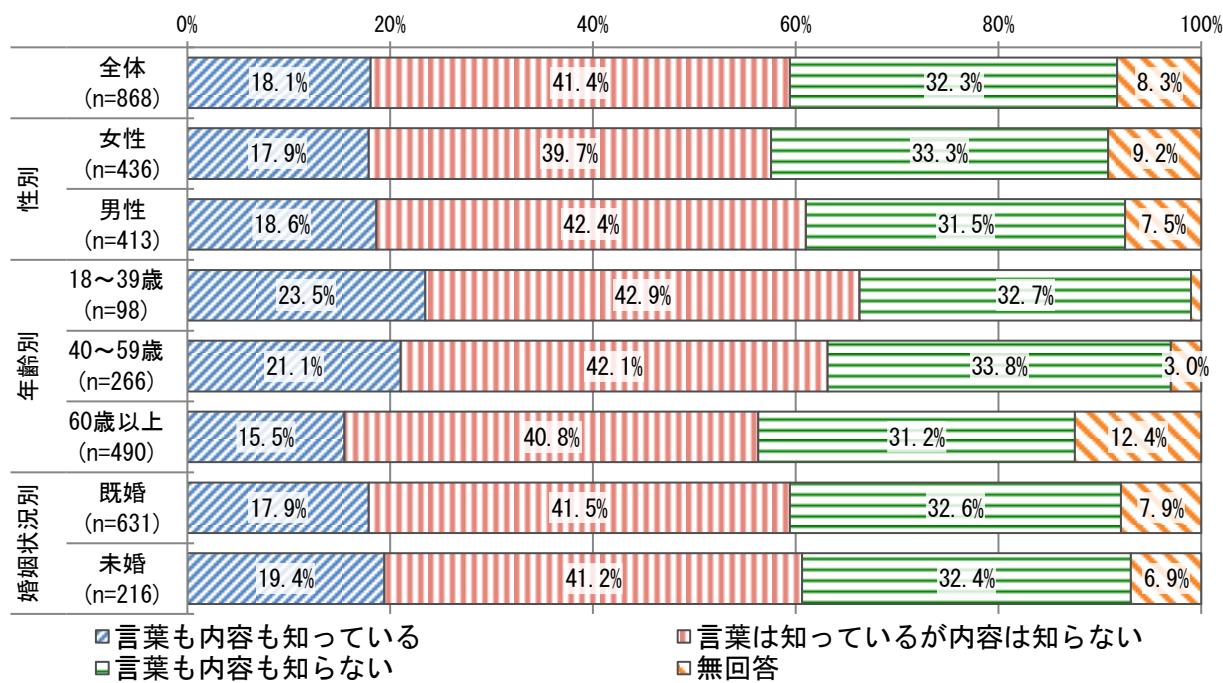
「言葉も内容も知っている」が17.9%、「言葉は知っているが内容は知らない」が45.3%、「言葉も内容も知らない」が28.8%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別					
		全体	女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
言葉も内容も知っている		155	69	83	32	51	71	114	40	43	38	26	45	
		17.9%	15.8%	20.1%	32.7%	19.2%	14.5%	18.1%	18.5%	21.1%	24.5%	11.4%	17.4%	
言葉は知っているが内容は知らない		393	194	190	42	111	235	284	102	85	66	108	124	
		45.3%	44.5%	46.0%	42.9%	41.7%	48.0%	45.0%	47.2%	41.7%	42.6%	47.2%	48.1%	
言葉も内容も知らない		250	136	108	23	95	126	181	62	74	43	61	65	
		28.8%	31.2%	26.2%	23.5%	35.7%	25.7%	28.7%	28.7%	36.3%	27.7%	26.6%	25.2%	
無回答		70	37	32	1	9	58	52	12	2	8	34	24	
		8.1%	8.5%	7.7%	1.0%	3.4%	11.8%	8.2%	5.6%	1.0%	5.2%	14.8%	9.3%	

問19③ 女子差別撤廃条約

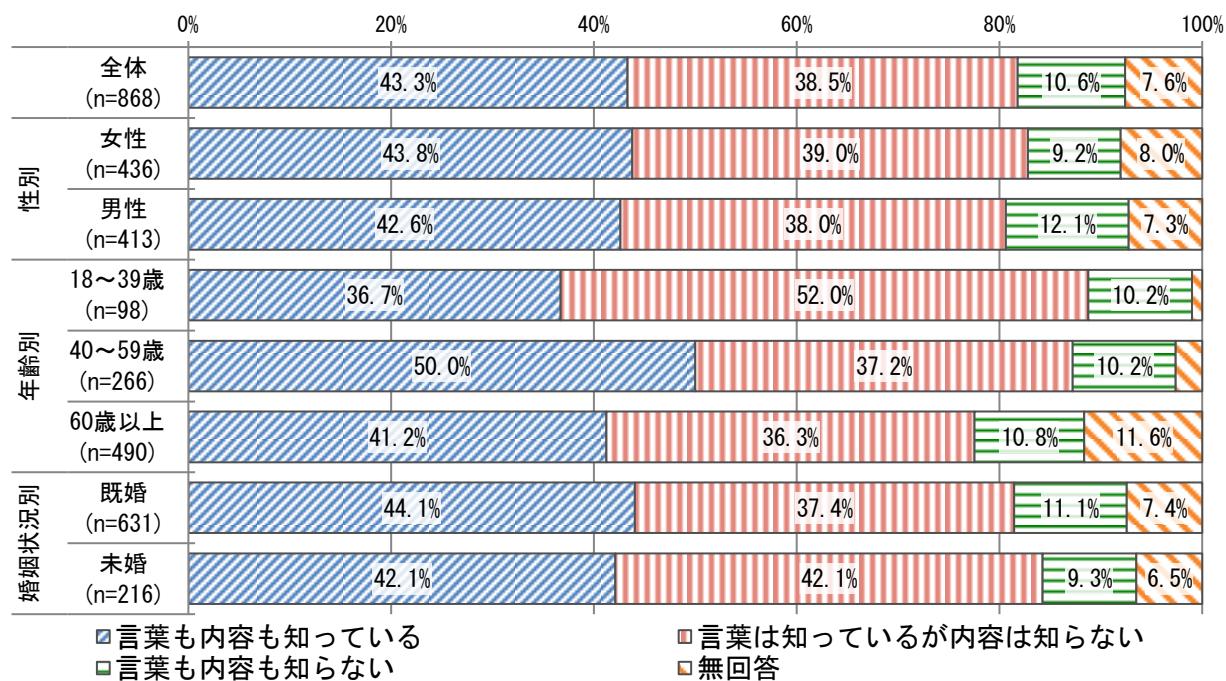
「言葉も内容も知っている」が18.1%、「言葉は知っているが内容は知らない」が41.4%、「言葉も内容も知らない」が32.3%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別					
		全 体	女 性	男 性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既 婚	未 婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
言葉も内容も知っている		157	78	77	23	56	76	113	42	44	35	34	42	
		18.1%	17.9%	18.6%	23.5%	21.1%	15.5%	17.9%	19.4%	21.6%	22.6%	14.8%	16.3%	
言葉は知っているが内容は知らない		359	173	175	42	112	200	262	89	90	61	83	114	
		41.4%	39.7%	42.4%	42.9%	42.1%	40.8%	41.5%	41.2%	44.1%	39.4%	36.2%	44.2%	
言葉も内容も知らない		280	145	130	32	90	153	206	70	69	51	74	79	
		32.3%	33.3%	31.5%	32.7%	33.8%	31.2%	32.6%	32.4%	33.8%	32.9%	32.3%	30.6%	
無回答		72	40	31	1	8	61	50	15	1	8	38	23	
		8.3%	9.2%	7.5%	1.0%	3.0%	12.4%	7.9%	6.9%	0.5%	5.2%	16.6%	8.9%	

問19④ 配偶者暴力防止法（DV防止法）

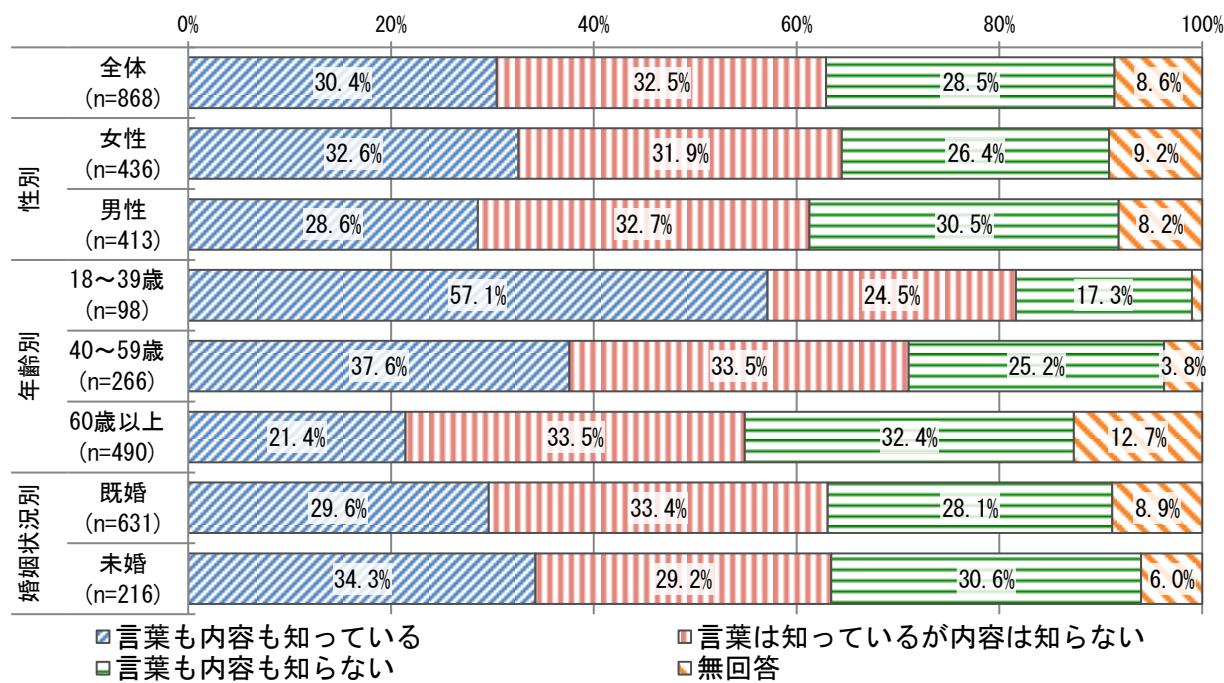
「言葉も内容も知っている」が43.3%、「言葉は知っているが内容は知らない」が38.5%、「言葉も内容も知らない」が10.6%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別					
		全体	女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
言葉も内容も知っている		376	191	176	36	133	202	278	91	92	74	98	102	
		43.3%	43.8%	42.6%	36.7%	50.0%	41.2%	44.1%	42.1%	45.1%	47.7%	42.8%	39.5%	
言葉は知っているが内容は知らない		334	170	157	51	99	178	236	91	94	54	74	103	
		38.5%	39.0%	38.0%	52.0%	37.2%	36.3%	37.4%	42.1%	46.1%	34.8%	32.3%	39.9%	
言葉も内容も知らない		92	40	50	10	27	53	70	20	18	19	22	31	
		10.6%	9.2%	12.1%	10.2%	10.2%	10.8%	11.1%	9.3%	8.8%	12.3%	9.6%	12.0%	
無回答		66	35	30	1	7	57	47	14	0	8	35	22	
		7.6%	8.0%	7.3%	1.0%	2.6%	11.6%	7.4%	6.5%	0.0%	5.2%	15.3%	8.5%	

問19⑤ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

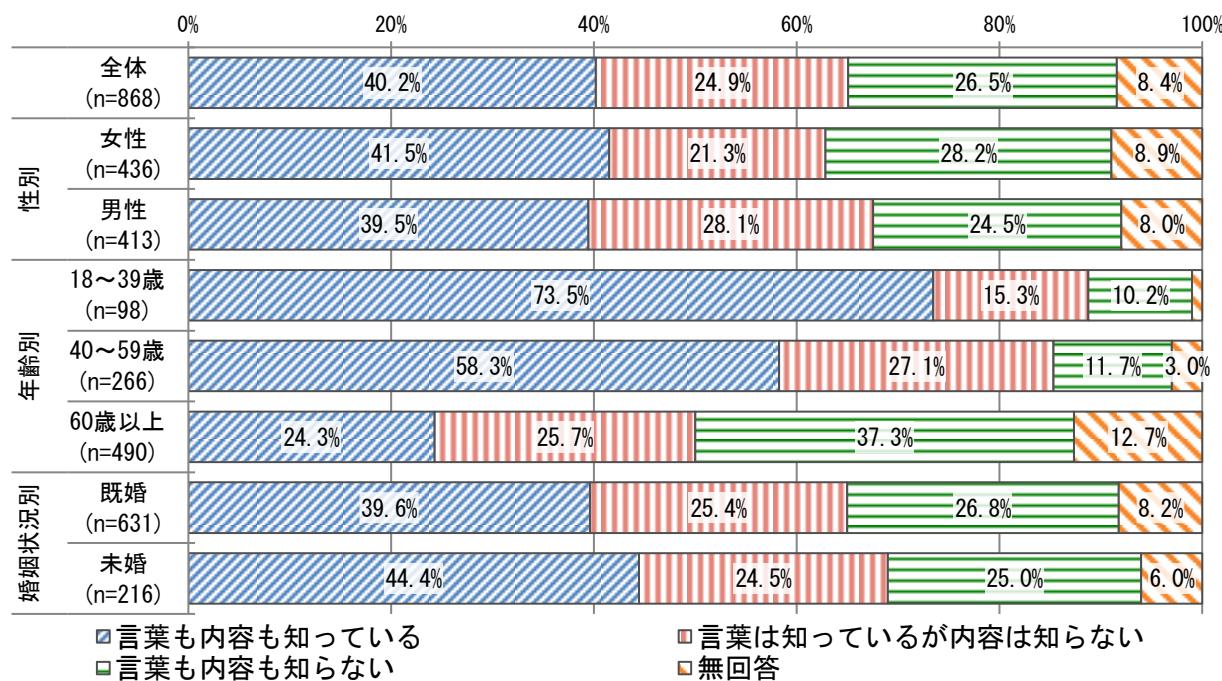
「言葉も内容も知っている」が30.4%、「言葉は知っているが内容は知らない」が32.5%、「言葉も内容も知らない」が28.5%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		全体	女性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
言葉も内容も知っている		264	142	118	56	100	105	187	74	90	64	51	54
		30.4%	32.6%	28.6%	57.1%	37.6%	21.4%	29.6%	34.3%	44.1%	41.3%	22.3%	20.9%
言葉は知っているが内容は知らない		282	139	135	24	89	164	211	63	67	45	72	90
		32.5%	31.9%	32.7%	24.5%	33.5%	33.5%	33.4%	29.2%	32.8%	29.0%	31.4%	34.9%
言葉も内容も知らない		247	115	126	17	67	159	177	66	44	38	70	88
		28.5%	26.4%	30.5%	17.3%	25.2%	32.4%	28.1%	30.6%	21.6%	24.5%	30.6%	34.1%
無回答		75	40	34	1	10	62	56	13	3	8	36	26
		8.6%	9.2%	8.2%	1.0%	3.8%	12.7%	8.9%	6.0%	1.5%	5.2%	15.7%	10.1%

問19⑥ L G B T (L G B T Q+、L G B T sなど)

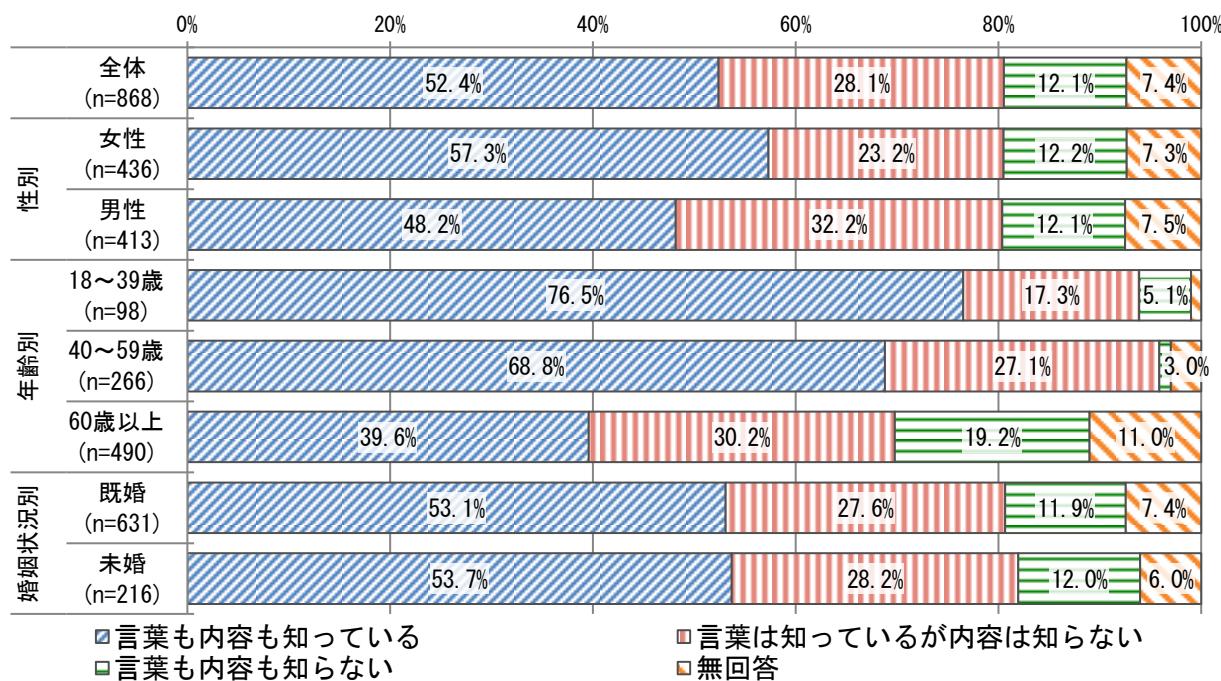
「言葉も内容も知っている」が40.2%、「言葉は知っているが内容は知らない」が24.9%、「言葉も内容も知らない」が26.5%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別					
		全 体	女 性	男 性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既 婚	未 婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
言葉も内容も知っている		349	181	163	72	155	119	250	96	130	95	50	68	
		40.2%	41.5%	39.5%	73.5%	58.3%	24.3%	39.6%	44.4%	63.7%	61.3%	21.8%	26.4%	
言葉は知っているが内容は知らない		216	93	116	15	72	126	160	53	47	37	46	79	
		24.9%	21.3%	28.1%	15.3%	27.1%	25.7%	25.4%	24.5%	23.0%	23.9%	20.1%	30.6%	
言葉も内容も知らない		230	123	101	10	31	183	169	54	26	15	96	86	
		26.5%	28.2%	24.5%	10.2%	11.7%	37.3%	26.8%	25.0%	12.7%	9.7%	41.9%	33.3%	
無回答		73	39	33	1	8	62	52	13	1	8	37	25	
		8.4%	8.9%	8.0%	1.0%	3.0%	12.7%	8.2%	6.0%	0.5%	5.2%	16.2%	9.7%	

問19⑦ ジェンダー

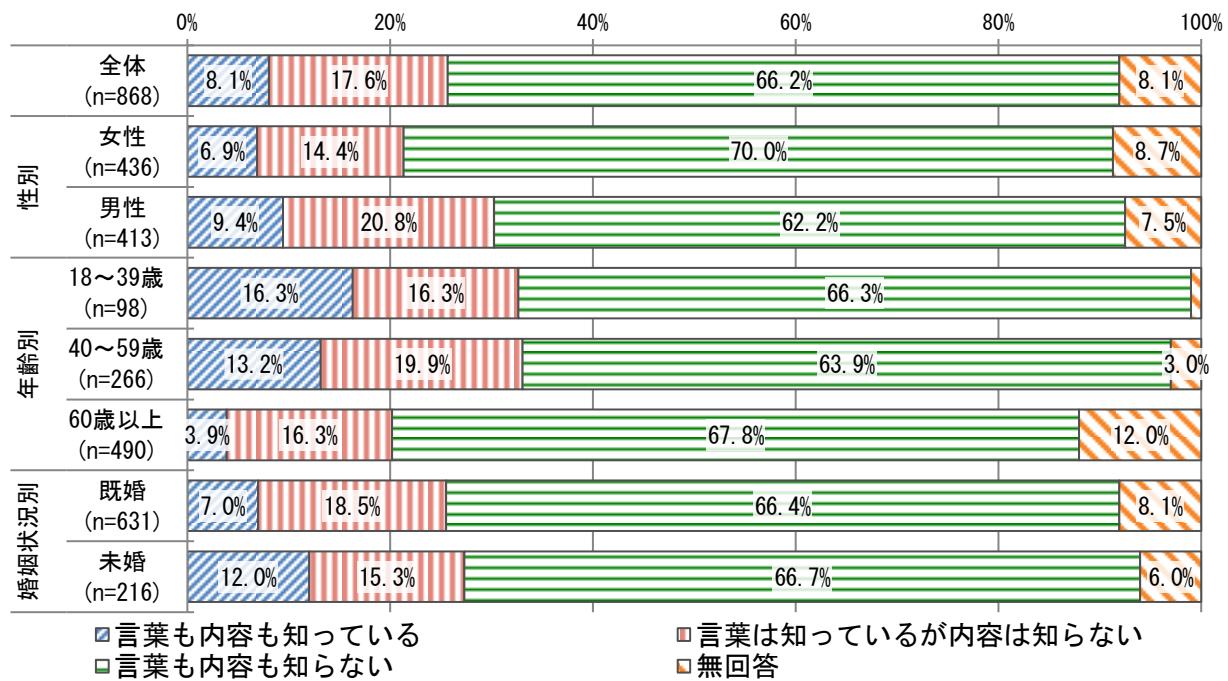
「言葉も内容も知っている」が52.4%、「言葉は知っているが内容は知らない」が28.1%、「言葉も内容も知らない」が12.1%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別					
		全体	女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
言葉も内容も知っている		455	250	199	75	183	194	335	116	153	103	96	96	
		52.4%	57.3%	48.2%	76.5%	68.8%	39.6%	53.1%	53.7%	75.0%	66.5%	41.9%	37.2%	
言葉は知っているが内容は知らない		244	101	133	17	72	148	174	61	47	39	53	94	
		28.1%	23.2%	32.2%	17.3%	27.1%	30.2%	27.6%	28.2%	23.0%	25.2%	23.1%	36.4%	
言葉も内容も知らない		105	53	50	5	3	94	75	26	4	4	48	46	
		12.1%	12.2%	12.1%	5.1%	1.1%	19.2%	11.9%	12.0%	2.0%	2.6%	21.0%	17.8%	
無回答		64	32	31	1	8	54	47	13	0	9	32	22	
		7.4%	7.3%	7.5%	1.0%	3.0%	11.0%	7.4%	6.0%	0.0%	5.8%	14.0%	8.5%	

問19⑧ アンコンシャス・バイアス

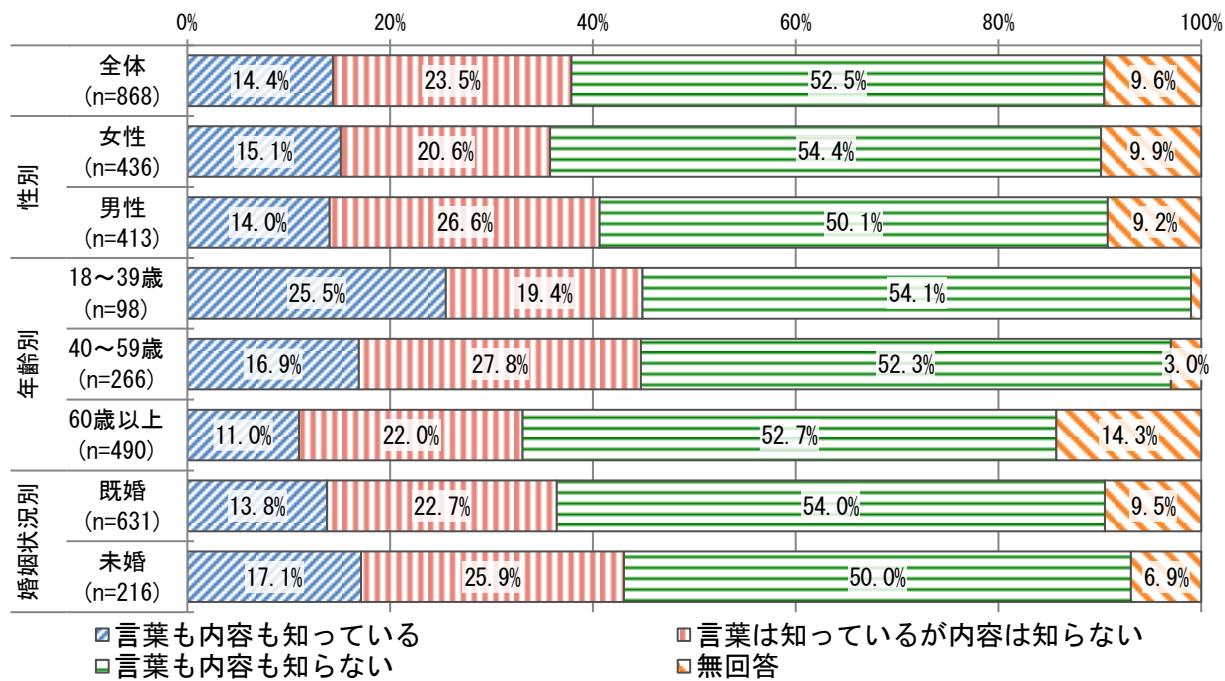
「言葉も内容も知っている」が8.1%、「言葉は知っているが内容は知らない」が17.6%、「言葉も内容も知らない」が66.2%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		全体	女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
言葉も内容も知っている		70	30	39	16	35	19	44	26	22	28	8	11
		8.1%	6.9%	9.4%	16.3%	13.2%	3.9%	7.0%	12.0%	10.8%	18.1%	3.5%	4.3%
言葉は知っているが内容は知らない		153	63	86	16	53	80	117	33	33	35	29	51
		17.6%	14.4%	20.8%	16.3%	19.9%	16.3%	18.5%	15.3%	16.2%	22.6%	12.7%	19.8%
言葉も内容も知らない		575	305	257	65	170	332	419	144	148	84	156	173
		66.2%	70.0%	62.2%	66.3%	63.9%	67.8%	66.4%	66.7%	72.5%	54.2%	68.1%	67.1%
無回答		70	38	31	1	8	59	51	13	1	8	36	23
		8.1%	8.7%	7.5%	1.0%	3.0%	12.0%	8.1%	6.0%	0.5%	5.2%	15.7%	8.9%

問19⑨ 固定的な性別役割分担意識

「言葉も内容も知っている」が14.4%、「言葉は知っているが内容は知らない」が23.5%、「言葉も内容も知らない」が52.5%となっています。

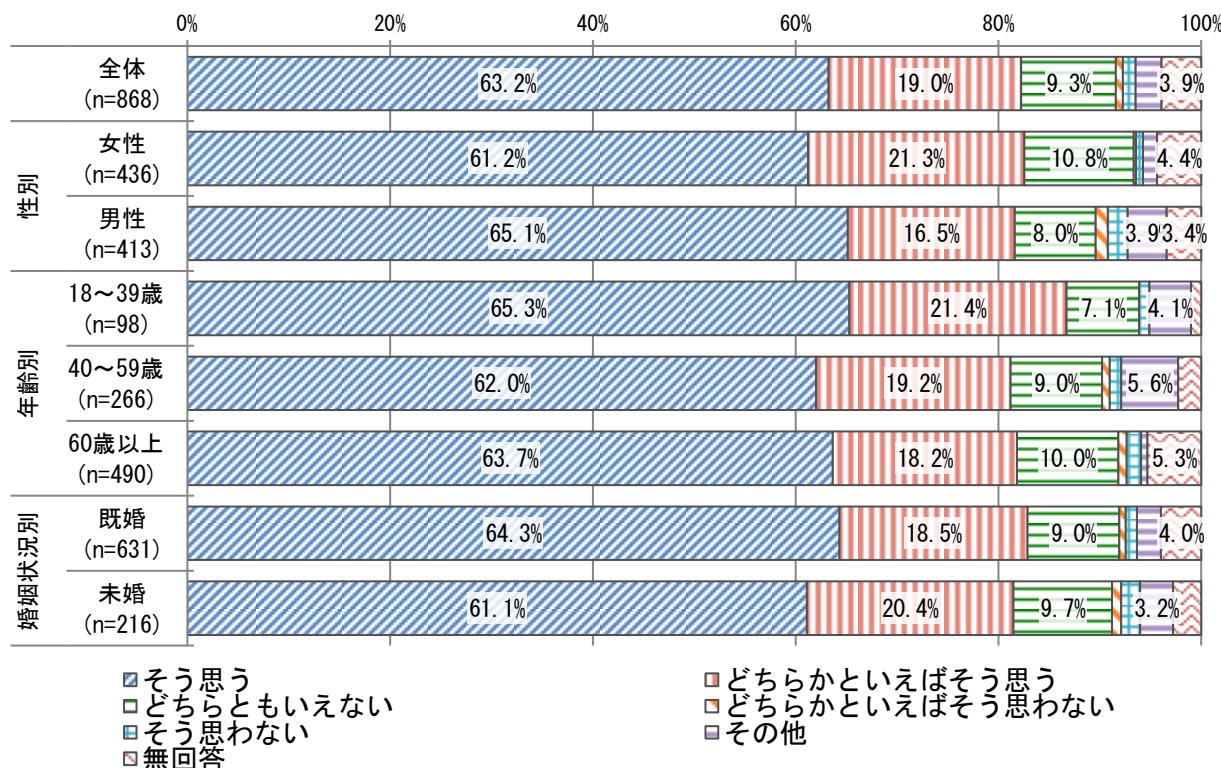


	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		全体	女性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
言葉も内容も知っている		125	66	58	25	45	54	87	37	39	31	27	27
		14.4%	15.1%	14.0%	25.5%	16.9%	11.0%	13.8%	17.1%	19.1%	20.0%	11.8%	10.5%
言葉は知っているが内容は知らない		204	90	110	19	74	108	143	56	47	45	43	65
		23.5%	20.6%	26.6%	19.4%	27.8%	22.0%	22.7%	25.9%	23.0%	29.0%	18.8%	25.2%
言葉も内容も知らない		456	237	207	53	139	258	341	108	117	71	119	136
		52.5%	54.4%	50.1%	54.1%	52.3%	52.7%	54.0%	50.0%	57.4%	45.8%	52.0%	52.7%
無回答		83	43	38	1	8	70	60	15	1	8	40	30
		9.6%	9.9%	9.2%	1.0%	3.0%	14.3%	9.5%	6.9%	0.5%	5.2%	17.5%	11.6%

問20

あなたは、女性が、議会議員や地域活動の役員などになって、政策企画立案や方針決定の場に女性の意見が反映されるようになればいいと思いますか。(○は1つ)

「そう思う」が63.2%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が19.0%、「どちらともいえない」が9.3%となっています。

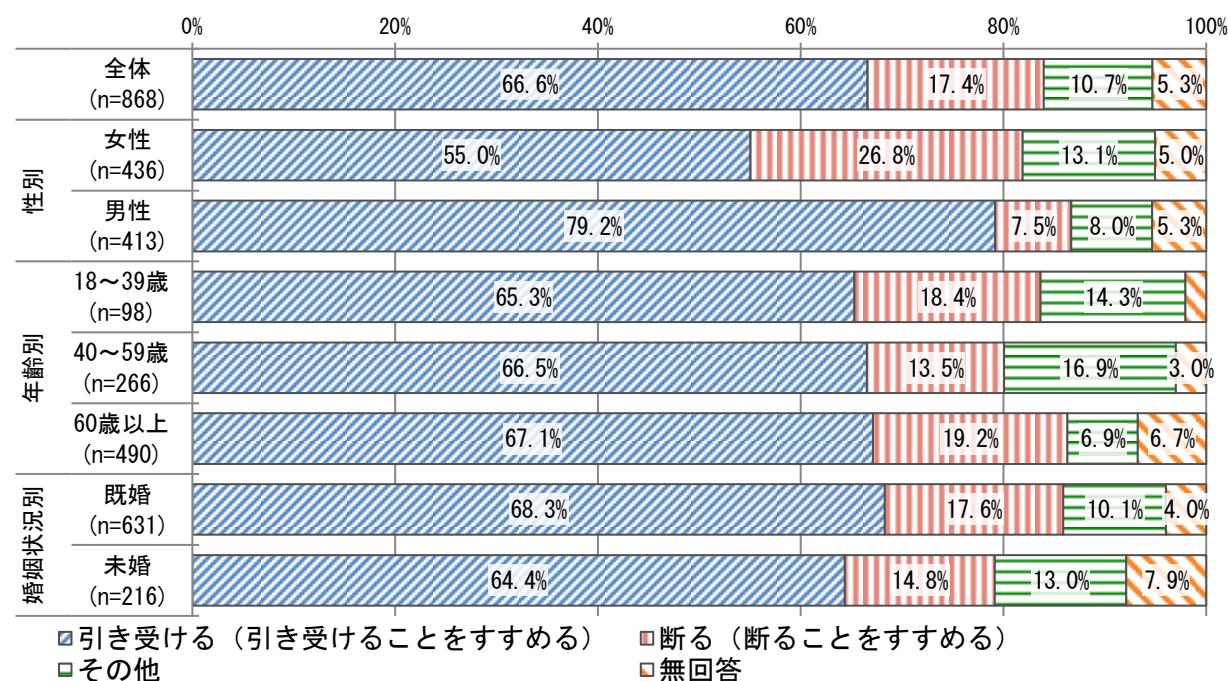


	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別					
		全体	女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数		868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
そう思う		549	267	269	64	165	312	406	132	131	95	135	174	
		63.2%	61.2%	65.1%	65.3%	62.0%	63.7%	64.3%	61.1%	64.2%	61.3%	59.0%	67.4%	
どちらかといえばそう思う		165	93	68	21	51	89	117	44	45	26	47	42	
		19.0%	21.3%	16.5%	21.4%	19.2%	18.2%	18.5%	20.4%	22.1%	16.8%	20.5%	16.3%	
どちらともいえない		81	47	33	7	24	49	57	21	18	12	28	21	
		9.3%	10.8%	8.0%	7.1%	9.0%	10.0%	9.0%	9.7%	8.8%	7.7%	12.2%	8.1%	
どちらかといえばそう思わない		6	1	5	0	2	4	4	2	1	1	0	4	
		0.7%	0.2%	1.2%	0.0%	0.8%	0.8%	0.6%	0.9%	0.5%	0.6%	0.0%	1.6%	
そう思わない		11	3	8	1	3	7	7	4	2	2	1	6	
		1.3%	0.7%	1.9%	1.0%	1.1%	1.4%	1.1%	1.9%	1.0%	1.3%	0.4%	2.3%	
その他		22	6	16	4	15	3	15	7	5	14	1	2	
		2.5%	1.4%	3.9%	4.1%	5.6%	0.6%	2.4%	3.2%	2.5%	9.0%	0.4%	0.8%	
無回答		34	19	14	1	6	26	25	6	2	5	17	9	
		3.9%	4.4%	3.4%	1.0%	2.3%	5.3%	4.0%	2.8%	1.0%	3.2%	7.4%	3.5%	

あなたは、女性がPTA会長、自治会長・自治会の役員、町の審議会や委員会のメンバーといった役職に推薦されたらどうするのがよいと思いますか。(○は1つ)
 問21 (女性の方はご自身のこととして、男性は助言するにあたってのお考えをお答えください。)

「引き受ける(引き受けることをすすめる)」が66.6%、「断る(断ることをすすめる)」が17.4%、「その他」が10.7%となっています。

性別でみると、「引き受ける(引き受けることをすすめる)」が女性で55.0%、男性で79.2%(24.2ポイント差)、「断る(断ることをすすめる)」が女性で26.8%、男性で7.5%(19.3ポイント差)と、男女間で大きな開きがあります。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別					
		全体会員	女性	男性	18~39歳	40~59歳	60歳以上	既婚	未婚	18~59歳女性	18~59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性	
サンプル数	868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258		
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
引き受ける(引き受けることをすすめる)	578	240	327	64	177	329	431	139	116	122	122	205		
	66.6%	55.0%	79.2%	65.3%	66.5%	67.1%	68.3%	64.4%	56.9%	78.7%	53.3%	79.5%		
断る(断ることをすすめる)	151	117	31	18	36	94	111	32	46	8	71	23		
	17.4%	26.8%	7.5%	18.4%	13.5%	19.2%	17.6%	14.8%	22.5%	5.2%	31.0%	8.9%		
その他	93	57	33	14	45	34	64	28	39	18	18	15		
	10.7%	13.1%	8.0%	14.3%	16.9%	6.9%	10.1%	13.0%	19.1%	11.6%	7.9%	5.8%		
無回答	46	22	22	2	8	33	25	17	3	7	18	15		
	5.3%	5.0%	5.3%	2.0%	3.0%	6.7%	4.0%	7.9%	1.5%	4.5%	7.9%	5.8%		

■ その他の内容

【女性】

- ◇ 本人次第。(同意見多数)
- ◇ 状況によっては引き受ける。(同意見多数)
- ◇ 本人がやりたいのであれば引き受ければよい。(同意見多数)
- ◇ 引き受けられるのであれば、役職について欲しい。
- ◇ 家族の身体状況が良ければ引き受ける。
- ◇ 老人介護中。

- ◇社会全体の知識があり、自信があれば考える。
- ◇わからない。
- ◇60代迄いろいろな形で社会奉仕をしてきた。70代になり、身体的に不自由になったので無理はできない。
- ◇やれそうなことは引き受ける。
- ◇やりたい人はやればよい。私自身はやりたいとは思はない（介護、子育てなどで大変なため）。
- ◇その人（自分）が、会長や役員というリーダーとなることが、その分野で得意であればやるし、すすめる。
- ◇本人に生活、金銭的、精神的余裕があれば引き受ける。
- ◇私は自信がないので断る。自信のある方は受けければよいと思う。
- ◇もっと若い頃だったら引き受けると思う。
- ◇女性も積極的に役職につくべきであるが、現状、家庭、仕事があり、時間的に無理である。
- ◇職務上無理である。（活動時間）
- ◇引き受けてもよいが、忙しいので断る。
- ◇70歳を超えると考えられない。いい人がいたら他の人に勧めたい。
- ◇協力者がいれば引き受けるが、いろいろ覚悟が必要だと思う。
- ◇やってきた。
- ◇推薦されたとしても、家庭の状況によって難しい場合もあるが、そういう時の周りの手助けや理解があるのであれば引き受けても良いのではないかと思う。
- ◇性別関係なく、その人の理念などでみんなが決定、判断すればいいと思う。
- ◇男、女関係なくその時の本人次第で良いと思う。
- ◇やりたいかやりたくないか、または、能力があるかないかの話、女性だからという理由が先に立ってはいけない。
- ◇その時に活動するにあたり時間に余裕があれば引き受ける。
- ◇仕事と両立できるなら引き受けても良い。
- ◇家事育児も含め、できるかどうかを現実的に考えて答えるべき。
- ◇自分に時間と気持ちに余裕があって、やれる環境が整っていれば引き受ける。

【男性】

- ◇本人次第。（同意見多数）
- ◇状況による。（同意見多数）
- ◇過度の負担がなければ引き受けるべき。
- ◇自治会の役員ならOK、他は能力不足（家内の事）。
- ◇本人の意志なので、助言するようなことはしない。
- ◇職責を果たせる方であれば引き受けるのを勧める。そうでなければ断ることを勧める。
- ◇個人の自由であり、女性・男性などの概念はいらない。

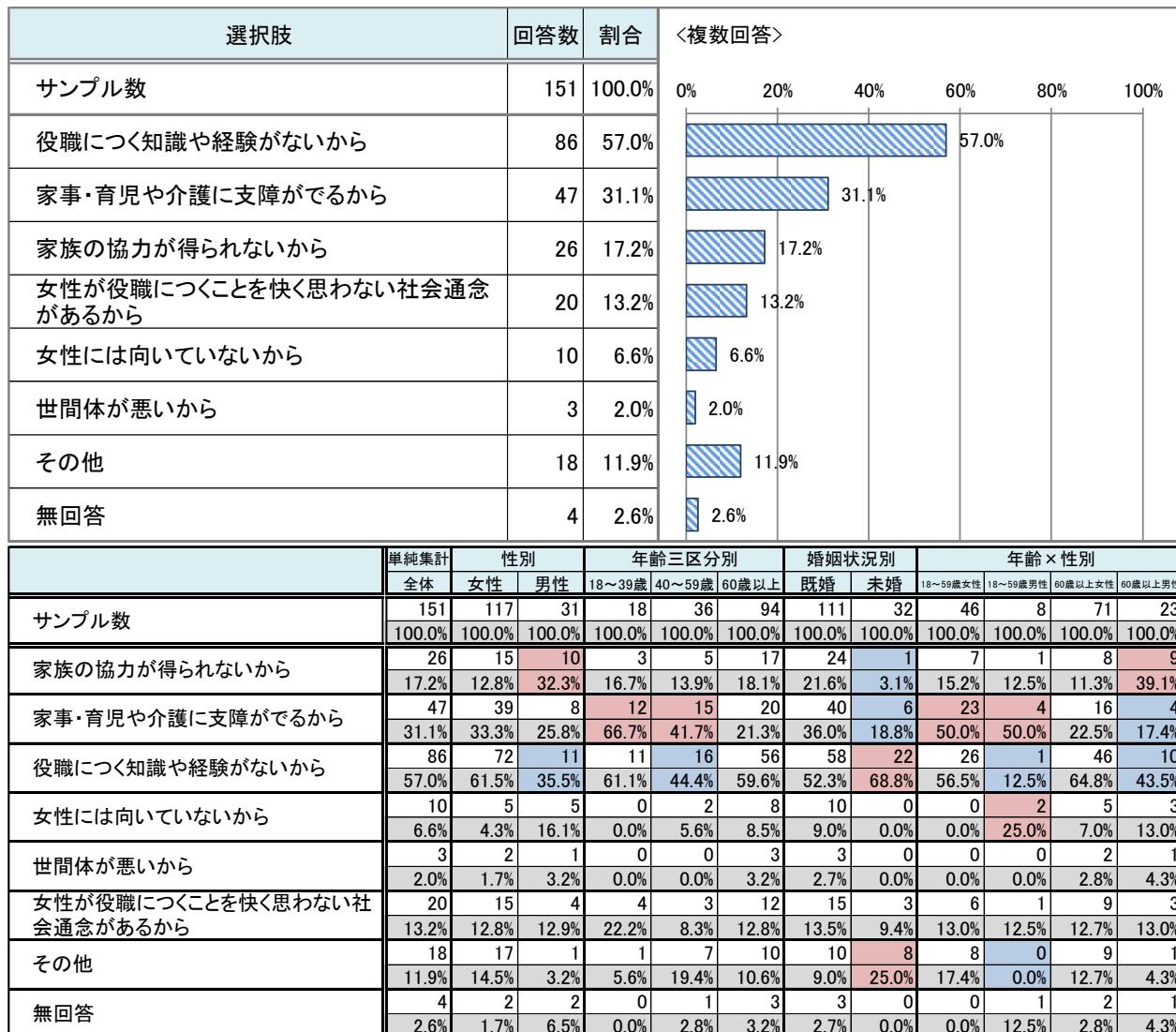
【その他・プロフィール無回答等】

- ◇それぞれ生活もあるので、極端な回答は出来ないが、やってみると充実して楽しかった経験から、自分は引き受けるが、周りにすすめることはない。
- ◇自由。

問22 問22は、問21で「2 断る（断ることをすすめる）」に回答した方に伺います。
その理由をお答えください。(○はいくつでも)

「役職につく知識や経験がないから」が 57.0%と最も高く、次いで「家事・育児や介護に支障がでるから」が 31.1%、「家族の協力が得られないから」が 17.2%となっています。

性別でみると、「役職につく知識や経験がないから」が女性で 61.5%、男性で 35.5%とともに最も高く、次いで女性では「家事・育児や介護に支障がでるから」が 33.3%、男性では「家族の協力が得られないから」が 32.3%となっています。



■上位3項目（性別）

順位	町全体 (n=151)	女性(n=117)	男性(n=31)
1位	役職につく知識や経験がないから	役職につく知識や経験がないから	役職につく知識や経験がないから
2位	家事・育児や介護に支障がでるから	家事・育児や介護に支障がでるから	家族の協力が得られないから
3位	家族の協力が得られないから	家族の協力が得られないから 女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから	家事・育児や介護に支障がでるから

■その他の内容

【女性の意見】

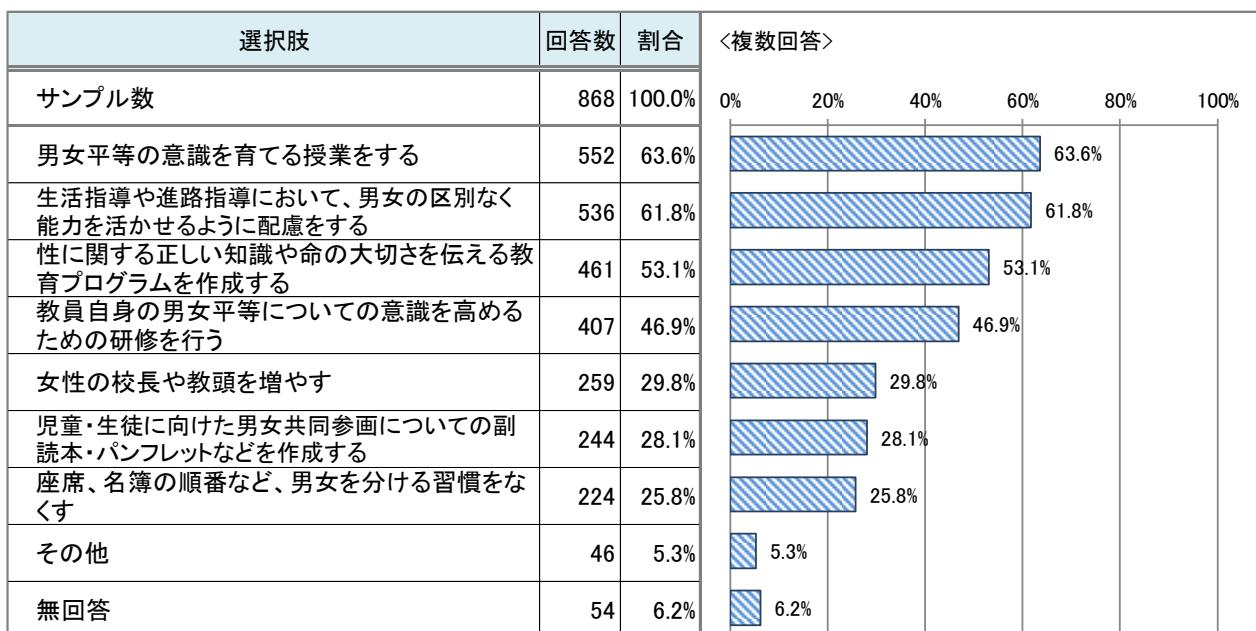
- ◇年齢や健康のため務まらない。(同回答複数)
- ◇性別は関係なく自分には向いていない。(同回答複数)
- ◇単にやりたくない。(同回答複数)
- ◇男子のほうが会などへ出席しやすいと思う。
- ◇仕事との両立が難しそう。
- ◇やりたくない事は無理してまでしなくてよい。
- ◇現在のこの地域では、考えられない。
- ◇自分へのメリットがない。

【男性の意見】

- ◇報われる事が少ない。

問23 あなたは、学校教育（小・中・高等学校）のなかで男女共同参画をすすめるための取組として、特に力を入れるべきだと思うものはどれですか。（○はいくつでも）

「男女平等の意識を育てる授業をする」が 63.6%と最も高く、次いで「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるように配慮をする」が 61.8%、「性に関する正しい知識や命の大切さを伝える教育プログラムを作成する」が 53.1%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		全体	女性	男性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	既婚	未婚	18～59歳女性	18～59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
		サンプル数	868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229
児童・生徒に向けた男女共同参画についての副読本・パンフレットなどを作成する		244	107	131	25	51	165	173	66	37	37	70	94
男女平等の意識を育てる授業をする		552	265	273	60	165	317	403	136	130	92	134	181
生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるように配慮をする		536	286	238	53	140	332	394	127	121	70	162	168
座席、名簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす		224	104	114	29	66	125	163	54	58	37	46	77
性に関する正しい知識や命の大切さを伝える教育プログラムを作成する		461	256	192	67	134	252	332	118	129	68	125	124
教員自身の男女平等についての意識を高めるための研修を行う		407	195	203	46	106	248	295	103	89	61	105	142
女性の校長や教頭を増やす		259	128	124	33	72	150	187	66	67	36	61	88
その他		46	22	22	4	24	17	32	13	13	15	9	7
無回答		54	24	29	4	9	40	38	12	2	11	22	18
		6.2%	5.5%	7.0%	4.1%	3.4%	8.2%	6.0%	5.6%	1.0%	7.1%	9.6%	7.0%

■ その他の内容

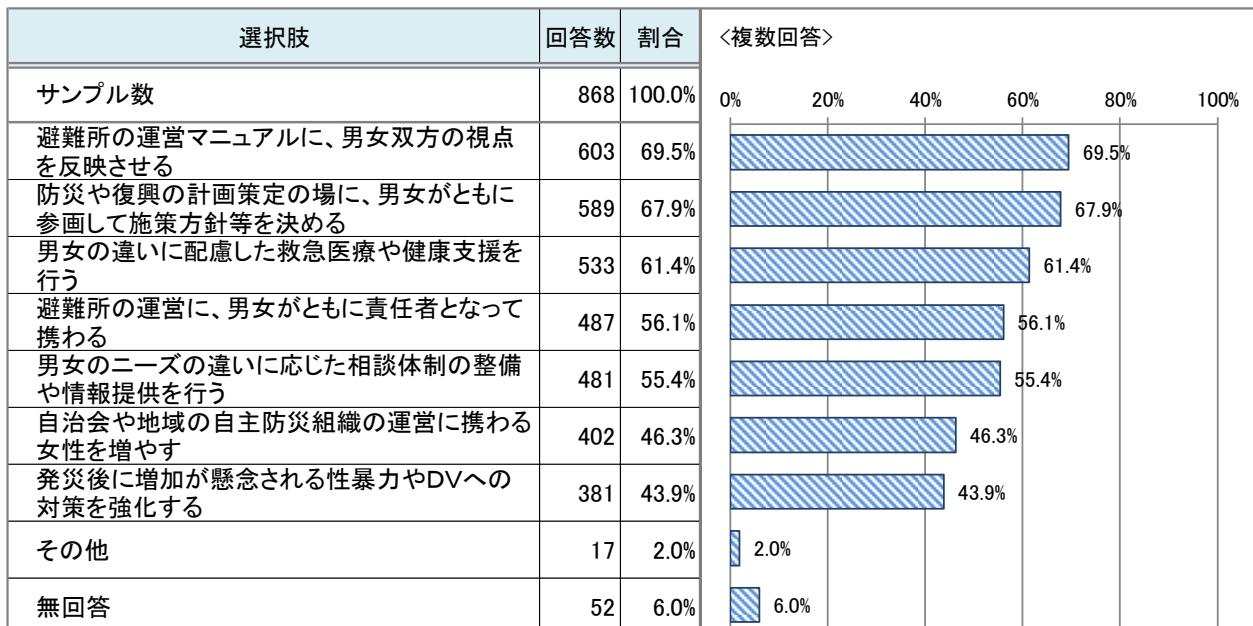
- ◇社会に出たときに女性に何が起こるか、それにどう対応するかを話しておいてほしい。学生時代は平等でも、社会に出るとそうではなく、それはおかしいことだといってほしい。自分がおかしいのかと思い混乱してしまう。老人になるまで考え方つくしてほしい。
- ◇護身術のプログラム (NOと言える術、自信育成)。TEDのようなプレゼン能力を伸ばせる教育を取り入れることで、男女の差ではなく、自分の能力に着眼して生きる力にフォーカスする。海外との交換留学のような制度。
- ◇家庭生活で、父母がまず協力し合う自然な助け合いを、子供らが自然に目にすることは大切。大人と子供のかかわり方で大切なのは「心の広さを知る事」、大人が先ず心得ることからだと考える。
- ◇平等はなかなか難しいと思う。女性には女性の良さもあるし、男性には男性の良さもあるから、ひとつくりに平等は難しい。お互い配慮は必要だけど、すべて平等には無理がある。
- ◇子どもはそもそも男女が平等でないことに気づいていない可能性もあり、大人の在り方をみてそういうものだと学ぶ。子どもよりも大人にフォーカスするのが良いと思う。
- ◇男女は同じ生き物ではなく、脳の機能、体の構造など、生来異なる生き物なので、まったく同じように生きるということは幻想であることをしっかり教育する。
- ◇どちらかというと、学校では女子の方が強い。男子がかわいそうな程。社会の方がとりくむべきでは。学校では男子は小さくなっている。
- ◇女性は弱者になりがちであること。また、男女にかかわらず弱者は守られるべきであり、守る環境を作る意識を育てるべきだと思う。
- ◇女性と限定せず、男女どちらでも、男女共同参画に関して、きちんと対応できる管理職を増やしてほしい。
- ◇私たちの頃より、だいぶ男女間が平等になっていると、見ていて思う (40代より若い方々)。
- ◇子から親へ教えてもらえるくらい。子どもの時からそれが当たり前という意識を持たせてほしい。
- ◇そういうのはモラルの問題なのでわざわざ政治が法整備する意味を問いたい。何が目的なのか。
- ◇単に女性の校長、教頭を増やすのではなく、能力のある人はだれでも選ばれるべきである。
- ◇男性と女性は当然違うところもあるということを教えた上で差別しないことを教えるべき。
- ◇男女共同参画は「男女の違いをよく理解することから始めることだ」と理解させる教育。
- ◇男女関係なくできる人能力がある人がそれを担うようにする環境づくりが1番大切。
- ◇自分なりに考える思考力を養う教育に力を入れればよいのではないか。

- ◇制服(スカートとズボン)や、授業で男女を分ける機会が減ればいいと思う。
- ◇男女平等のはずなのに、女性優位になりすぎないよう配慮する。
- ◇実際に共同で行うプロジェクトを体験させる(何度も何度も)。
- ◇そんなのいちいち意識させるまでもない。今は平等の意識が強い。
- ◇まだ男女の区別意識があることがなんだか不思議に感じる。
- ◇差別などは、教育するから、知り、行動する、と思う。
- ◇周囲の大人が、子供に見せたい背中を示して生きること。
- ◇女性に限らず、思いやりのある先生になってほしい。
- ◇家庭内での関係が一番影響を受けるのではないか。
- ◇女性、男性にこだわること自体がナンセンス。
- ◇学校に意識付けをさせるのは違う気がする。
- ◇理解出来ない教員は辞めてもらう。
- ◇差別ではなく、区別は必要。
- ◇性別関係なく能力があれば。
- ◇性別にフォーカスしないこと。
- ◇学校外の悪い事例を教える。
- ◇性別ではなく能力で選ぶ。
- ◇しなくてよい。
- ◇わからない。

問24

今後の大規模災害に備え、「男女共同参画の視点」から見た取組について必要と思うものをお選びください。(○はいくつでも)

「避難所の運営マニュアルに、男女双方の視点を反映させる」が 69.5%と最も高く、次いで「防災や復興の計画策定の場に、男女がともに参画して施策方針等を決める」が 67.9%、「男女の違いに配慮した救急医療や健康支援を行う」が 61.4%となっています。



	単純集計		性別			年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別			
	全体	女性	男性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	既婚	未婚	18～59歳女性	18～59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性		
サンプル数	868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258		
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
防災や復興の計画策定の場に、男女がともに参画して施策方針等を決める	589	284	290	59	179	340	438	139	132	102	150	188		
	67.9%	65.1%	70.2%	60.2%	67.3%	69.4%	69.4%	64.4%	64.7%	65.8%	65.5%	72.9%		
自治会や地域の自主防災組織の運営に携わる女性を増やす	402	185	207	43	108	242	286	106	87	63	97	144		
	46.3%	42.4%	50.1%	43.9%	40.6%	49.4%	45.3%	49.1%	42.6%	40.6%	42.4%	55.8%		
避難所の運営マニュアルに、男女双方の視点を反映させる	603	301	291	67	191	335	443	149	145	111	153	180		
	69.5%	69.0%	70.5%	68.4%	71.8%	68.4%	70.2%	69.0%	71.1%	71.6%	66.8%	69.8%		
避難所の運営に、男女がともに責任者となって携わる	487	220	255	54	145	276	350	123	108	89	109	166		
	56.1%	50.5%	61.7%	55.1%	54.5%	56.3%	55.5%	56.9%	52.9%	57.4%	47.6%	64.3%		
男女のニーズの違いに応じた相談体制の整備や情報提供を行う	481	244	226	58	156	258	347	123	125	88	117	138		
	55.4%	56.0%	54.7%	59.2%	58.6%	52.7%	55.0%	56.9%	61.3%	56.8%	51.1%	53.5%		
男女の違いに配慮した救急医療や健康支援を行う	533	286	234	68	171	284	386	135	140	96	144	138		
	61.4%	65.6%	56.7%	69.4%	64.3%	58.0%	61.2%	62.5%	68.6%	61.9%	62.9%	53.5%		
発災後に増加が懸念される性暴力やDVへの対策を強化する	381	187	183	48	131	194	267	105	105	72	80	111		
	43.9%	42.9%	44.3%	49.0%	49.2%	39.6%	42.3%	48.6%	51.5%	46.5%	34.9%	43.0%		
その他	17	8	9	1	7	8	12	5	2	6	5	3		
	2.0%	1.8%	2.2%	1.0%	2.6%	1.6%	1.9%	2.3%	1.0%	3.9%	2.2%	1.2%		
無回答	52	22	29	5	8	38	36	11	3	10	19	19		
	6.0%	5.0%	7.0%	5.1%	3.0%	7.8%	5.7%	5.1%	1.5%	6.5%	8.3%	7.4%		

■上位3項目（性別）

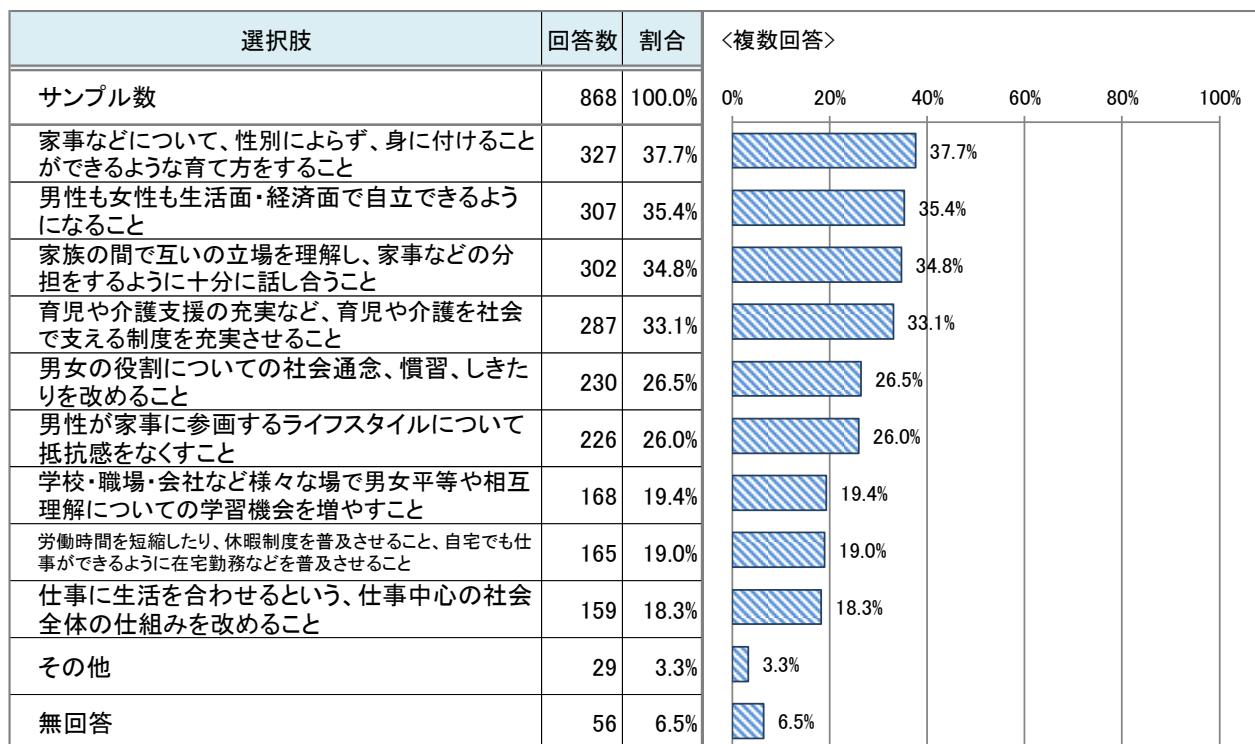
順位	町全体 (n=871)	女性(n=436)	男性(n=413)
1位	避難所の運営マニュアルに、男女双方の視点を反映させる	避難所の運営マニュアルに、男女双方の視点を反映させる	避難所の運営マニュアルに、男女双方の視点を反映させる
2位	防災や復興計画査定の場に、男女がともに参画して施策方針等を決める	男女の違いに配慮した救急医療や健康支援を行う	防災や復興計画査定の場に、男女がともに参画して施策方針等を決める
3位	男女の違いに配慮した救急医療や健康支援を行う	防災や復興計画査定の場に、男女がともに参画して施策方針等を決める	避難所の運営に、男女がともに責任者になって携わる

■その他の内容

- ◇大規模災害時はどうしても法が機能しにくい場面が出てくると思うので、そういう事が起こる前に当たり前のモラルを浸透させる取り組みは必要だと思う。特に緊急の事態に男だ女だ争うような構図は最初から必要ない。
- ◇男性に対しては男性が、女性に対しては女性が、救急医療や健康支援を行う。
- ◇町が防災士資格の取得を町民に促し、資格取得にかかる費用を全額補助する。
- ◇災害はいつ起こるかわからない。他人事とせず助け合う意識を持ちたいものだ。
- ◇男女関係なく、能力がある人を採用すべき。
- ◇避難所のトイレを男女別で整備してほしい。
- ◇常にどれも必要である。
- ◇もう少し避難のことを考えてほしい。
- ◇男女共同参画がわからない。
- ◇しなくてよい。

男性も女性も、家事・子育て・介護・地域活動・仕事などに、自分の意志で積極的に
問25 関わり、いきいきと暮らすことができるようになるためには、どのようなことが必要
だと思いますか。(○は3つまで)

「家事などについて、性別によらず、身に付けることができるような育て方をすること」が37.7%と最も高く、次いで「男性も女性も生活面・経済面で自立できるようになること」が35.4%、「家族の間で互いの立場を理解し、家事などの分担をするように十分に話し合うこと」が34.8%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別			
		女性	男性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	既婚	未婚	18～59歳女性	18～59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
サンプル数	868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229	258
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男女の役割についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	230	94	131	26	58	142	171	56	44	39	49	92
	26.5%	21.6%	31.7%	26.5%	21.8%	29.0%	27.1%	25.9%	21.6%	25.2%	21.4%	35.7%
仕事に生活を合わせるという、仕事中心の社会全体の仕組みを改めること	159	73	83	29	63	65	115	42	44	46	28	37
	18.3%	16.7%	20.1%	29.6%	23.7%	13.3%	18.2%	19.4%	21.6%	29.7%	12.2%	14.3%
男性が家事に参画するライフスタイルについて抵抗感をなくすこと	226	133	85	28	54	138	168	50	58	23	74	62
	26.0%	30.5%	20.6%	28.6%	20.3%	28.2%	26.6%	23.1%	28.4%	14.8%	32.3%	24.0%
男性も女性も生活面・経済面で自立できるようになること	307	155	146	35	107	162	216	85	79	61	76	85
	35.4%	35.6%	35.4%	35.7%	40.2%	33.1%	34.2%	39.4%	38.7%	39.4%	33.2%	32.9%
家族の間で互いの立場を理解し、家事などの分担をするように十分に話し合うこと	302	161	136	34	77	186	226	70	60	50	99	86
	34.8%	36.9%	32.9%	34.7%	28.9%	38.0%	35.8%	32.4%	29.4%	32.3%	43.2%	33.3%
家事などについて、性別によらず、身に付けることができるような育て方をすること	327	178	140	28	105	188	244	75	82	49	96	91
	37.7%	40.8%	33.9%	28.6%	39.5%	38.4%	38.7%	34.7%	40.2%	31.6%	41.9%	35.3%
学校・職場・会社など様々な場で男女平等や相互理解についての学習機会を増やすこと	168	79	82	18	44	103	120	43	35	24	44	58
	19.4%	18.1%	19.9%	18.4%	16.5%	21.0%	19.0%	19.9%	17.2%	15.5%	19.2%	22.5%
労働時間を短縮したり、休暇制度を普及させること、自宅でも仕事ができるように在宅勤務などを普及させること	165	91	72	33	54	77	112	52	55	31	36	41
	19.0%	20.9%	17.4%	33.7%	20.3%	15.7%	17.7%	24.1%	27.0%	20.0%	15.7%	15.9%
育児や介護支援の充実など、育児や介護を社会で支える制度を充実させること	287	157	123	27	91	165	208	72	76	40	80	83
	33.1%	36.0%	29.8%	27.6%	34.2%	33.7%	33.0%	33.3%	37.3%	25.8%	34.9%	32.2%
その他	29	10	19	2	14	13	24	5	5	11	5	8
	3.3%	2.3%	4.6%	2.0%	5.3%	2.7%	3.8%	2.3%	2.5%	7.1%	2.2%	3.1%
無回答	56	27	28	4	11	39	35	16	8	7	18	21
	6.5%	6.2%	6.8%	4.1%	4.1%	8.0%	5.5%	7.4%	3.9%	4.5%	7.9%	8.1%

■ その他の内容

◇全て必要。(同意見多数)

◇相手を思いやる心を育む。(同意見多数)

◇基本的に独り暮らしができる「訓練キャンプ」はどうだろうか。小学校高学年から中学生のころがおすすめ。トレーニングキャンププログラムの中に、そうじ・洗濯・朝めし・昼めし・晩めし・針と糸を使うつくり物作業を取り込むなど。

◇男は働くといけないとか、女は家庭を守らないとならないとか固定観念をなくす取り組みが重要。だが、一方で子供は女性しか産めないし肉体的な労働など男が向いていることなどたくさんあるので、役割分担が1番大事。

◇各家庭で話し合えば良い。あまり会社が個人に合わせ過ぎると国力が低下するし、家庭が会社に合わせ過ぎても負荷が強くなる。合わなければ自分の頭で考えて環境を整えていきましょう。

◇男女関係なく得意な分野で仕事・家庭で生かせるスキルを身につける。学ぶ場所が屋久島に少ないでの、オンラインでできる情報を提供してほしい。

◇そもそも男女を意識しない。

◇休暇制度を充実させる。

◇差別と区別をしっかり理解する。

◇個人の自由を認めれば良い。国自治体が関与することではない。

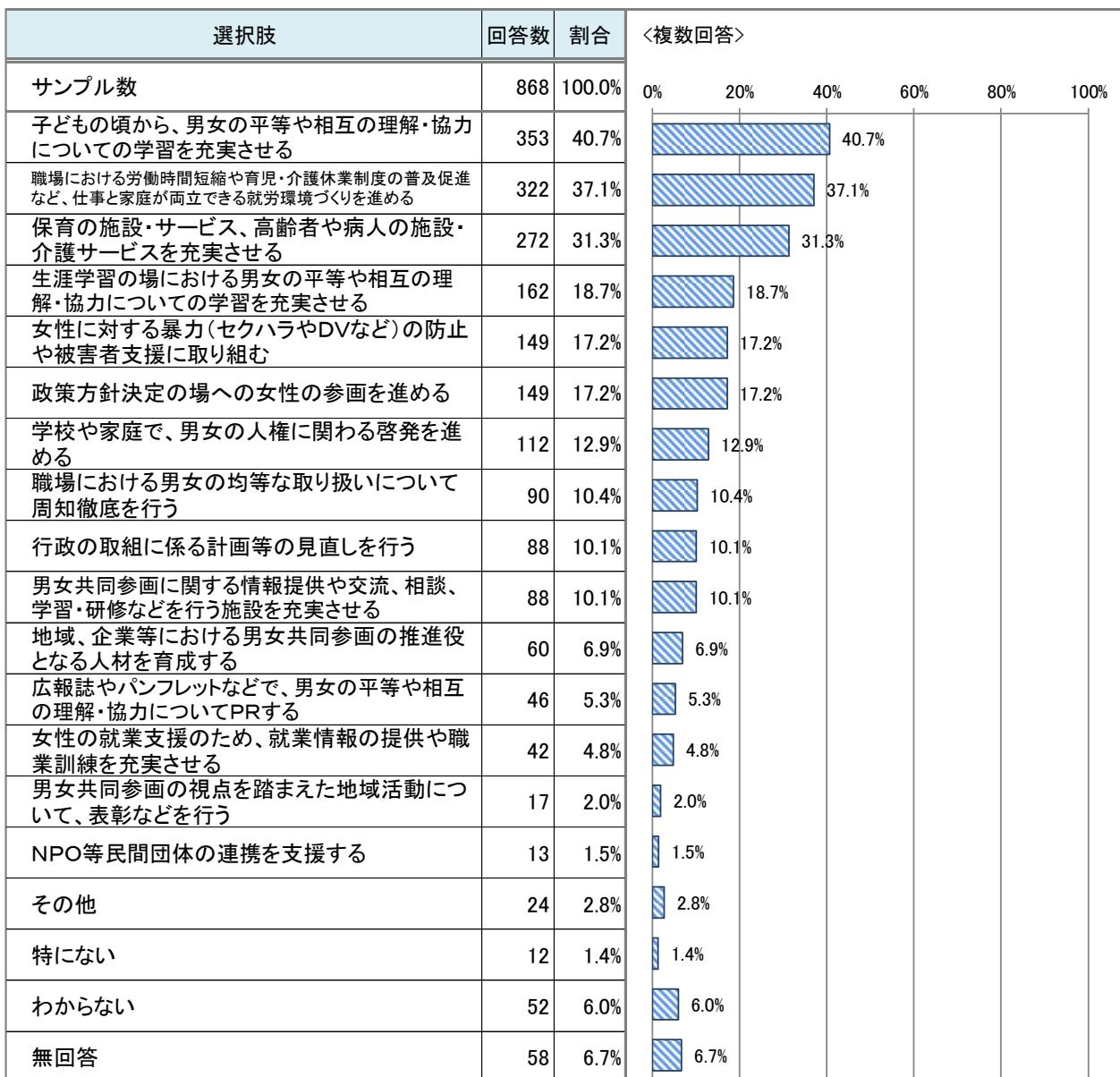
◇女性の積極性。

◇子どもの頃から地域の活動に参加する。

問26

あなたは、「男女共同参画社会」を形成していくために、行政は今後どのようにこと
に力を入れていくべきだと思いますか。(○は3つまで)

「子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる」が40.7%と最も高く、次いで「職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める」が37.1%、「保育の施設・サービス、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実させる」が31.3%となっています。



	単純集計	性別		年齢三区分別			婚姻状況別		年齢×性別				
		全体	女性	男性	18～39歳	40～59歳	60歳以上	既婚	未婚	18～59歳女性	18～59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
			868	436	413	98	266	490	631	216	204	155	229
サンプル数		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
行政の取組に係る計画等の見直しを行う		88	38	49	12	26	49	67	20	18	19	19	30
子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる		353	181	165	43	111	195	271	76	91	62	90	103
生涯学習の場における男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる		162	77	81	17	58	84	124	35	42	31	34	50
学校や家庭で、男女の人権に関わる啓発を進める		112	52	58	17	38	57	82	30	25	28	27	30
広報誌やパンフレットなどで、男女の平等や相互の理解・協力についてPRする		46	21	25	2	8	36	35	11	8	2	13	23
女性に対する暴力(セクハラやDVなど)の防止や被害者支援に取り組む		149	88	57	22	46	77	107	38	43	24	44	33
政策方針決定の場への女性の参画を進める		149	66	80	14	38	95	105	41	32	20	34	60
職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う		90	48	41	11	31	47	62	26	24	18	24	23
職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める		322	193	120	47	93	176	236	79	100	38	93	82
保育の施設・サービス、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実させる		272	142	124	23	80	164	204	63	59	44	82	80
女性の就業支援のため、就業情報の提供や職業訓練を充実させる		42	24	18	5	17	20	30	11	13	9	11	9
地域、企業等における男女共同参画の推進役となる人材を育成する		60	23	37	1	20	39	48	12	11	10	12	27
NPO等民間団体の連携を支援する		13	7	5	2	3	7	9	3	3	2	4	3
男女共同参画に関する情報提供や交流、相談、学習・研修などを行う施設を充実させる		88	45	42	5	15	68	60	27	12	7	33	35
男女共同参画の視点を踏まえた地域活動について、表彰などを行う		17	10	7	4	7	6	13	4	8	3	2	4
その他		24	8	16	2	13	9	17	7	5	10	3	6
特にない		12	3	9	1	5	6	8	4	0	6	3	3
わからない		52	25	25	8	17	26	32	18	11	13	14	12
無回答		58	25	31	2	11	42	37	14	5	8	19	23

■特に力を入れるべき事項上位3項目(年齢×性別)の割合

項目	全体	18～59歳女性	18～59歳男性	60歳以上女性	60歳以上男性
1位	子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる	職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める	子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる	職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める	子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる
2位	職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める	子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる	保育の施設・サービス、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実させる	子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる	職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める
3位	保育の施設・サービス、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実させる	保育の施設・サービス、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実させる	職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める	保育の施設・サービス、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実させる	保育の施設・サービス、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実させる

■ その他の内容

【女性の意見】

- ◇ 育児：介護全て男女問わずできる人がやる。そのためには、男女ともに経済的に自立していれば可能と思う。なので小さい時から平等教育が大事、子供を育てる人材がそのような教育受けていることも大事、指導する人材の選定が大事だと思う。
- ◇ 弱者（子供、高齢者、病気の人、障害のある人など）に対して、特に力を入れていくことが大切だと思う。
- ◇ 今現在働いている大人たちが意識を変えること。すでに男女の役割のバイアスがかった状態をなくすこと。
- ◇ 専業主婦（夫）差別、いじめをなくす。
- ◇ 主導的立場の層の世代交代や意識の変化。
- ◇ 家庭教育の大切さの認識を。
- ◇ 余計なことはしなくて良い。
- ◇ 男子だけの学習を実施。

【男性の意見】

- ◇ 自営業、起業へ支援金、給付金の充実。男女問わず働きすぎで余裕がなく金がないことがすべての問題の原因。自立支援が必要。男女は違っていい。平等である必要はないが、すべての人は公平であるべきだ。
- ◇ 男女共同参画自体が必要だとは思わない。警察が事件に真剣に取り組めば問題の大半は解決できる。イジメのような不平等にしたってそう。問題のある会社なんだったら自分に合う所に行けば良い。
- ◇ 特に能力もないのに「女性だから」という理由で、後職に就けたりしないように！差別はよくない。
- ◇ 女性は、「セクハラ」といえば有利になると思いすぐに発言するが、それは「パワハラ」ではないだろうか。
- ◇ 男子の責任のようになっているような考え方や習慣についても減らす、改める。
- ◇ 女性の地位の向上を、行政も積極的にすすめる。
- ◇ そもそも国の方針に疑問を持たないといけない。
- ◇ 3つに絞れない、ほぼすべてが重要である。
- ◇ 基本的人権の尊重。それに全て含まれている。
- ◇ 男女の区別以前に教育（道徳）を改める。

【18～39歳 女性】

- ◇女性を前に出そうと枠を作り、そこに女性であることを理由に枠を埋めるよりも、能力のある人ならば男女どちらであっても登用すべきと思う。それこそが男女平等なのではないか。女性だからと優遇すると、逆になんのハンデもなく結果を出し続けている人を男女問わず不甲斐なく思う。(本当に能力のある女性であっても、その枠に当てはめることで能力を認められたのではなく女性であるから登用されたと思われることもある) 働いている子育て世代の女性も、ほんとうに働きたい/働く必要がある人はなんとかしてでも働く。看病休暇などはありがたいかもしないが、子がなく働いている人たちにも同じだけ休暇を与えることこれもまた「平等」ではない。手当や休暇より、病児保育サービスや地域で見てくれる人との繋がり作りなどを推進すべき。本当の”平等”とは何か?は一度考える必要があると思う。相手が誰でも思いやりを持って相手を大切に接することが1番。
- ◇そもそも男女共同参画が本当に必要なことなのか。社会への男女共同参画が進めば少子化がどんどん進むのではないかと思う。少子化が進めばそもそもその人口が減り、男女共同参画の前段階の話になるのではないか。もちろん、男性にはない女性目線の意見が必要な大事な場面が必ずあると思う。男女差別をすることはよくないが、共同参画をどんどん推進することは本当にいいことなのかと現段階では考えている。現在、私はフルで勤務をしているが、家事、育児の両立は正直大変で、女性の社会参加が進めば進むほど妊娠、出産、子育てに向く気持ちは低くなるのではないか、と考えている。もう1人子供は欲しいけど時短勤務が終わったらやっていけるかな、という不安がある。とりとめがないが、男女共同参画に関する今の考え方である。
- ◇・男性だから採用の機会が増えているや、女性だから雇用機会を増やす・DVを受けるなどという風な考えになってしまっていることが課題だと思う。
- ・男女が平等に暮らせる社会にするには、性別にとらわれず、その本人の技量や能力で人々が判断していくような社会・考え方になることこそが必要だと思う。
 - ・まずは男女共同参画というものの方そのものを見直して、みんなでその部分を話し合っていくような環境を整えることが性差のない世界を創り上げていく第一歩になると思う。
- ◇地域の活動がまだまだ男性優位であり、仕事中も食事やお茶の準備等、仕事の範囲をこえたことを要求されることが多い。高齢者が多い以上この習慣は変えられないと思っている。全体の認識を変えるより、個人で主張しても拒否されない「主張してもいいんだ」と思えるかが大切だと思う。教育や支所で女性に向けた勉強会やパンフレットの配布を行い、男女共同参画についての知識を広めてほしい。
- ◇男女の役割意識について島独特の考え方があるように感じ、意識も他の人口の多い土地に比べかなり遅れているように感じる。高齢の方は男女関係なく男尊女卑が当たり前で、それを見て育った今親世代の人たちもそれを受け継いでいるように感じる。妊娠期間からの夫の家事育児参加の重要性など、男性に向けた教育を充実させていただきたい。
- ◇正直、私の周りでは、男女の不平等をあまり感じたことがないが、このアンケート内でも「女性がこれをすることにどう思うか」等、すでに男女それぞれでくくる不平等感を少し感じた。とはいって、私自身意見はあるものの無知なため、自身のためにもこれからを生きる子供のためにも知っていく努力をするべきだと感じた。
- ◇政治家や組織の中で上の立場の人はまだまだ男性が多いと感じる。様々な事柄を取り決める場にもっと女性が進出できる社会になるといいなと思う。都会と比較すると、屋久島は男女差が少ないと感じる。
- ◇男性だから、女性だからと枠にとらわれすぎるのも良くないが、男女のニーズの違いを認めて、意見を出し合える環境づくりができる、互いに協力し合える社会にしていくことが大切だと思う。

- ◇屋久島町の企業様方が、男性が育休をとりやすい働き方や、賃金の補助等を検討してほしい。まだ都会ほど、そういった取り組みをしている企業様が少ない気がしている。
- ◇男女共同参画に関連深い用語で初めて聞く用語を調べてみました。良い機会となった。
- ◇区費の支払額が、男女によって差があること。
- ◇本当の意味での男女平等を実現して下さい。

【18～39歳 男性】

- ◇ 問題点 1. 意思決定の場に女性が少ない。県内では多くの市町村が「女性活躍推進計画」を策定している一方、屋久島町は「専任の男女共同参画担当」が不在であり、庁内連絡会議のみでの運営体制に留まっている。全国的にも地方議会や行政の指導的ポジションにおける女性比率は低く、日本全体で町村議会の女性議員は約8.9%に留まっており、屋久島町でも状況は深刻と推察される。
- 2. 無意識バイアスや性別役割意識の根強さ 学校・家庭・地域において“当たり前の性別役割”意識(アンコンシャス・バイアス)が根強く、女性の発言・意見が政策に反映されにくい構造がある。「女性だから家庭を優先すべし」という文化的圧力や、LDPでも旧態依然とした候補者選定プロセスが見られ、女性が行政や議会に進出しにくい傾向は日本全体の課題である。
- 3. 支援・制度整備が遅れている 配偶者からの暴力(DV)防止策、被害者支援体制、自立支援などの整備は進んでいるものの(町はDV防止計画を持つ)、屋久島町内では女性参政のための具体的支援策(育児支援、議会参加のサポートなど)は未整備である。

解決策 1. 「職員体制」の強化 屋久島町にも、専任の男女共同参画推進室や担当課の設置を行うべきである。行政内に専責人員を置き、推進会議だけではなく、施策の立案・実行・評価まで一貫した体制を整備。

2. 意識改革と教育啓発。学校・家庭・地域での意識改革が不可欠。アンコンシャス・バイアス研修や、男女共同参画の講演・ワークショップを定期的に開催し、女性の発言や参画を当たり前にする文化醸成を。

3. 参画支援の具体化。議員立候補を目指す女性への支援制度を導入。例：育児・介護支援付きの勉強会。キャンペーン期における家事代行や子育て支援サービス補助。女性同士のネットワーク強化とロールモデル紹介。

4. 数値目標と制度的措置(ポジティブ・アクション) 行政や議会への女性比率(例：30%)を目指し、数値目標を公表・実績に応じてPDCAを回す。予算もジェンダー視点で見直す「ジェンダー予算」を導入し、参画促進策へ資源配分を透明に。

5. 当事者参加の仕組みづくり 「女性100人の会」のような女性の声を集約するフォーラムを設立、公募やネット募集で多様な年代・背景の女性が参加できる場を設ける(実際、2019年定例会でも提案があった)。

6. モデル共有・他自治体連携 鹿児島県内の先進自治体(長島町・湧水町など)は「女性活躍推進計画」や推進協議会を設置済。屋久島町もこの成功例を自治体間連携で共有・導入すべきである。

- ◇女性も男性も生き生きできる職場及び環境を町が主体となって広報してほしい。屋久島では移住者も多いと思う。移住者が取り組んでいることは実際に、多くが魅力的なことばかりである(教育面では特に)。若い人が魅力的な活動をしている中で、町はあまりアピールできていないと感じる。また、町が魅力的な活動をあまりできていないと思う。もしされているようでしたら、もっとアピールすべきだと思う。今、屋久島に住んでいる人(移住者含む)と協働してほしいと思う。

- ◇男女ではなく、町としてどう良くするのがいいかを俯瞰して見れるかどうかだと思う。男女共同参画で女性の役割割合を増やすのがゴールになってしまっているように感じる。男女問わず「町として良くなっていくためにはどう配置するか」が大事だと思う。その際、配慮したいのに何らかの障害で女性の登用ができないなら、その改善はすべきだと思う。パフォーマンスではなく、中身が伴った政策、効果のある政策をしてほしいと思う。

- ◇そもそも町が取り組んでいるであろう男女共同参画社会に対する考え方や「取り組んでいること」というのが良く分かっていない。「鹿児島の人は男尊女卑だ」という話があるが、そのような傾向がある人には、考え方のアップグレードをしてもらう必要があるというだけではないか。逆も然りである。民間企業でも、役場のような公的な機関でも、賞与や昇給を男女間で差別しない。ただそれだけで良いのではないかと思う。
- ◇鹿児島県、屋久島もそうだと思うが男性が優位な立場にあることが多いため女性の視点に立った政策をすすめることが今後の地域のあり方に大きく影響していくと思う。改善されないと若い女性はどんどん都市部に流出していく。
- ◇屋久島という離島の中では、昔ながらというか「男は外で女は家庭で働く」という雰囲気が少し残っていると思う。そこを無くしましようという活動や PR 等を行ってもしばらくはアンコンシャス・バイアスは残ることになると思う。
- ◇子どもの行事等で有給休暇を確実に取得できるように、人員不足等を確立してほしい。
- ◇女性区長率など、男女共同参画に関して目標数値を設定して計画を策定してほしい。

【40～59歳 女性】

- ◇日頃より屋久島町の積極的な取組に深く感謝申し上げ、より一層住みやすい町となることを願い、男女共同参画の推進に向けて、以下の提案をさせていただく。高齢者と若い世代が共に参加できる「地域スキル交流カフェ」の設置。無意識のバイアスを払拭するための教育機会やイベントの開催（イベント内容を記録・編集して YouTube 等で公開することでイベント不参加の方にも広く周知できる（プライバシーや収益化オフモードなど配慮する））。NHK 教育番組などの良質な映像コンテンツを活用し、町内各所で上映する。このような取組を通じて、今後とも屋久島のさらなる発展と、誰もが尊重される社会の実現を心より願っている。
- ◇個々で直面し変化を求めていくには、限界がある。ニーズに合わせて変化してゆく事もあるが、世界的な今的一般的な価値観、在り方への対応や集合意識は、離島や田舎の意識を底上げするには、行政や地域社会での仕組みづくりや取り組みがあってこそだと感じる。屋久島で必要重要なポイントは様々なサポート（子育て、福祉、社会活動）の充実を図るうえでの人員不足。外からも招くための住む場所の不足。地域の方に活躍していただけるようにするための福祉の充実を望む。目指すは、男女を超えて、それぞれの得意や特性をいかせて、選択できる社会づくりだと思う。
- ◇女性だからとか、男性だからとかではなく、相手を思う心があればいいのかなと思う。この世に男か女で生まれてきた以上、心や体の病気以外は生まれてきた自分を大切することが、他の人も大切にできると思う。昭和の人達が当たり前だったことが、今は当たり前ではなくなってきていて、その辺の価値観の違いはなかなか埋まるのは難しいところもあると思う。町の職員だけでなく、普通の子育て世帯を会議などにいれるといい案が出るのではないか。
- ◇男女というより、人々がお互いを尊重し、協力し合っていける世の中になればいいと思う。残念ながら男性優位であり、先輩方の話（昔の話）を聞けば、女は男に従うのが当たり前で、暴力等も日常的、そういう社会で育った人々の概念を変えていくのは時間がかかると思う。世の中も少しずつ変わり、今の10代、20代の子どもたちは教育の中でも学んでいるだろうし、そういう子どもたちが大人になっていく頃に変わっていくのかなと思う。
- ◇私は、自営業の夫を手伝っているため働きに行っていない。末っ子が年長、次女が2年生なので、9時から13時くらいで週3日（平日のみ）くらい働けたらベスト、かつ急に休んでもOKな職場があれば働いていると思う。女性は出産前後休まなければならず、最近も産休が重なって職場がまわらない、といったことがどうしても発生してしまうと思う。「産後復帰しやすい職場環境を」よりも、子育てをじっくりしたほうがいいと思う。
- ◇先日の参院選では、鹿児島発の女性国会議員が誕生して（しかも自民党ではない方）、そのことが今後の発展につながることを願うばかりである。男女は、役割は違っても能力に差はないと思う。日

- 本に根強く残る男尊女卑が少しづつ崩壊しますように。お互いに理解し合うことは難しくても、協力し合える関係が築いていけるとよいと思う。人間同士（同性同士）でも至難のわざではあるが。
- ◇町報で具体的な内容を知らせる（写真等）コーナーを作つてはどうか。配偶者側にも、家事や家計管理（生活に必要なすべてのものやライフイベントにかかること）、家族の体調管理やスケジュール管理、生活のための仕事の調整を望む。それが普通の世の中になれば、女性が職（正規）を持ち、一人分の税金を納め長く働き続けることが可能かもしれない。
- ◇アンケートの質問自体が「男が決定するのが当たり前で、家庭のことは男が参画するという視点」が見える。「個人の意思決定を周りの人達がとやかく言うのが当たり前という概念」の中にあることがおかしいと思う。自分のことは自分で決める。夫婦のことは夫婦で決める。男だ、女だという前に一人ひとりがどう生きたいかを、自分も周囲も大事にするべきではないか。役場の人達の意識が進んで、「前提」が変わると、共同参画の意識もだいぶ変わると思った。
- ◇屋久島の親御さんは、子供の送迎で時間を奪われることが多いと思う。そしてやはりママがそれをしていることが多い。巡回バスがあれば、そもそも時間が生まれ共同とか平等とかを考える余裕も生まれる。老年においても移動しやすくなることで、気持ちも体もプラスになる要素、虐待などの軽減にもなると思う。
- ◇男女平等とはいうが、女性は女性でひとり親世帯としてかなり優遇されているように思う。しっかりとした実態調査を行つてほしい。ひとり親でも男性はしっかり働かれているところが多いが、女性の場合はパートで生活できているところが多く、それだけ女性が優遇されている部分も多いようだ。
- ◇私は、男性と女性の違いは、もちろん力も違うが、子供を産めるか産めないかの差しかないと考える。私は「女だから」という言い訳が嫌いである。男女平等というのであれば、女性ももっと自立できるくらいにならねばならないと思う。もっと女性に頑張ってほしい。
- ◇各職場、学校で積極的に男女共同参画の研修をしたり意見反映を達成出来るよう努力すべき。また、育児や介護などの休暇を申請したら、男女どちらでも、取得できるよう職場に指導していってほしい。また、育児や介護で退職された人の復職をできるようにしてほしい。
- ◇まず、婦人会が地域に残っている。区の運動会終了後など、男性陣はお酒を酌み交わして宴会などをして後片付けは女の役割りのような封建的な風習が残っている。特に高齢男性から中年男性はそのような意識が変わらないように見受けられる。
- ◇新しい考え方を聞いて（取り入れて）集落を良くしようという意見が出ても、「こうあるべき、これまで通りで」という考え方を持っている人の意見が強くてなかなか変わらない。言っても変わらないと、働き世代の気持ちが落ちていってしまうのが心配です。
- ◇人権や人の尊厳の大切さなどを、重んじることができない風潮が地域において根強く大きい。人は男女差でも、能力差でもない。人を優しく育てる、大切に思うことができる町づくりが必要。この町は、人に優しさを感じないことが多く、とても悲しい。
- ◇島民として思うに、屋久島町の行政の在り方（男性中心の議会など）を、変えていくことがまずは大切だと思う。このアンケートも、果たして本気で取り組む気があって行っているのか？それとも国や県からのお達しでしているのか疑問である。
- ◇男女平等はとても大切だが、男性らしい、女性らしいが、否定的だけでなく、肯定的な面もあるので、個々に寄り添ったサポート（の場）があるといいと思う。老若男女ジェンダー問わず、住みよい社会、職場、家庭が何よりと思う。
- ◇地域行政の中の活動で、打ち上げ、飲ん方、反省会等があるが、準備片付けを女性がすることが多い。朝早く、仕事を休み、夜遅くなる。良いやり方がないか、男女問わず協力できる体制ができるないか、見直しが必要と思われる。
- ◇会合等で女性がお酒や食べ物を出し、男性が座っているという型があると感じている。女性は子どもを産むという体の機能があるのはしかたないが、その差しかないという考え方を皆が持つてほしい。

い。

- ◇男女それぞれに不満があると思う。役場は丁寧に耳を傾け、町民が一人の人間として、地元屋久島のために協力し、生き生きとした生活を送ることができるようサポートをしていただきたいと思う。
- ◇屋久島町では「子育て」は女性が行い、頼るべきは親族、という考え方方が根強くのこっているように強く感じられるため、社会で子育てができる環境を作っていくことが課題であると感じている。
- ◇男性には男性の、女性には女性の役割があると思う。身体の違い、感情など、基本的な違いがあるので、全てを平等にしなければいけないという考え方自体を強くしていくのも違うと思う。
- ◇町を作る人たちが、世界各国でどんな取組があるのか外を見て学んでほしい。島のレベルで物事を考えるのではなく大きな枠で考え、発信できる役場になってほしい。
- ◇弱者に対して、手厚い保護、援助のある地域であることを願う。職場、地域には、ハラスメントも見られる。自らができる小さなことを大切にしたい。
- ◇子供のころから、人に対しての「やさしさ」、男女平等などの教育。道徳の時間の重視。大人になって言われても、なかなか変われないと思う。
- ◇近年、学童など充実してきているようで安心した。子育て世代の方が働きやすいように、学童などの受け入れを支援していただきたい。
- ◇地区、地域、会社の行事の際（懇親会などの飲酒を伴う場）に、女性が食事の準備や世話をしていることに違和感を感じている。
- ◇日本文化にそった常識的な行動をするだけで良いと思う。欧米のムーブメントをわざわざ日本に入れる必要なし。
- ◇田舎ならではの古い考えが残っていて、男女平等ではない雰囲気がある。それを改善していってほしい。
- ◇若い人が少ないがゆえに、男尊女卑的な考えを持つ方も他の地域（都心など）に比べて多く感じる。
- ◇屋久島町の、特に集落では、男性が役職に就くといった固定的な概念が強すぎると思う。
- ◇集落の行事など男女、年代関係なく参加したほうが良いのではないか。

【40～59歳 男性】

- ◇適齢期の女性は、どうしても出産の負担という女性ならではの女性にしかできない人生の時間がある。働き続ける女性にとって、出産による社会生活の中止はその後の復帰に大きな負担となるような気がする。少子化社会での大きなジレンマではあるが、社会全体で子供を産みやすい、育てやすい、民間・行政・地域社会での理解が必要だと思う。
- ◇地域リーダーに女性の声を（意思決定の場に女性が少なすぎる）。男性の育児・介護参画の当たり前化（父親講座、ロールモデルの発信など意識改革が必要）。誰もが働き続けられる町づくり（育児や介護で仕事をあきらめざるを得ない人が多い。キャリアアップを断念せずに済むように再就職支援、スキルアップ、テレワーク環境の整備が急務と考える）。
- ◇体力的な面や運転技能など男性のほうが向いていることもあり、一概に平等とはいかないと思う。一方で女性自身も地域の活動などにおいて、率先して区長やPTA会長になろうということがないので、共同参画といつても、個々の意識から変わらないと進まないのではないかと思う。意識が変わらないなら、行政が頑張っても難しいのでは？
- ◇全体として、よくわからない。男女共に体のつくりが違うため、差をつける、つけないという議論自体が時間の無駄だと思う。不満を聞くときりがない。教育も社会も家族もみな平等という考えがおかしいと思うし、「やりたい事」よりも「出来る事」を個人がしっかりと捉え、権利と義務の双方をバランスよく捉える教育が良いと思う。
- ◇女性を色々な役につかせる事は大切だと思うが、まずは、その役に適した能力があるかで判断すべきだと思う。能力不足だが女性の数が少ないから女性を役に増やす考えは間違っている。逆も同じ

で、男性に能力が不足しているのに役を与える事も間違っている。性に関係なく能力で色々な役は決めるべきだと考える。

◇昭和の時代から行われていた「立場の強いものから弱い者へのあらゆるハラスメント」が今も続いていることが、男女共同参画を遅らせる原因の一つだと思う。家庭、職場、地域社会全体が過去の認識を改めるには、「ハラスメントは犯罪である」ということの周知徹底と、もっと厳格な法整備が必要だと思う。

◇女性が差別を受けていたり、女性が被害を受けているといったことは、もちろんなくすべきだと思うが、男性に対する「これは男のことだ」とかも考えていかないといけないと思う。(屋久島町だけではないと思うが) ある意味「男卑女尊な面」も改める必要がある。

◇昭和の頃と比べて男女共同参画は確実に進んでいるが、それと町民の幸福度はどう変化しているか。町の財政の変化や一世帯あたりの収入(物価)の変化なども含めてトータルバランスで考えていくべき問題だと思っている。

◇女性の数を増やせば良い等の安直な改革は止めてほしい。国会を見ると特に思う。能力のある人(男女問わず)はどんどん積極的に良いポストへ移動する等、人を見る政策の実施を。トップの考えが古そうなのでトップの意識改革が大きな課題になるのではと思う。

◇男と女は違っていていい。平等である必要はない、ただ性質に応じた役割、向き不向きを理解し、性差ではなく個人に応じた適材適所がはかられるべきだ。公平さは社会に必要だが、それはもはや男女差という話ではないから論点が最初からズレている。

◇男女の性別を問わず、慣習や家柄に関わらず能力のある人が上に立てるようにすること。屋久島町に限らず日本の田舎は古くからの人間関係だけで役職や立場が決まる。これを正さない限りいくら法律を作っても無駄だと思う。

◇男性よりも女性が差別されており、この状態を改善しなければならない、という前提での質問が多いが、その前提が現実からずれている気がした。女性の方が優遇されている場面も大概ある。

◇男女それぞれに役割があると思うが、特に集落においての行事など、まだまだ古い習慣が存在する。片づけはいまだに女性の仕事になっている。集落単位でも取り組むべきだと思う。

◇田舎は都会のようにはいかないと思う。表面的な男女共同参画や平等は言葉だけであまり意味がないし、計画を作っただけで終わるのではなく、役場の考えも発信してほしい。

◇これからに対しての少子化、人口減少の重要性の理解。全国地域での賃金格差と生活コストのバランスなど地域に見合った特性の深掘りから見直しや取り組み。

◇当面の間(※男女差別がいわれなくなるまで)は、男女の採用数、昇進時期など同等に進めていくことで、不当な差別はなくなっていくのでは。

◇田舎のため、アンコンシャスバイアス(無意識の思い込み)が根強いように感じる。啓発活動を他地域より充実させる必要があるように思う。

◇性別を分けて考えている時点で、取組が遅いし、古い。個人(性別は関係なく)が力を出せる町にしてもらいたい。

◇庁舎はもちろんのこと、公的施設のトイレをきれいにするなど、女性が過ごしやすい場所を作ってほしい。

◇女性が・女性を という考え方自体が片方からの視点であり、男女平等と言えるのか疑問。

◇男性に対する偏見の防止(「～あるべき」)。

【60歳以上 女性】

- ◇男女共同参画は大事なことと思う。人々がより良い社会を実現するためには、男性とか女性とかいう前に、もっと「人間である」ことの意識を持つことが大事であるのではと思う。閉鎖的なこの地域にあって、固定観念に縛られ、思い込み、子供や老人、障がい者など、弱者を思いやる人のなんと少ないこと。自分だけ、自分の家のことだけ、流行りの自分ファーストやエゴであろうか、他者を顧みない人が増え多くなっていると思う。だが、この現状を好転していければ男女共同参画社会も実現の方向へ明かりが見えるのではないかと思う。底に根付いている暗闇に、行政の力が届きますよう期待しております。
- ◇今の若い方は「ご主人は何でもできて当たり前」の時代になってきつつあると思う。子育て、育児によく協力している方もいる。例えば、昔は、主人は食卓に座ったら動くことなく「オーライ箸、オーライあれ持ってきて」等、まるで女性が動けとばかりに「オーライ」ですませていた。今は違う。共に助け合って、時には話し合って出来ないことは他者に相談して良い時代。個人的には、令和の時代に結婚したかった。昔のような男性は、今ははやらないと娘らは言っている。何でもできる、できたほうが老後の自分のためにもなると思う。このことは主人にも伝えている。
- ◇介護のために仕事を辞める人もいると聞いたことがあるが、今までショートステイを利用していたが、2か月前に予約しないと取れなくなった。介護施設の利用が取りやすいようにしてほしい。仕事にも安心していける、介護休暇で仕事を休めるような職場の理解も欲しい。空家がたくさんあるが、貸してくれる家が少ない。仕事と生活を両立させるためにも、どの集落にも住める家があるとよいと思うが、集落を気に入り、来てくれても住む家がなかった。自分らしく生きるため、男女共に住みやすい屋久島にしてほしい。
- ◇男女平等や男女共同参画に関して、住民の理解は少しずつ進んできていると思うが、今後も引き続き啓発や研修会等を行ってほしい。子供を産んでも、親の介護があっても、仕事を続けていけるような環境整備は必要（保育や介護支援等を充実させて、安心して仕事を続けられる環境整備）。ワークライフバランスが整う環境整備を民間任せにせず、町主導で行ってほしい。困っている人には、キャリアアップのための補助支援等ができるとよい。
- ◇役場で女性課長をもっと増やしてみたらどうだろうかと思う。役場勤続年数で役職決めるのではなく時には役場とは関係ない人で屋久島のために情熱的に何か役に立ちたいと思っている人に総務課長をして頂いたり、福祉や介護関係も地域に専門的な知識を持つ人がいる。地域にいる知識豊富な方々に協力して頂いたらいかがだろうか。このアンケートもよい取組だと感じるので、現場に本当に生かして欲しい。
- ◇私としては、男女共同参画については賛成である。出産に伴う産休ももちろん賛成である。しかし、産休で穴の空いた仕事をやらなくてはならない、ほかの社員の方々への議論はなにもされていないように思う。それぞれの会社のことになるので、行政が入りにくいのも理解できる。でも、現実に残された社員の方々に負担がかかっているのも事実である。これは国全体の問題である。
- ◇人口減少が進み、若い働き手が足りない。結婚しない男女、子供を産まない家庭もある。働く女性が増え、家庭で料理や育児に割く時間が少なくなっている一方、男性は協力的になったものまだまだ台所に立つ人は少ない。屋久島町の未来のために、子供を安心して産み育てられる環境を目指して、職場、地域で身近な人同士出来ることを話し合い取り組みたいものである。
- ◇とても読みやすく、内容も充実しており、わくわくしながら回答できる調査票であった。（遠い昔、夏休みの宿題「夏休みの友」のページを初めてめくる時の、あのわくわく気分がよみがえり、脳細胞がリフレッシュした感じでしたよ）この冊子を作製した皆様に感謝である。
- ◇基本は、上に立つ人の心の持ち方ではないだろうか。地域の活動にはボランティアが男女を問わず積極的に参加を呼び掛けてくれている。少ない高齢者のチームで、新しいことを企画して楽しくやっているようだ。
- ◇最近の若者は、意識も高く、夫婦共働きで、家事も育児も分担している人が多くなっているように

感じる。女性が強くなったのだろうか。子供のころからの教育が必要だと思うし、親を見て子どもは育つので家庭環境も大事だと思う。

- ◇実際にアンケートを行っているが、アンケートをとるだけでは前進しているとは言えないので、積極的に一つずつ解決してほしい。いろいろな面で島外へ研修を行っていると思う。他自治体の良い取組を参考にして、屋久島でもどんどん進めてほしい。期待している。
- ◇男女ともに自分の資格、技術が十分仕事に生かせることで、男女共同参画に参加できると思う。生かせていない技術、資格を持っている人たちが多いのではないかと思う。年をとっても働きたいと思っている方もいらっしゃるのではないかと思うか。
- ◇小さい時から、男だから女だからという教育を、同じなんだという考え方ができるように。どちらにも依存せず自立できればいいと思うが、男性も女性も教育が大事ですね。
- ◇男性も女性も共にそれぞれが差別を受けることなく仕事を続けられる環境整備についても熟慮をお願いする。子どもを育てている女性が働き易い職場作り等々。
- ◇友達同士ではいろいろ話はしたことはあるが、男女共同参画とはあまり耳にしたことはなかった。自分自身これから勉強しなくてはと思った。
- ◇私たちの集落はいつまでたっても女性の区会議員が誕生しない。行政がもっと各集落への男女共同参画の研修を開催してほしい。
- ◇成人式や金婚式などの祝い事を以前のように充実させ、男女が共に助け合い、ともに長生きしようと思う取り組みをしてほしい。
- ◇老人の男性でも、簡単に作れる料理教室を開催してほしい。女性も一緒にでもかまわない。よろしくお願いします。
- ◇この事が、町民にも具体的に見える化してほしい。また、町民とも一体化されるような行政を希望する。
- ◇男性女性に限らず、他の人、個人を尊重し敬意を払うマナーが守られると良いと思う。
- ◇若い人達の子育て、生活がしやすい環境づくりに取り組んでいただきたい。
- ◇女性目線での観光客誘致のための参画。
- ◇P R 元気な女性の紹介イベント。

【60歳以上 男性】

- ◇各集落の共通課題として、生産労働稼働人口が減少、産業構造の多様化、少子化高齢化がある。将来、町財政を支える税金を納付してくれる子供たちに税金、財源を多く充てることが何より重要だと感じる。現在、集落の評議委員は 50 年ほど全員男性の状態が続いている。しかし集落の半分は女性である。女性も生活・就業しているにも関わらず、男性だけの視点、考え方、様々な行事や計画を進めてきたため行き詰まっていると感じる。せめて 2 名の女性枠を設けたり（クオータ制の導入）、ダイバーシティの観点から属性にかかわらず他業種の人に入ってもらい、様々な視点から計画立案していく必要性を感じる。そのためにも、規約や取り決め事項などをゼロベースで見直し・構築して、女性の意見や提言を受け入れていくくらいの覚悟がなければ、時代に取り残されていくのは目に見えている。時代とともに変えていくものと、時代が変わろうとも変えてはならないものの仕分けが必要。手を打たなければ 5 年 10 年先は確実に各集落が衰退していくことが予想される。
- ◇この問題を考える時に大事なのは「男性と女性は身体的に違う」とこと、「男女の人权、社会参加の機会は平等である」こと。この 2 つが混同されている点に気を付けなければいけない。男性は子供を産めない。身体は男性のほうが強い。これらは身体の違いであって、社会参加の機会とは違う。それらの違いを考慮しながら男女共同参画社会を目指すことが大切だと思う。
- ◇我が町、ひいては日本には、まだまだ男尊女卑の意識が根強く残っていると考えられる。人間の思考や習慣は容易に変革されるものではないと考えられる（変革を促す啓発活動などは大切である）。

り今後も強化・継続していく必要はあるが)、あらゆる職業・役職に積極的に女性を登用していく何らかの「仕組み」を設けていく取組がなされるべきだと感じられる。

◇私たちもこれから介護支援サービスを受けると思うので、まずは、サービスの充実を要望したい。同居することでも仕事面での迷惑(介護のための退職等)はかけたくない。また、女性が安心して出産、育児と仕事面を両立できる環境を整えることも大事であると思う(病院、公園等)。

◇村や町では、まだまだ男女の仕事分担や役割が区別されすぎている。女性が会合に出やすい時間が設定できないため、男性中心になって物事が決まるので、このような現状は続くと感じる。女性の議員(国・地方議員)が大変少数である。日本の将来のためにも改善してほしい。

◇男女共同参画の取組は難しいものもあると思われるが頑張ってほしい。要は、思いやりのある人間を育てることだと思う。教育、先生が大事、「心こそ大切なれ」という自分自身が成長しよう。生涯青春で希望があれば人生は楽しい。

◇私はある団体の長をしている時、次の会長をだれにするかという話になった時に、私の推薦する人をあげたら「あの人は嫌いだから」という理由で受け付けてもらえなかった。同性の間でも、このような意識が強く出てくる時があり困った。

◇私は戦前生まれの男性である。男尊女卑の時代を生きてきた身から、現在を眺めると、「男女共同参画社会」でも素晴らしい現在だなあと感じているが、より一層それを追及される町政に拍手を送りたいと思う。今後も頑張ってほしい。

◇女性の管理職を育てること。女性が人前で発表または指導するような人材を増やす。地域での区長や役員も女性が出てくるような環境づくりを。

◇男女がすべて平等ということはありえないでの、男性にしかできること、女性にしかできないことを理解したうえで取り組んでほしい。

◇一番大事なことは、女性の意識改革ではないか。残念ながら、島の女性は全てではないが、「楽」を選んでいるように思える。

◇行政の取組に係る計画等の見直しを行うとともに、政策方針決定の場への女性の参画を進めてほしい。

◇若い人が積極的にUターンできる環境作り(企業誘致の取組み、特産品の掘り起こし)。

◇性的マイノリティや様々な事情で事実婚を選択している人も安心して暮らせる制度作り。

◇町議や区長に女性が少ないので、男女が50%位になるよう取り組んでほしい。

◇小中学校や高校など、男女共同参画についての授業をさらに取り入れる。

◇男女共同参画に関する知識的学習の場、経験ができる場を増やしてほしい。

◇町議会において、議席クオータ制を設けてほしい。全国に先駆けて。

◇アンケートを取るだけではなく、町政に必ず反映させてほしい。

◇極性に偏ることなく、人として自由自在にあればよいかと。

◇男女共同参画についての意味を初めて知った。

◇役所の今後の取組に期待している。

◇生涯学習の多角化。

◇男女平等の町へ。

【プロフィール無回答】

◇アンケートだけで済まさず、取組に生かしてほしい。